

ブルキナファソ
ゴマ生産支援プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成 29 年 7 月
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構
農村開発部

農村
J R
17-058

ブルキナファソ
ゴマ生産支援プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成 29 年 7 月
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構
農村開発部

序 文

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、ブルキナファソ政府との討議議事録（R/D）に基づき、技術協力プロジェクト「ゴマ生産支援プロジェクト」を2014年10月から5年間の計画で実施しています。

プロジェクトの中間地点である2017年6月3日から6月23日までの間、日本及びブルキナファソ側での合同評価を通じて、協力期間前半における活動の実績の確認と評価及び後半に向けての課題の抽出と提言を行うことを目的として、JICA 農村開発部 農業・農村開発第二グループ第三チーム課長伊藤圭介を団長とする中間レビュー調査団を現地に派遣しました。

本報告書は、これらの中間レビュー調査団による現地調査や協議の内容・結果をまとめたものであり、今後のプロジェクト運営に広く活用されることを願うものです。

最後に、調査の実施にあたりご協力をいただいた内外の関係者の方々に深い感謝の意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

平成 29 年 7 月

独立行政法人国際協力機構

農村開発部長 宍戸 健一

目 次

序 文

目 次

プロジェクトサイト位置図

写 真

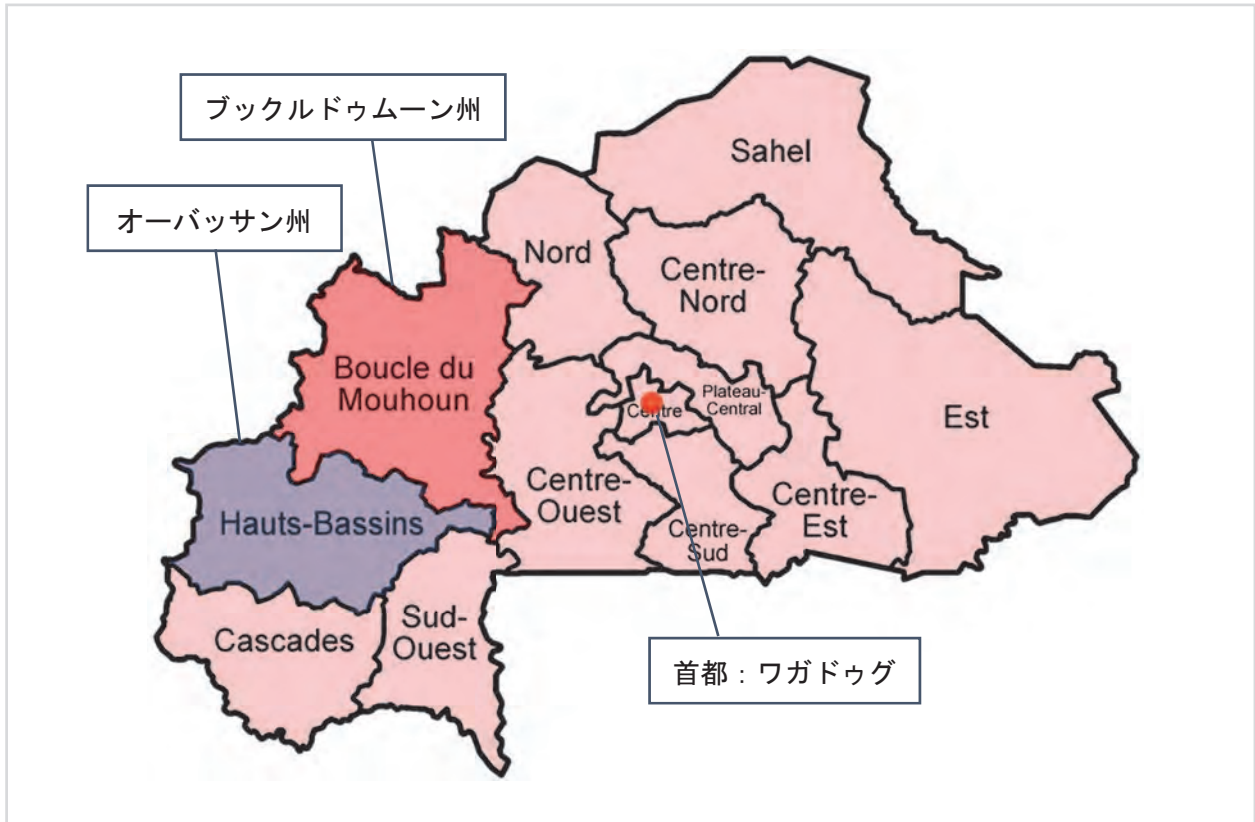
略語表

評価調査結果要約表

第1章 中間レビュー調査の概要	1
1-1 評価団派遣の経緯と目的	1
1-2 評価団の構成と調査日程	2
1-3 主要面談者	2
1-4 プロジェクトの概要	2
1-5 中間レビュー調査の方法（評価分析）	3
1-5-1 DAC5 項目評価	3
1-5-2 データ収集方法	4
第2章 プロジェクトの実績と実施プロセス	5
2-1 投入実績	5
2-1-1 投入実績	5
2-1-2 ブルキナファソ側投入	6
2-2 成果ごとの活動実績と達成状況	6
2-2-1 成果ごとの活動実績	6
2-2-2 成果の達成状況	11
2-3 プロジェクト目標の達成見込み	19
2-4 上位目標の達成見込み	20
2-5 プロジェクトの実施プロセス	21
2-5-1 プロジェクトの効果発見に貢献した要因	21
2-5-2 プロジェクトの問題点	21
第3章 プロジェクトの実績と達成状況	23
3-1 評価5項目による評価結果	23
3-1-1 妥当性：やや高い	23
3-1-2 有効性：測定不能	24
3-1-3 効率性：中程度	25
3-1-4 インパクト：時期尚早	25
3-1-5 持続性：やや低い	26
3-2 結論	27
3-3 提言	27

3-3-1	プロジェクトチームへの提言	27
3-3-2	ブルキナファソ側への提言	28
3-3-3	日本側への提言	28
第4章	団員・団長所感	29
4-1	農薬管理団員所感	29
4-1-1	ブルキナファソ産ゴマの残留農薬問題の概要	29
4-1-2	残留農薬問題解決のための基本事項	29
4-1-3	これまでのブルキナファソにおける対応状況	29
4-1-4	今後プロジェクトで実施すべき優先順位	30
4-2	ゴマ栽培団員所感	31
4-2-1	ゴマ、品種開発と技術開発の現状	31
4-2-2	ブルキナファソのゴマ品種配布の仕組みと INERA の問題	31
4-2-3	栽培技術開発と有望品種持続性評価を通じた技術移転とその持続性	32
4-2-4	食用ゴマについて	32
4-2-5	TCT 利用の普及システム	33
4-3	団長所感	33
4-3-1	プロジェクトの意義と課題	33
4-3-2	協力範囲の整理	34
4-3-3	農業普及員との連携強化	35
4-3-4	日本企業との連携	36
付属資料		
1.	M/M (ミニッツ・オブ・ミーティング)	39
2.	調査日程	96
3.	主要面談者リスト	97
4.	PDMversion 0	99
5.	PO	101
6.	評価グリッド	102
7.	投入実績	109
8.	PDM 改定案	116
9.	面談議事録	118

プロジェクトサイト位置図



ブルキナファソ
プロジェクト対象地域：
ワガドゥグ、ブックルドゥムーン州（BM 州）、オーバッサン州（HB 州）

写

真



HB 州ゴマ生産農家からのヒアリング
撮影場所：HB 州 K.Vigue
撮影日：2017年6月8日



試験圃場で栽培したゴマの乾燥処理
撮影場所：HB 州 Marcel 氏の圃場
撮影日：2017年6月9日



プロジェクトで調達した農耕機材
撮影場所：HB 州 Marcel 氏の圃場
撮影日：2017年6月9日



プロジェクトで調達した農耕機材
撮影場所：HB 州 Marcel 氏の圃場
撮影日：2017年6月9日



ローカルゴマの試験栽培の視察
撮影場所：HB 州 Marcel 氏の圃場
撮影日：2017年6月9日



BM 州農業水利局長との面談
撮影場所：BM 州 DRAAH-BM (デドゥグ)
撮影日：2017年6月13日



試験圃場で栽培したゴマの乾燥処理
撮影日：2017年6月14日
撮影場所：BM州 Kam氏の圃場



BM州ゴマ生産農家からのヒアリング
撮影日：2017年6月14日
撮影場所：BM州 Pasakongo



農村経済振興総局（DGPER）局長への中間レビュー結果説明
撮影日：2017年6月19日
撮影場所：農村経済振興総局（ワガドゥグ）



セクター調査・計画・統計総局（DGESS）局長への中間レビュー結果説明
撮影日：2017年6月20日
撮影場所：農業・水利省（ワガドゥグ）



中間レビュー報告書への署名
撮影日：2017年6月20日
撮影場所：農業・水利省（ワガドゥグ）



M/Mへの署名
撮影日：2017年6月20日
撮影場所：農業・水利省（ワガドゥグ）

略 語 表

	仏文／英文	和文
BCEAO	Banque Centrale des Etats de l'Afrique de l'Ouest	西アフリカ諸国中央銀行
BM	Boucle du Mouhoun region	ブックルドゥムーン
CNS	Comite National de Semance	国家種子委員会
CPR	Centre de Promotion Rurale	農村振興センター
DAC	Development Assistance Committee	開発援助委員会
DAF	Direction de l'Administration et des Finances	総務財務局
DGESS	Direction Générale des Études et des Statistiques Sectorielles	セクター調査・計画・統計総局（農業省）
DGPER	Direction Générale de la Promotion de l'Economie Rurale	農村経済振興総局（農業省）
DGPV	Direction Générale des Productions Végétales	植物生産総局（農業省）
DPAAH	Direction Provinciale de l'agriculture et des Aménagements Hydrauliques	県農業・水利局
DRAAH	Direction Régionale de l'agriculture et des Aménagements Hydrauliques	州農業・水利局
FBS	Farmer Business School	農民経営学校
FCFA	Franc des Colonies Françaises d'Afrique	セーファーフラン
FFS	Farmer Field School	農民圃場の学校
GIZ	Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit	ドイツ国際協力公社
HB	Hauts-Bassins region	オーバッサン
INERA	Institut National pour l'Environnement et de la Recherche Agricole	国立環境農業研究所
INSD	Institut National de la Statistique et de la Démographie	立統計・人口局
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
MAAH	Ministère de l'Agriculture, et des Aménagements Hydrauliques	農業・水利省
MICA	Ministère de l'Industrie, du Commerce et de l'Artisanat	工業・商業・手工業省
OECD	Organization for Economic Cooperation and Development	経済開発協力機構

PDA	Programme Développement de l'Agriculture	農業開発プログラム
PDM	Project Design Matrix (Cadre logique du Pro- jet)	プロジェクト・デザイン・マトリク ス
PNSR	Programme National du Secteur Rural	農村開発セクター国家プログラム
PO	Plan of Operation	プラン・オブ・オペレーション
PRPS-BF	Projet de Renforcement de la Production du Sésame du Burkina Faso	ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロ ジェクト
R/D	Record of Discussion	討議議事録
SCADD	Stratégie de Croissance Accélérée et de Développement Durable	持続的開発及び成長の加速化戦略文 書
SNS	Service National des Semences	全国種子課
UAT	Unité d'Animation Technique	技術指導ユニット
ZAT	Zone d'Appui Technique	技術支援エリア

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ブルキナファソ	案件名：ゴマ生産支援プロジェクト
分野：農村開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部	協力金額：約 4.3 億円（評価時点）
協力期間	(R/D)： 2014年10月1日～ 2019年9月30日
	先方関係機関：農業・水利省（MAAH）、農村経済振興総局（DGPER）、MAAH 植物生産総局（DGPV）、国立環境農業研究所（INERA）、ブックルドゥムーン州農業・水利局（DRAAH-BM）、オーバッサン州農業・水利局（DRAAH-HB）
	日本側協力機関：株式会社 VSOC、公益社団法人国際農林業協働協会
	他の関連協力：なし
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>ブルキナファソは西アフリカのほぼ中央に位置する内陸国であり、農業は GDP の 38%（BCEAO、2012 年）、産業別労働人口を見ると約 80% を占める重要なセクターである。ブルキナファソの経済は金と綿花の輸出に輸出総額の 80% 以上を依存している（2014 年）。そのため、ブルキナファソ政府は輸出製品の多様化によって輸出構造を改善すべく、2010 年に策定した「持続的開発及び成長の加速化戦略文書（SCADD）」のなかで、農業セクターを成長加速のための優先セクターと位置付けている。2012 年には、農業・農村セクター開発計画の最上位政策として位置付けられる「農村開発セクター国家プログラム 2011～2015（PNSR）」が策定された。同文書の成長プライオリティ方針には、ゴマをはじめとする油糧作物・種子類が国際市場向け輸出を見込める作物として取り上げられている。なかでも輸出額第 3 位のゴマに対する期待は大きい。</p> <p>ブルキナファソ政府はゴマを含む油糧作物・種子の振興を進め、次第にその生産面積と生産量が増加してきた。ブルキナファソ経済におけるゴマの重要度がますます高まってきていることからブルキナファソ政府は、ゴマの生産性向上とゴマ生産農家の収入向上及びこれらを通じたゴマ産業強化を目的とする技術協力プロジェクトを要請した。独立行政法人国際協力機構（以下、JICA という。）は「ゴマ生産支援プロジェクト」（以下、プロジェクトという。）の実施に合意した。</p> <p>本プロジェクトは、西部 2 州において、対象農家が普及研修を通じて栽培技術を学ぶことで搾油用ゴマの生産性向上及び当地にてほとんど導入されていない食用ゴマの品種登録やプロジェクトが対象としている種子の生産・配布体制を整備することで、農家のゴマ生産性と収入の改善に寄与するものである。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標：ゴマの輸出量が增大する。</p> <p>(2) プロジェクト目標：プロジェクト対象農家のゴマの生産性と収入が改善される。</p>	

- (3) 成果1：搾油用ゴマの生産性が改善される。
 成果2：食用ゴマが導入され、生産体制が構築される。
 成果3：プロジェクトが対象とする種子の生産・配布体制が整備される。
 成果4：ゴマ関係者のマーケティング能力が改善される。

(4) 投入（評価時点）

日本側

- ・日本人専門家：2014年10月より3名の長期専門家が派遣されている（50.4人/月）。長期専門家の担当分野は、総括/農業・農村開発アドバイザー、コミュニティ開発/業務調整、営農/栽培。また、2016年2月より8名の短期専門家が合計27回（32.4人/月）派遣された。短期専門家の担当分野は、総括/ゴマフィリエール形成支援、副総括/流通、普及1（FFS/FBS実施・運営）、普及2（農民組織化）、普及3（視聴覚教材）/業務調整、収穫後処理、農薬管理、通訳。
- ・機材供与：プロジェクト車両、トラクター、事務機器等の機材がプロジェクト活動のために調達された。機材調達の合計額は2017年4月時点で94,068,230 FCFA（約1,752万円）¹である。
- ・本邦研修：合計20名が本邦研修に参加した（2015年：8名、2016年：12名）。また、3名が第三国研修（ルワンダ）に参加した。

ブルキナファソ側

- ・カウンターパート配置：19名（ナショナル・コーディネーター/プロジェクト・ダイレクター2名、プロジェクトリーダー2名、カウンターパート職員15名）
- ・施設・土地手配：4カ所の試験圃場と3カ所の日本人専門家の執務スペース（プロジェクト事務所）がブルキナファソ側から提供されている。
- ・ローカルコスト負担：2016年にはプロジェクトの活動予算として12,425,000 FCFA（約231万円）が配賦された。2017年の予算請求額は70,708,000 FCFA（約1,317万円）であるが、2017年6月時点で、予算額は決定されていない。

2. 評価調査団の概要

調査者	担当分野	氏名	所属
日本側	団長/総括	伊藤 圭介	JICA 農村開発部 農業・農村開発第二グループ 第三チーム 課長
	ゴマ栽培	浅沼 修一	JICA 国際協力専門員
	農薬管理	滝本 浩司	厚生労働省/JICA 専門家
	農薬管理	井川 晴彦	JICA パラグアイ事務所 事業班長
	評価分析	岡野 鉄平	株式会社アイコンズ コンサルタント
	協力企画	赤井 勇樹	JICA 農村開発部 農業・農村開発第二グループ 第三チーム
ブルキナファソ側	Mr. POUYA W.Thierry		DGPER 農業フィリエール経済監視、振興局（DPEFA）/MAAH
	Mr. NANAN Lamime		セクター調査・計画・統計総局（DGESS）/MAAH
調査期間	2017年6月3日～6月23日		評価種類：中間レビュー調査

¹ FCFA 1=JPY 0.186270 / JICA 統制レート 2017年6月

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 活動実績

本プロジェクトは2013年12月にR/Dが締結され、2014年10月から活動が開始された。しかしながら、政変等の影響もあり、ブルキナファソ側のカウンターパートが正式に任命されたのは2015年12月であった。2016年2月からは日本人専門家で構成されるプロジェクトチームが派遣され、POに従った活動を実施しているものの、プロジェクト実施体制の整備に時間を要したため、計画より進捗が遅れている活動や、他の活動と統合された活動がある。中間レビュー時点で成果1から成果4において着実な進捗は見られるが、プロジェクトの残りの期間でプロジェクト目標を達成するためには、各成果の活動を加速させる必要がある。なお、日本向けに輸出されたゴマから残留農薬が検出されたことから、農薬管理に関する活動が追加されている。また、成果2に関連する食用ゴマに関する活動は、成果1の活動と統合された。

(2) 成果の達成状況

成果1：搾油用ゴマの生産性が改善される。

成果1の指標の全てが現時点で未達成、もしくは達成状況の判断が困難である。対象農家のゴマの生産性の推移に関連する正確なデータがないため、ゴマの生産性に関する指標1-1の達成状況を判断することは難しい。しかし、FFS/FBSの研修を通じて種子の種類（認証種子、ローカル種子）や施肥の有無による生産性の違いが確認されており、活動が順調に進捗し、FFS/FBS研修並びに中核農家による技術の普及が計画どおりに進めば、対象農家のゴマ生産性の向上が期待できる。研修の実施に関する指標1-2、1-3、1-4について、プロジェクトはこれまでに、2つの対象州（BM州、HB州）において、合計61グループ、122名の中核農家を選定し、FFS/FBS研修（ファシリテーター研修、実践研修、総括研修）を実施している。現在までに、FFS/FBSの研修は計15回行われ、平均26.3名が参加している。また、組織強化研修は計8回行われ、平均25名が参加した。

成果2：食用ゴマが導入され、生産体制が構築される。

成果2の活動のうち、食用ゴマに関連する研修の実施は成果1の活動と統合された。その他の活動については、大幅な遅延もなく計画どおりに実施されている。ゴマの品種選定に関する指標2-1は、プロジェクトの後半に達成されることが期待されているものの、指標2-2、2-3、2-4、2-5は、指標が適切に設定されておらず、達成状況を判断することは困難である。2016年の乾季には50種のゴマ種子が試験的に栽培され、4品種をVAT試験の対象として選定、8品種を候補品種として選択した。これらの品種は4つの地域で、135人の農家の参加の下で選抜され、また、食味試験も実施された。これらの結果から、有望な食用ゴマと考えられるMKD2とGMP3の生産システムの整備が進められている。また、プロジェクトが実施したゴマの国家登録制度に関する調査によって、国家品種登録の申請に必要な手続きが明らかにされた。品種登録に必要な試験データの収集は着実に進んでおり、2018年後半までには申請の準備が整う見込みである。

成果3：プロジェクトが対象とする種子の生産・配布体制が整備される。

成果3に関連する活動は計画どおり実施されている。しかし、成果3の5つの指標のうち、

食用ゴマに関する4つの指標（指標3-2、3-3、3-4、3-5）については、指標の設定が適切ではなく、再検討する必要がある。搾油用ゴマ種子の生産量に関する指標3-1は、現時点で指標に関連するデータを入手することは困難であり、達成状況の測定が困難である。ただし、種子生産研修（理論研修、実践研修、総括セミナー）は計画どおりに実施されており、現在までに計17回実施され、平均27名の農家が参加している。このうち、2州合計で29名の中核農家が種子生産のための全国種子生産者リストに登録を完了した。指標3-2~3-5については、食用ゴマを想定しているものの、本プロジェクトでは、関係者のニーズを考慮し食用ゴマに特化した活動を行っていない。そのため、指標の再検討に加え、関連する活動についても見直しを行う必要がある。

成果4：ゴマ関係者のマーケティング能力が改善される。

成果4の指標は明確に記載されておらず、成果の達成を測定することは困難である。国際市場の動向を理解するための仕組みの構築に関する指標4-1については、ゴマのプラットフォームが、日本で2回（2015年5月と2016年6月）、ブルキナファソで1回（2016年8月）開催された。また、ブルキナファソ産のゴマ取扱業者から採集した13のサンプルと、生産者から収集したゴマの23サンプルを用いた残留農薬の分析を日本国内で実施した。これらの取り組みを通じて明らかになった事項は、今後の品質管理に役立てられる。指標4-2は研修に関する指標である。指標に目標値が設定されていないが、2016年11月にはBM州でゴマ関係の業者を対象とした研修を行い、24名が参加した。指標4-3はゴマの職業間組織に関する指標が検討中であり、指標4-4はゴマ関連情報の発信に関する指標である。これまでに日本語とフランス語の2言語で作成されたパンフレット2種類（2016年、2017年）、ならびに計5回のニュースレター（vol.1～vol.5）の発行が行われた。

（3）プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：プロジェクト対象農家のゴマの生産性と収入が改善される。

現行のPDMでは、指標が適切に設定されていないため、プロジェクト目標の達成の見込みを判断することはできない。また、ブルキナファソ側のカウンターパートの正式な任命の遅れと、日本人長期専門家（総括/農業・農村開発アドバイザー）の離任により、プロジェクト活動の多くは2016年以降に開始されている。農家を対象とした研修は2016年のゴマ生産の時期、1シーズンのみで実施されているため、活動の具体的な成果が観察され、指標に関連するデータの入手が可能となるまでには、一定の時間が必要である。

（4）上位目標の達成状況

上位目標：ゴマの輸出量が増大する。

中間レビューの時点で上位目標の達成見込みを判断することは時期尚早である。また、プロジェクト目標と上位目標との因果関係が明確ではないことに加え、上位目標を達成するための道筋についても明らかではない。したがって、上位目標の設定を見直す必要がある。ゴマの輸出量は、プロジェクトが開始された2014年と比較して2015年、2016年ともに増加しているが、輸出量の増加には、国際価格の変動や、気象条件による生産量の増減といったさまざまな要因が影響することから、ゴマ輸出量の増加とプロジェクト活動の成果との因果関係は不明である。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性（やや高い）

本プロジェクトは、経済成長加速のために農業分野に重点を置くブルキナファソの開発戦略と整合している。ブルキナファソ政府は成長加速化に向けた戦略文書である SCADD に対応する農業分野の実行計画文書として「農村開発セクター国家プログラム」(PNSR) を策定しており、ゴマを含む搾油作物に国際市場への輸出が可能な農産物としての高い優先順位を付けている。また、ゴマ生産性の向上及びゴマフィリエール関係者のマーケティング能力の強化は、対象となるゴマ生産農家の収入向上のニーズを満たすものである。一方、移転した技術を対象地域に普及・定着させるためには、中核農家が実施する FFS/FBS を定期的にサポートする仕組みが必要となる。しかしながら、モニタリング並びにフォローアップの体制が適切に構築されておらず、プロジェクトのアプローチに課題が見られる。

(2) 有効性（測定不能）

現行の PDM で設定された指標は適切ではない、もしくは記述が曖昧なため、プロジェクト目標の達成の見込みを正確に評価することは困難である。中核農家を対象とした各種の研修はプロジェクトチームが派遣された 2016 年から本格的に開始され、おおむね計画どおりに実施されているものの、研修成果を普及・定着させるためのモニタリングやフォローアップの仕組みは、依然として構築の途上にある。また、ブルキナファソ側のカウンターパート職員の正式な配置が遅れたことにより、多くの活動で計画されている技術移転の成果が十分に発現していない。ゴマの生産は 1 年に 1 シーズンしか行えないため、プロジェクトの具体的な成果を確認するためのデータの取得には一定の時間が必要となる。

(3) 効率性（中程度）

2014 年の政変の影響と日本人長期専門家の辞任により、本格的な活動の開始は当初の計画よりも大幅に遅れている。このような困難な状況において、日本人専門家は高度な専門知識を駆使して活動に取り組んでいる。プロジェクト活動に用いる資機材は各活動の必要性に応じて随時調達され、試験圃場などの現場で活用されている。また、本邦研修、第三国研修は戦略的に計画、実施された。ただし、ブルキナファソ側の予算配分が十分でなかったことにより、カウンターパート職員のプロジェクトへの関与は限られている。プロジェクトの残りの期間における効率的な活動実施に向けては、適切な予算配賦と、カウンターパート機関の積極的な参加が必須となる。

(4) インパクト（時期尚早）

中間レビュー時点で、多くの活動が実施中であり、プロジェクトのインパクトを測定することは時期尚早である。また、現行の PDM の指標を用いて上位目標の達成見込みとプロジェクトの効果の規模を予測することも困難である。プロジェクト完了後にブルキナファソ国内の他地域で FFS / FBS を普及させるための道筋が明確ではなく、プロジェクトの成果がどの程度広がっていくかについても明確な判断根拠がない。なお、プロジェクトの上位目標はゴマの輸出量の増加であり、プロジェクトの目的は地域の農家の生産性と収入の改善である。現時点で上位目標を達成するための道筋が明確にされてはおらず、上位目標を達成するという観点で実施されている活動はない。また、ゴマの輸出量の増減については、国際的なゴマの価格や気象条件などの外部要因が大きく影響することから、プロジェ

クトの貢献度を測定することは困難である。そのため、上位目標の設定自体が適切ではないと考えられる。

(5) 持続性（やや低い）

政策面：本プロジェクトの目的は、ブルキナファソ政府の国家開発戦略及び農村セクター開発計画と一致しており、ゴマ生産の改善にかかわる優先順位は依然として高い。また、収穫後のゴマの取り扱いを規定した仕様書である「Cahier des Charges」が2016年に関係省庁により署名され、2017年に発効する予定である。さらに、栽培に関する「Cahier des Charges」も準備中であり、こうした状況は、プロジェクトの政策面の持続性の確保に貢献している。

組織面：中核農家を対象とした研修の計画立案から関係者の調整、研修実施など、プロジェクト完了後にプロジェクトの成果を活用していく主要なアクターが明確ではない。中心的なカウンターパート機関である DGPER は、国内及び地域の流通、収穫後処理、国内消費に関する業務に責任を負うが、プロジェクト活動は、技術開発、品種選択、技術普及、種子流通、農薬管理、輸出といった幅広い活動が含まれる。組織面での持続性を確保するためには、幅広いアクターのプロジェクト活動への積極的な巻き込みが必要である。

財政面：ブルキナファソ側が活動を継続的に実施していくための持続的な仕組みがない。活動予算の不足は、プロジェクト実施期間中においてもカウンターパート職員のプロジェク活動への関与を阻害しており、財源確保の課題は、財務面の持続性のみならず、技術移転の効率性をも低下させている。

技術面：プロジェクトの主な技術移転の対象は、BM 州、HB 州のゴマ生産農家である。そのため、プロジェクトによる FFS / FBS 研修が終わった後に、中核農家による FFS / FBS が確実に実施されるためのモニタリングの仕組みが不可欠である。しかしながら、農家活動のサポートにおいて中心的な役割を果たす ZAT/UAT の関与は、プロジェクト前半ではほとんど見られなかった。一方で、プロジェクトで準備されたマニュアル、テキスト、ツールは、プロジェクト完了後にも現場レベルで活用されることが見込まれる。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) フィードバックを活用した継続的な改善

プロジェクトは、各研修の実施から得たフィードバックや教訓を活用し、継続的な研修内容の改善に取り組んでいる。例えば、2016年の研修には、フランス語を十分に理解しない中核農家が研修に参加していたことにより効率的な研修の実施が困難であった。こうした問題を改善するため、研修に参加する中核農家の選定は、明確なクライテリアに基づき慎重に行われた。また、研修の実施時期、内容、期間は、前回研修の結果やフィードバック、所見に基づいて必要な変更がなされている。こうした、PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action）は、適切に機能しており、対象ゴマ生産農家への効率的な技術移転に寄与している。

(2) ローカルリソースの活用

プロジェクトでは、他ドナーや政府機関によって実施されたゴマセクターの支援事業を通じてブルキナファソに蓄積された既存のリソースを活用し、効率的な活動を実施している。特に研修の実施に当たっては、他ドナーが実施するプロジェクトに直接関与した経験のある地域の専門家を登用しており、研修の内容については、地域の状況を十分に把握し

ている専門家との討議を通じて決定されている。また、JICA が 2008 年～2012 年の期間で実施した優良種子普及計画プロジェクト、ドイツ国際協力公社（GIZ）の実施した農業開発プログラムなど、他のプロジェクトによって開発されたマニュアルや研修教材を活用している。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) コミュニケーションと相互理解の不足

プロジェクトメンバー間のコミュニケーションには課題が見られる。関係者間の日常的なコミュニケーションは十分とは言えず、多くのカウンターパート職員にとって、JCC がプロジェクト進捗に関する情報を入手するための主な機会となっている。JCC などの正式な会合では、参加者の手当やその他の費用を賄うための予算配分が必要であるが、ブルキナファソ側が負担すべき予算が不足しているため JCC 以外の会議の機会が十分ではない。また、カウンターパート職員が通常業務で多忙であることもあり、予算を必要としない定期的な会議も開催されていない。こうした事情により、プロジェクト関連の情報共有の機会が限られており、カウンターパート職員のプロジェクト活動への参加や、プロジェクトに関する相互理解の醸成を阻害している。

(2) PDM の修正の遅れ

ベースライン調査の結果の検証が遅れたため、PDM の改訂が適切なタイミングで実施されていない。現在の PDM に設定された指標は具体的な記述に欠けており、各活動の目標が明確ではない。プロジェクトの適切な枠組みが整理されていないため、プロジェクト関係者が活動の実施、及びその目標を達成するための道筋について共通認識を持つことができていない。

(3) ブルキナファソ側による予算配賦の制限

ブルキナファソ側の活動を効果的に実施するための予算配賦が十分ではない。カウンターパート職員は予算不足が原因でプロジェクト活動に積極的に参加することができず、円滑なプロジェクト運営が困難になっている。カウンターパート職員の活動への関与の機会が制限されることにより、先方のオーナーシップ意識が希薄になり、さらに活動への参加意欲が低下するという悪循環に陥っている。また、カウンターパート以外でプロジェクトの効果発現に重要な役割を果たす ZAT / UAT などの地方農業機関の巻き込みが不十分であり、プロジェクトによる技術移転の普及メカニズムの有効性が損われている。

3-5 結論

評価 5 項目の評価結果では、プロジェクトの妥当性は「やや高い」と評価した。プロジェクトのアプローチは、農業セクターを経済成長の柱とするブルキナファソの国家政策や日本の援助政策と合致しており、換金作物であるゴマの生産性の向上は関係者のニーズとも整合している。一方で、プロジェクトのデザインに関しては、改善すべき課題が見受けられた。有効性については「測定不能」と判断した。PDM の指標が適切に設定されておらず、プロジェクト目標の達成状況・見込みを測定することは不可能である。効率性に関しては「中程度」と評価した。すべての成果は未達成であり、ブルキナファソ側の予算が不足している中で活動が実施されている。各活動で着実な成果が見られるとはいえ、実施体制の整備に時間を要したことで、活動の進捗が遅れが見られる。インパクトについては、評価を行うことが「時期尚早」であること

に加え、プロジェクト目標と上位目標の因果関係に乖離が見られることから、PDM の上位目標を再検討する必要がある。プロジェクトの持続性は、「やや低い」と判断した。政策面での持続性は確保されている一方で、財政面、組織面、技術面において、課題が見られることから、プロジェクト後半では改善に向けた取り組みが必要となる。

3-6 提言

<プロジェクトチームへの提言>

(1) PDM 改訂について

中間レビュー調査開始時点で、PDM 指標の数値目標が未設定であり、また適切な指標が設定されていない箇所も見られた。プロジェクトの目標、その先の活動を関係者間で共有するためにも PDM に適切な指標、数値目標が設定されることは不可欠であることから、可能な限り早いうちに PDM 改訂、数値目標の設定を行うこと。本評価団は改訂版 PDM のドラフト版を作成し、評価報告書の別添として提出している。次回 JCC までに改訂版 PDM について議論し、最終合意が図られるよう期待する。

(2) 情報共有について

1) プロジェクトはワーキングチームを結成しており、チーム内での情報共有は主に JCC で行われている。しかし、実際の各活動の実施者とワーキングチーム内のカウンターパートに任命されている者にはいくつか乖離が見られる。日本側、ブルキナファソ側、両者の各活動における実施者間で情報共有が円滑になされるよう、まずはプロジェクトの PO に従い、各活動に対応する両者の実施責任者を明確にする。

2) 上述のとおり、JCC 以外に関係者間で情報共有を行う場がほとんど存在しない。これは慢性的な予算不足の問題を抱えるなか、公式な場を設置する場合は多くの支出を必須とすることが一因となっている。今後は、JCC 等の公式な会議とは別に、1) の実施責任者間で定期的なプロジェクト進捗を共有する打合せが設けられることを期待する。

3) 各活動の実施責任者は各自の上長に定期的にプロジェクト活動の進捗報告を行い、関係者間でプロジェクトの進捗を共有する。左記については、次官表敬時に先方農業省次官と調査団長間で確認された事項である。

(3) モニタリング・フォローアップの強化

1) FFS/ FBS 等の技術研修の実施フォローや一般農家への技術普及を担保するためには、公的農業普及員 (ZAT/ UAT) を巻き込んだモニタリング・フォローアップ活動が必須である。

2) どのようにローカルの人的リソースを活用しモニタリング・フォローアップ体制を強化するか、今後のプロジェクト活動で議論していく。

<ブルキナファソ側への提言>

(1) R/D 記載のプロジェクト活動のローカルコスト負担の順守に向け、最大限尽力する。

(2) カウンターパートのプロジェクト活動への参加が非常に限定的である。今後のプロジェクト活動の成功、プロジェクト終了後の持続性を担保するためにも、JICA 専門家に相談のもと、ブルキナファソ側が強いリーダーシップ・イニシアティブを持って活動を実施していくこと。

(3) 次官表敬時に先方農業省次官と調査団長間で確認したとおり、ベースライン調査の審議会

については、次回 JCC を早急に実施するためにも、可能な限り早く実施する。また、その実施に際して、JICA 専門家は技術面でサポートを行う。

<日本側への提言>

- (1) 中間レビュー調査の結果を受けて、今後の効率的・効果的な投入に向けて、JICA ブルキナファソ事務所、JICA 本部は見直し・協議を行う。
- (2) 効果的・効率的なプロジェクト活動のために、JICA 技術協力のコンセプト、JICA プロジェクト評価ガイドラインをブルキナファソ側と共有する。

第1章 中間レビュー調査の概要

1-1 評価団派遣の経緯と目的

ブルキナファソは西アフリカのほぼ中央に位置する内陸国であり、農業はGDPの38% (BCEAO、2012年)、産業別労働人口を見ると約80%を占める重要なセクターである。ブルキナファソの経済は金と綿花の輸出に輸出総額の80%以上を依存している(2014年)。そのため、ブルキナファソ政府は輸出産品の多様化によって輸出構造を改善すべく、2010年に策定した「持続的開発および成長の加速化戦略文書 (Stratégie de Croissance Accélérée et de Développement Durable : SCADD)」のなかで、農業セクターを成長加速のための優先セクターと位置付けている。2012年には、農業・農村セクター開発計画の最上位政策として位置付けられる「農村開発セクター国家プログラム 2011～2015 (Programme National du Secteur Rural : PNSR)」が策定された。同文書の成長プライオリティ方針には、国内及び域内における輸出ポテンシャルを持つ穀類及びササゲ、果実・野菜類、畜産物、牛乳及び乳製品のほか、ゴマをはじめとする油糧作物・種子類が国際市場向けに輸出を見込める作物として取り上げられている。なかでも輸出額第3位のゴマに対する期待は大きい。

一方、日本では健康食品ブームによりゴマの消費は伸びているが、消費量の99.9%以上は輸入に頼っている。かつての大生産地であった中国とインドが輸入国に転じ、国際市場は供給不足に陥っている。ブルキナファソはわが国にとってナイジェリア、タンザニアに次いで重要な輸入先国であるが、近年連続して残留農薬違反が指摘されていることから、品質に対するわが国のゴマ関連業界の目は厳しい。

ブルキナファソ政府はゴマを含む油糧作物・種子の振興を進め、次第にその生産面積と生産量が増加してきた。ブルキナファソ経済におけるゴマの重要度がますます高まってきていることからブルキナファソ政府は、ゴマの生産性向上とゴマ生産農家の収入向上及びこれらを通じたゴマ産業の強化を目的とする技術協力プロジェクトを要請した。独立行政法人国際協力機構(以下、JICAという。)は「ゴマ生産支援プロジェクト」(以下、プロジェクトという。)の実施に合意した。プロジェクトは2014年10月から開始され、2015年12月にブルキナファソ政府に正式にプロジェクトとして認可された。直営専門家2名(営農/栽培、コミュニティ開発/業務調整)が先行して派遣され、2016年2月からは、生産・加工・販売などゴマバリューチェーンの各部門の能力強化及びアクター間の交流を促進する取り組みによってゴマフィリエールの活性化を図る任務を受けた日本人コンサルタントチームがプロジェクトへ組み込まれている。

本プロジェクトは、西部2州において、対象農家が普及研修を通じて栽培技術を学ぶことで搾油用ゴマの生産性向上及び当地にてほとんど導入されていない食用ゴマの品種登録やプロジェクトが対象としている種子の生産・配布体制を整備することで、農家のゴマ生産性と収入の改善に寄与するものである。

同プロジェクトが協力期間の半ばを過ぎた時期をとらえ、プロジェクトの実績確認、計画に対する達成度の検証、プロジェクト後半の活動計画への提言等を目的に調査団を派遣した。

1-2 評価団の構成と調査日程

(1) 日本側調査団の構成

担当分野	氏名	所属等	日程
団長/総括	伊藤 圭介	JICA 農村開発部 農業・農村開発第二グループ 第三チーム 課長	6/11-6/21
ゴマ栽培	浅沼 修一	JICA 国際協力専門員	6/11-6/21
農薬管理	滝本 浩司	厚生労働省 /JICA 専門家	6/11-6/18
農薬管理	井川 晴彦	JICA パラグアイ事務所 事業班長	6/11-6/18
評価分析	岡野 鉄平	株式会社アイコンズ コンサルタント	6/3-6/21
協力企画	赤井 勇樹	JICA 農村開発部 農業・農村開発第二グループ 第三チーム	6/6-6/21

(2) ブルキナファソ側調査団の構成

氏名	所属等
Mr. POUYA W. Thierry	農村経済振興総局 (Direction Général de Promotion de l'Economie Rurale : DGPER)
Mr. NANAN Lamime	セクター調査・計画・統計総局 (Direction Générale des Études et des Statistiques Sectorielles : DGESS)

(3) 調査期間

本調査は2017年6月3日～6月23日までの期間で行われた。調査スケジュールの詳細は付属資料2：調査日程を参照。

1-3 主要面談者

ブルキナファソにおいて、主要なプロジェクト関係者と面談した。主要面談者は付属資料3：主要面談者リストを参照。

1-4 プロジェクトの概要

本プロジェクトは、プロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix : PDM) version 0 に基づき実施されている。プロジェクトの概要は以下の通り。

- (1) 上位目標：ゴマの輸出量が増大する。
- (2) プロジェクト目標：プロジェクト対象農家のゴマの生産性と収入が改善される。
- (3) 成果1：搾油用ゴマの生産性が改善される。
成果2：食用ゴマが導入され、生産体制が構築される。
成果3：プロジェクトが対象とする種子の生産・配布体制が整備される。
成果4：ゴマ関係者のマーケティング能力が改善される。

(4) 活動

- 1-1：搾油用ゴマの品種特性を確認する。
- 1-2：搾油用ゴマの各種収量改善試験を実施する。(播種時期、施肥等)
- 1-3：搾油用ゴマの適切な生産技術の普及研修とモニタリングを実施する。
- 1-4：一般農家における搾油用ゴマの生産拡大と生計向上を可能とする組織・営農のあり方を検討し、提案する。(契約栽培、組織強化等)
- 1-5：生産者の組織活動及び運営体制強化のための研修を行う。(組織マネージメント、資金アクセス等)

- 2-1：候補品種の特性を調査する。
- 2-2：食用ゴマとしての適性及び栽培適性を確認し、普及品種を選定する。
- 2-3：食用ゴマの栽培試験を行い、栽培技術を確立する。
- 2-4：食用ゴマの新品種国家品種登録を行う。

- 3-1：適切な原種生産のための研修を実施する。
- 3-2：種子生産農家へ普及指導を行う講師に対し、指導能力を強化するための研修を実施する。
- 3-3：種子生産農家に対し、優良種子生産能力を強化するための研修を実施する。
- 3-4：プロジェクトで対象とする種子の生産・配布体制を構築する。(モニタリング、指導等)

- 4-1：国際市場におけるマーケティング能力を強化する。(市場ニーズ調査、国際見本市参加促進、作況予測手法の検討等)
- 4-2：市場ニーズに基づく品質管理に関する研修を実施する。(夾雑物処理、農薬使用管理、検査体制の強化等)
- 4-3：ゴマ関連団体の組織を強化するとともにゴマ分野全体のクラスターを強化する。
- 4-4：生産・流通・市場情報の共有を促進する。

1-5 中間レビュー調査の方法(評価分析)

本中間レビュー調査は2013年12月19日に署名された討議議事録(Record of Discussion : R/D)の付属資料であるPDM version 0並びにプラン・オブ・オペレーション(Plan of Operation : PO)に基づき実施した。また、「新JICA事業評価ガイドライン」に則った評価設問を設定し、必要な情報とデータ、情報の収集方法について検討した上で、評価グリッドに沿った調査を行った。

1-5-1 DAC5項目評価

本中間レビュー調査における評価は表-1に示す経済開発協力機構(Organization for Economic Cooperation and Development : OECD) / 開発援助委員会(Development Assistance Committee : DAC)が定めた評価5項目を用いて実施した。

表－1 評価5項目

基準	説明
妥当性	プロジェクトの目指している効果（プロジェクト目標や上位目標）が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、ブルキナファソと日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か等といった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。
有効性	プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいは、もたらされるのか）を問う視点。
効率性	主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいは、されるか）を問う視点。
インパクト	プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的・間接的効果や波及効果を見る視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む視点。
持続性	援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みがあるか）を問う視点。

（出所：新 JICA 事業評価ガイドライン /2010 年）

1－5－2 データ収集方法

本中間レビュー調査においては、定量的、定性的なデータを収集し分析を行った。データの収集手法は以下の通り。

- 文献・既存資料調査（専門家報告書、詳細計画策定調査報告書等）
- 質問票調査
- インタビュー調査
- 視察調査

第2章 プロジェクトの実績と実施プロセス

2-1 投入実績

2-1-1 日本側投入

2013年12月19日に署名されたR/Dの付属資料であるPDM version 0における計画と、中間レビュー時点の日本側投入の実績を表-2に示す。

表-2 日本側投入

計画 (PDM version 0)	実績 (2017年4月末)									
1) 専門家派遣 - チーフアドバイザー - 栽培技術 - 営農管理/組織 - 品質管理/収穫後処理 - 流通/事業化 - 業務調整/研修管理	【日本人専門家】 (付属資料 7-1 を参照) 長期専門家 3名 (合計 50.4M/M) - 総括/農業・農村開発アドバイザー (2015年6月30日離任) - コミュニティ開発/業務調整 - 営農/栽培 (2017年4月5日離任) 短期専門家 8名 (合計 32.4M/M) - 総括/ゴマフィリエール形成支援 - 副総括/流通 - 普及1 (FFS/FBS 実施・運営) - 普及2 (農民組織化) - 普及3 (視聴覚教材/業務調整) - 収穫後処理 - 農薬管理 - 通訳									
2) 資機材供与	【機材】 (付属資料 7-2 を参照) プロジェクト車両、トラクター、事務機器等の機材がプロジェクト活動のために調達された。調達機材の合計額は2017年4月時点の合計で FCFA 94,068,230 ² (約 1,752 万円) ³ である。									
3) 研修・研修員受け入れ	【本邦・第三国研修】 (付属資料 7-3 を参照) 合計 20名が本邦研修に参加した(2015年: 8名、2016年: 12名)。また、3名が第三国研修 (ルワンダ共和国、以下ルワンダという。) に参加した。 <table border="1" data-bbox="703 1601 1275 1756"> <thead> <tr> <th>実施国名</th> <th>2015年</th> <th>2016年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本</td> <td>8名</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>ルワンダ</td> <td>0名</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table>	実施国名	2015年	2016年	日本	8名	12名	ルワンダ	0名	3名
実施国名	2015年	2016年								
日本	8名	12名								
ルワンダ	0名	3名								

(出所: 業務進捗報告書を基に調査団員が作成)

² FCFA 90,002,184 (現地調達分) + JPY 756,000 (本邦調達分)

³ FCFA 1=JPY 0.186270 / JICA 統制レート 2017年6月

2-1-2 ブルキナファソ側投入

PDM version 0 における計画と、ブルキナファソ側投入の実績を表-3に示す。

表-3 ブルキナファソ側投入

計画 (PDM version 0)	実績 (2017年4月末)
1) カウンターパート - 人員配置	<p>【カウンターパート配置】(付属資料 7-4 を参照) 合計で 19 名のカウンターパート職員が配置されている。</p> <p>① DGPER : 13 名 (ナショナル・コーディネーター/プロジェクト・ダイレクター、プロジェクトリーダーを含む)</p> <p>② 植物生産総局 (Direction Générale des Productions Végétales : DGPV) : 3 名</p> <p>③ 国立環境農業研究所 (Institut National pour l'Environnement et de la Recherche Agricole : INERA) : 1 名</p> <p>④ 州農業・水利局 (Direction Régionale de l'agriculture et des Aménagements Hydrauliques : DRAAH) : オーバッサン州、ブククルドゥムーン州 各 1 名</p>
2) 施設・土地手配 - プロジェクト事務所及び機材 - 専門家派遣、免税等の手続き等	<p>【施設・土地手配】(付属資料 7-5 を参照) 4 カ所の試験圃場と 3 カ所の日本人専門家の執務スペース (プロジェクト事務所) がブルキナファソ側から提供されている。</p> <p>① 試験圃場 : 4 カ所 - 農村振興センター (Centre de Promotion Rurale : CPR) / Kodougou サイト - INERA/Gampela サイト - INERA/Farako-Ba サイト - INERA/Niangoloko サイト</p> <p>② プロジェクト事務所 : 3 カ所 - DRAAH ブククルドゥムーン (Boucle du Mouhoun : BM) 州 - DRAAH オーバッサン (Hauts-Bassins : HB) 州 - DGPER (ワガドゥグ)</p>
3) ローカルコスト - カウンターパート予算	<p>【ブルキナファソ側活動予算】 2016 年にはプロジェクトの活動予算として 12,425,000 FCFA (約 231 万円)⁴ が配賦された。2017 年の予算請求額は 70,708,000 FCFA (約 1,317 万円)³ であるが、2017 年 6 月時点で、予算額は決定されていない。</p>

(出所：業務進捗報告書を基に調査団員が作成)

2-2 成果ごとの活動実績と達成状況

2-2-1 成果ごとの活動実績

本プロジェクトは 2013 年 12 月に R/D が締結され、2014 年 10 月から活動が開始された。しかしながら、ブルキナファソ側のカウンターパートが正式に任命されたのは 2015 年 12 月で

⁴ FCFA 1=JPY 0.186270 / JICA 統制レート 2017 年 6 月

あった。2016年2月からは日本人専門家で構成されるプロジェクトチームが派遣され、POに従った活動を実施しているものの、プロジェクト実施体制の整備に時間を要したため、計画より進捗が遅れている活動や、他の活動と統合された活動がある。中間レビュー時点で成果1から成果4において着実な進捗は見られるものの、プロジェクトの残りの期間でプロジェクト目標を達成するためには、各成果の活動を加速させる必要がある。プロジェクト活動の進捗状況と主な活動実績は表-4に示すとおりである。

なお、日本向けに輸出されたゴマから残留農薬が検出されたことから、農薬管理に関する活動が追加されている。また、成果2に関連する食用ゴマに関する活動は、成果1の活動と統合された。

表-4 プロジェクト活動の進捗状況

活動1										
1-1 搾油用ゴマの品種特性を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> - 搾油用ゴマの品種特性試験のための試験圃場が設置された。 - 3種の種子（S42、32-15、Yandev55）の品種特性試験（DHS試験）、S42、32-15の収量試験（VAT試験）が実施された。 - 試験栽培を行った全49種について、データ整理と統計分析が実施中である。 									
1-2 搾油用ゴマの各種収量改善試験を実施する。（播種時期、施肥等）	<ul style="list-style-type: none"> - 搾油用ゴマ収量改善のための試験圃場が設置された。 - S42を用い、収量改善のための各種試験が以下の通り実施された。①播種日試験（CPRサイト/BM州およびFarako-Baステーション/HB州）、②施肥試験（Badalaサイト/BM州およびGampelaステーション/ワガドゥグ）、③播種密度試験（Makognadougouサイト/HB州）、④病害虫試験（Farako-Baステーション/HB州）。上記試験のデータ整理と統計分析が実施中である。 - 散布農薬と防虫効果に関する検証のための試験圃場がMakognadougouサイト/HB州に設置された。 									
1-3 搾油用ゴマの適切な生産技術の普及研修とモニタリングを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> - 研修TORが作成され、研修講師、研修プログラムが確認された。 - 農民圃場の学校（Farmer Field School：FFS）/農民経営学校（Farmer Business School：FBS）研修の対象農家グループは下表のとおりである。2016年にはHB州の15グループとBM州の15グループが対象農家グループとして選定された。また、2017年にはHB州から15グループ、BM州から18グループが選定された。 <table border="1" data-bbox="657 1753 1321 1908"> <thead> <tr> <th></th> <th>BM州</th> <th>HB州</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年</td> <td>15グループ</td> <td>15グループ</td> </tr> <tr> <td>2017年</td> <td>18グループ</td> <td>15グループ</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> - 2016年にはFFS/FBS研修について、各州1回の理論研修と、各州6回の実践研修が実施された（合計14回）。 		BM州	HB州	2016年	15グループ	15グループ	2017年	18グループ	15グループ
	BM州	HB州								
2016年	15グループ	15グループ								
2017年	18グループ	15グループ								

	<ul style="list-style-type: none"> - 2016年12月に、FFS/FBS研修、組織強化研修、種子生産研修の総括ワークショップが実施された。 - 上記研修に関連して、FFS実施マニュアル、ファシリテーターノート、生産者ノート、生産者ノートの活用マニュアルが作成された。 - 研修実施後のモニタリングは下表のとおり、これまでに3回、14サイトを対象に実施されている。 <table border="1" data-bbox="651 510 1329 815"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">モニタリング実施時期</th> <th colspan="3">モニタリングサイト数</th> </tr> <tr> <th>BM州</th> <th>HB州</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2016年7月</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2016年9～10月</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2016年11月</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> - 2017年にはFFS/FBS研修について、各州1回の理論研修が実施された（合計2回）。 	モニタリング実施時期		モニタリングサイト数			BM州	HB州	合計	1	2016年7月	2	4	6	2	2016年9～10月	4	2	6	3	2016年11月	1	1	2	合計		7	7	14
モニタリング実施時期				モニタリングサイト数																									
		BM州	HB州	合計																									
1	2016年7月	2	4	6																									
2	2016年9～10月	4	2	6																									
3	2016年11月	1	1	2																									
合計		7	7	14																									
<p>1-4 一般農家における搾油用ゴマ生産拡大と生計向上を可能とする組織・営農のあり方を検討し、提案する。（契約栽培、組織強化等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 収量の実測、労働負荷調査（文献・聞き取り調査）、マーケットでの価格調査（文献・聞き取り調査）を行い、ゴマの7月中旬播種の営農的評価が実施された。 - Farako -Ba ステーションの試験圃場にて、ゴマの播種日試験と並行して、試験的にダイズ、ラッカセイ、ササゲの播種日試験が実施された。 																												
<p>1-5 生産者の組織活動及び運営体制強化のための研修を行う。（組織マネジメント、資金アクセス等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 2016年には、組織強化研修（農民グループの能力強化研修）について、各州4回の研修が実施された（合計8回）。 - 2016年12月に、FFS/FBS研修、組織強化研修、種子生産研修の総括ワークショップが実施された。 																												
<p>活動2</p>																													
<p>2-1 候補品種の特性を調査する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ブルキナファソのローカル種子のうち、有望であると考えられる約40種のゴマ品種が分離され、純粋選抜が実施された。 - 2016年の乾季には Gampela サイトで50種のゴマの試験栽培が実施された。試験栽培の結果に基づいて、VAT試験の対象品種として4品種（S42、3215、Humera、Wollega）が用いられ、8品種（GMP3、SIE2、KDG3、KDG5、BEN2、BEN4、PSK1およびMDK2）が候補品種として選定された。 - 2016年の雨季には、Gampela サイトにおいて、50種の特性試験を実施した。これらの調査結果はワガドゥグ大学の学生による修士論文として発表されている。 - 2017年には、36品種を対象に特性試験を実施したが、試験対象のゴマの半数が牛の食害を受けたため、関連する研究は中止された。 																												

<p>2-2 食用ゴマとしての適性及び栽培適性を確認し、普及品種を選定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 品種選抜の研究方針案が作成された。 - 2016年には、① Pissila サイト (Kaya、白・黒ゴマ)、② Gampela サイト (ワガドゥグ、黒ゴマ)、③ CPR サイト (Dédougou、白ゴマ)、④ Makognadougou サイト (Bobo-Diulasso、白ゴマ)、⑤ Farako-Ba サイト (Bobo-Diulasso、黒ゴマ)、⑥ Niangoloko サイト (Banfora、白ゴマ) の計6カ所の検査サイトが設置された。 - 2017年は、Gampela (Ouagadougou、黒ゴマ)、Makognadougou サイト (Bobo-Diulasso、白ゴマ) で特性試験を実施した。 - 4つのサイトにて農家参加による品種選抜が行われた。合計135名(開花期64名、登熟期71名)が選抜に参加した。
<p>2-3 食用ゴマの栽培試験を行い、栽培技術を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - MKD2、GMP3について、①播種日試験 (CPR サイト/BM州及びFarako-Baステーション/HB州)、②施肥試験 (Badala サイト/BM州) 及びGampela/ワガドゥグ)、③播種密度試験 (Makognadougou サイト/HB州) が実施された。 - 2017年には、Badala サイトにて、純化作業が実施されている。また、同様の活動がMakognadougou サイトで実施される予定である。
<p>2-4 食用ゴマの新品種国家品種登録を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 品質登録システムに関する調査が実施され、必要な手順が明らかにされた。
<p>2-5 食用ゴマの生産技術の普及研修とモニタリングを実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 活動2-5は、成果1の活動1-3に統合された。
<p>2-6 一般農家における食用ゴマ生産拡大と生計向上を可能とする組織・営農のあり方を検討し、提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 活動2-6は、成果1の活動1-3に統合された。
<p>2-7 生産者の組織活動及び運営体制強化のための研修を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 活動2-7は、成果1の活動1-3に統合された。
<p>活動3</p>	
<p>3-1 適切な原種生産のための研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ゴマの原種種子の適切な生産に関する研究のため、2016年の乾季(2月～6月)に、BM州のBadalaサイトにて約1haの原種生産が実施された。

<p>3-2 種子生産農家へ普及指導を行う講師に対し、指導能力を強化するための研修を実施する。</p>	<p>- JICA 優良種子プロジェクト (PDSA, 2009-2012) において作成されたマニュアルを活用するため、カウンターパート職員と共同でのマニュアル改訂作業が進行中である。</p>
<p>3-3 種子生産農家に対し、優良種子の生産能力を強化するための研修を実施する。</p>	<p>- 2015 年には種子生産に関する理論研修が 1 回実施された。 - 2016 年には種子生産研修について、各州 1 回の理論研修、各州 5 回の実践研修、各州 1 回の総括研修が実施された (合計 14 回)。 - 2017 年には各州 1 回の理論研修が実施された (合計 2 回)。 - 2016 年の研修について、アンケート調査によるモニタリングが、BM 州 12 グループ、13 名、HB 州 13 グループ、13 名を対象に実施された。</p>
<p>3-4 プロジェクトで対象とする種子の生産・配布体制を構築する。(モニタリング、指導等)</p>	<p>- BM・HB 両州にて技術支援エリア (Zone d' Appui Technique : ZAT) / 技術指導ユニット (Unité d' Animation Technique : UAT) を対象に、種子生産研修モニタリング実施方針説明会が実施された。 - 2016 年 7 月に BM 州 Mouhoun 県 Wiloho と Bouamissé、HB 州 Houet 県 Satiri と Léna を訪問し、認証種子生産の現地モニタリングが実施された。 - プロジェクトが提供した種子生産研修に参加したゴマ生産農家のうち、BM 州では 2016 年の研修に参加した 13 名、2017 年の研修に参加した 2 名が登録を完了、HB 州では 2017 年の研修に参加した 14 名が登録を完了している (2017 年 4 月時点)。</p>
<p>活動 4</p>	
<p>4-1 国際市場におけるマーケティング能力を強化する。(市場ニーズ調査、国際見本市参加促進、作況予測手法の検討等)</p>	<p>- 2016 年にブルキナファソ国内で生産されたゴマから試料を収集し、日本国内において分析が行われた。 - 東京にて 2 回の本邦プラットフォーム (2015 年 5 月、2016 年 6 月) が開催され、農薬管理に関する課題が議論された。2017 年 9 月には、第 3 回本邦ゴマプラットフォームを開催予定。</p>
<p>4-2 市場ニーズに基づく品質管理に関する研修を実施する。(夾雑物処理、農薬使用管理、検査体制の強化等)</p>	<p>- 2016 年に農薬管理に関する調査、収穫後処理に関する調査並びに、ゴマの流通に関する調査が実施された。 - 2016 年 11 月には、BM 州流通業者を対象とした流通セミナーが実施された。</p>
<p>4-3 ゴマ関連団体の組織を強化するとともにゴマ分野全体のクラスターを強化する。</p>	<p>- 2016 年 8 月にブルキナファソプラットフォームが開催され、47 名が参加した。</p>

4-4 生産・流通・市場情報の共有を促進する。	- 2016年6月、9月に本邦研修（流通分野・生産分野）が2回実施された。
----------------------------	---------------------------------------

2-2-2 成果の達成状況

本プロジェクトの活動はPOに沿って着実に実施されているものの、PDMの指標が適切に設定されておらず、成果の達成状況を正確に測定することは困難である。そのため、本調査においては、表-5のとおり一部の成果について補足指標を用いることとした。

表-5 PDMの成果指標と補足指標

	PDM 指標	補足指標
成果 1	1-1 搾油用ゴマ栽培による農家一人当たりの生産性（● kg/ha → ● kg/ha） 1-2 受益者数に関する指標が検討されている 1-3 栽培技術普及のために実施された研修の回数（●回）及び参加者数（●名） 1-4 組織活動と管理システムの強化のために提供された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）	<ul style="list-style-type: none"> 対象グループの農家が最適な時期に播種を完了する 対象グループの農家が認証種子を使用する 対象グループの農家の1ha当たりのゴマの収量が増加する
成果 2	2-1 普及に適した品種の選択 2-2 INERAによる新品種の承認 2-3 受益者数に関する指標が検討されている 2-4 栽培技術普及のために実施された研修の回数（●回）及び参加者数（●名） 2-5 組織活動と管理システムの強化のために提供された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）	<ul style="list-style-type: none"> 複数の登録申請を国家種子委員会（Comite National de Semance : CNS）に提出する 新品種のデータシートをINERAが承認する
成果 3	3-1 選択した搾油用ゴマの種子生産量（● kg → ● kg） 3-2 食用ゴマの種子中の異なる色の種子の混合比（● % から ● %） 3-3 選択された食用ゴマの原種種子の量（● kg/年） 3-4 食用ゴマの種子を生産する農家の数（●農家） 3-5 食用ゴマの種子生産に使われた農地の総面積（● ha）	<ul style="list-style-type: none"> 認証種子生産検査マニュアルの更新 種子生産に関する理論研修の実施回数と参加者数 INERA/PRPSの研修コースで訓練された農家による認定ゴマの生産量 全国種子生産者リストに新たに登録された農家の数
成果 4	4-1 ゴマの国際的な市場動向を理解するための仕組みを構築する 4-2 品質管理のために実施された研修の回数（●回） 4-3 ゴマの職業間組織の強化に関する指標が検討されている 4-4 ゴマ関連情報の発信回数（●回）	

(1) 成果1の達成状況

成果1：搾油用ゴマの生産性が改善される。

成果1の指標の全てが現時点で未達成、もしくは達成状況の判断が困難である。また、指標の設定が適切ではなく、進捗状況を確認するために必要なデータの入手も難しい。

指標 1-1：搾油用ゴマ栽培による農家一人当たりの生産性（● kg/ha → ● kg/ha）

- 中間レビュー時点で指標の達成を判断するためのデータの入手が困難である。
- 指標には数値目標が設定されていないため、達成状況を判断することはできない。

対象農家のゴマの生産性の推移に関連する正確なデータがないため、指標 1-1 の達成状況を判断することは難しい。ベースライン調査によれば、過去 13 年間のゴマの収量の全国平均は 502 kg/ha であり、対象地域の収量は BM 州で 400 ～ 800 kg/ha（2015 年～ 2016 年）、HB 州で 180 ～ 430 kg/ha（2015 年～ 2016 年）であった。FFS/FBS の研修を通じて種子の種類（認証種子、ローカル種子）や施肥の有無による生産性の違いが確認されており、活動が順調に進捗し、FFS/FBS 研修並びに中核農家による技術の普及が計画どおりに進めば、対象農家のゴマ生産性の向上が期待できる。

指標 1-2：受益者数に関する指標が検討されている

- 指標は検討中であるが、当初の計画（詳細計画策定調査報告書）で目標としている受益者の人数は、プロジェクトの後半で達成される見込みである。

2013 年 9 月に実施された詳細計画策定調査において想定されていた受益者の目標数は、①中核農家：約 60 ～ 100 名、② FFS/FBS に参加した農民：約 1,000 名である。したがって、この数値目標を想定した下記の補足指標を用いて、達成状況を測定した。

- 補足指標：中核農家が指導する FFS/FBS に参加した農民の数

表-6 に示すとおり、プロジェクトはこれまでに、2つの対象州（BM 州、HB 州）において、合計 61 グループ、122 名の中核農家を選定し、FFS/FBS 研修（ファシリテーター研修、実践研修、総括研修）を実施している。研修に参加した中核農家が実施した FFS には合計 550 名、FBS には合計 520 名のゴマ生産農家が参加しており、このうち 310 名がプロジェクトによって移転された技術を少なくとも 1 つ導入している。プロジェクトの FFS/FBS 研修の対象は毎年異なる地域のゴマ生産農家を選定していることから、受益者の数は今後も増加する見込みである。

表－6 プロジェクトの受益者数（中核農家 / ゴマ生産農家）

	中核農家	グループ内 農家の数	ゴマ生産 農家の数	FFS (*1)	FBS (*2)	技術移転 (*3)
BM 州 (2016 年)	14 グループ 28 名	424	289	302	262	232
BM 州 (2017 年)	15 グループ 30 名	-	-	-	-	-
HB 州 (2016 年)	14 グループ 28 名	354	102	248	258	78
HB 州 (2017 年)	18 グループ 36 名	-	-	-	-	-
合計	61 グループ 122 名	778	391	550	520	310

(*1) FFS に少なくとも 1 回参加した農家の数 (*2) FBS に少なくとも 1 回参加した農家の数

(*3) FFS/FBS で紹介された技術のうち少なくとも 1 つを導入した農家の数

(出所：業務進捗報告書を基に調査団員が作成)

指標 1-3：栽培技術普及のために実施された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）

- 栽培技術を普及させるための研修の回数、参加者数は計画どおりに達成されている。
- 指標には数値目標が設定されていないため、達成状況を判断することはできない。

指標には数値目標が設定されておらず、達成状況を正確に測定することはできないものの、2016 年の研修は全て計画どおりに実施されており、着実な成果が見られる。中間レビュー調査の時点で、FFS/FBS 研修の実施を阻害する要因はないことから、計画どおりに活動が実施されれば、指標はプロジェクトが目指すレベルで達成されることが見込まれる。なお、現在までに、FFS/FBS の研修は計 15 回行われ、平均 26.3 名の農家が参加している。また、2017 年には、2016 年の対象農家とは別の農民グループを対象とした研修が実施されており、研修の参加者数は増加している（表－7 参照）。

表－7 研修参加者数（FFS/FBS 研修）

研修コース	HB 州		BM 州	
	日付	参加者数	日付	参加者数
FFS/FBS ファシリテーター研修 (2016)	2016 年 6 月 8～10 日	30 名	2016 年 6 月 1～3 日	28 名
FFS/FBS 実践研修 (第 1 回 /2016)	2016 年 6 月 30 日	28 名	2016 年 6 月 28 日	25 名
FFS/FBS 実践研修 (第 2 回 /2016)	2016 年 7 月 14 日	28 名	2016 年 7 月 12 日 (2016 年 8 月 2 日) ⁵	26 名
FFS/FBS 実践研修 (第 3 回 /2016)	2016 年 8 月 10 日	27 名	2016 年 8 月 25 日	25 名
FFS/FBS 実践研修 (第 4 回 /2016)	2016 年 10 月 6 日	23 名	2016 年 10 月 13 日	25 名
FFS/FBS 実践研修 (第 5 回 /2016)	2016 年 10 月 20 日	24 名	2016 年 10 月 27 日	24 名
FFS/FBS 実践研修 (総括回 /2016)	2016 年 12 月 8 日	25 名	2016 年 12 月 6 日	26 名
FFS/FBS ファシリテーター研修 (2017)	2017 年 4 月 25～27 日	30 名		

(出所：業務進捗報告書を基に調査団員が作成)

⁵ BM 州の第 2 回目 FFS/FBS 実践研修は、2016 年 7 月 12 日に実施予定であったが、第一回目の FFS/FBS 実践研修で播種したゴマの生育が思わしくなかったことから、8 月 2 日に延期された。

- 補足指標：対象グループの農家が、最適な時期に播種を完了する

HB 州 Houet 県に位置する K.Vigué 村のゴマ生産農家への聞き取り調査では、研修から学んだ栽培技術のうち、特に有益と思う技術は「適切な播種時期」であるという回答が得られた。播種のタイミングはゴマの生産性に大きく影響することから、播種時期に関する補足指標は、成果達成に向けた活動の進捗状況を判断するために用いることが可能である。本補足指標に関しては、達成に向けてポジティブな進展が見られる。2016 年にプロジェクトが実施したアンケート調査によると、22 グループの中核農家が、合計 467 名のゴマ生産農家に対して栽培カレンダーの使用法の指導を行っている（表－8 を参照）。実際の播種時期を確認するためのデータは、2017 年雨季の播種完了以降に入手可能となる。

表－8 栽培カレンダーに関する FBS の実施

	対象グループ数	栽培カレンダーに関する FBS を実施したグループ数	参加者数
BM 州	14 グループ	11 グループ	257 名
HB 州	14 グループ	11 グループ	210 名

(出所：業務進捗報告書を基に調査団員が作成)

- 補足指標：対象グループの農家が認証種子を使用する

ゴマの生産性向上のためには品質が保証された認証種子の使用が推奨される。中間レビュー調査団による聞き取り調査では、中核農家による FFS/FBS に参加したゴマ生産農家は、「適切な品質の種子の使用に関する知識が向上した」と感じていることが分かった。認証種子の使用状況を示すデータは、搾油用ゴマの生産性の改善を目指す成果 1 の達成を計測するために有用であると考えられる。ただし、現時点で 2017 年のゴマの播種が完了していないため、認証種子の利用に関連するデータの入手は、2017 年雨季の播種完了以降となる。

指標 1-4：組織活動と管理システムの強化のために提供された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）

- 農家グループを対象とした組織強化研修の実施回数及び参加者数は計画どおりに達成されている。
- 指標には数値目標が設定されていないため、達成状況を判断することはできない。

指標 1-4 の達成状況を測定することは困難である。ただし、中間レビュー調査の時点で、組織強化研修の実施を阻害する要因はないことから、計画どおりに活動が実施されれば、指標はプロジェクトが目指すレベルで達成されることが見込まれる。なお、現在までに、組織強化研修は計 8 回行われ、表－9 のとおり平均 25 名の農家が参加している。プロジェクトでは、研修後に参加者からのフィードバックを収集し、次回以降の研修内容の継続的な改善に役立てている。

表－9 研修参加者数（組織強化研修）

研修コース	HB 州		BM 州	
	日付	参加者数	日付	参加者数
組織強化研修（第1回/2016年）	2016年6月30日	28名	2016年6月28日	25名
組織強化研修（第2回/2016年）	2016年10月6日	23名	2016年10月13日	25名
組織強化研修（第3回/2016年）	2016年10月20日	24名	2016年10月27日	24名
組織強化研修（総括セッション/2016年）	2016年12月8日	25名	2016年12月6日	26名

（出所：業務進捗報告書を基に調査団員が作成）

（2）成果2の達成状況

成果2：食用ゴマが導入され、生産体制が構築される。

成果2の活動のうち、食用ゴマに関連する研修の実施は成果1の活動と統合された。その他の活動については、大幅な遅延もなく計画どおりに実施されている。指標2-1は、プロジェクトの後半に達成されることが期待されているものの、指標2-2、2-3、2-4、2-5は、指標が適切に設定されておらず、達成状況を判断することは困難である。

指標2-1：導入に適した品種の選択

➤ プロジェクトの後半に指標が達成される見込みである。

Gampela サイトでは、2016年の乾季に50種のゴマ種子を試験的に栽培した。この試験栽培に基づいて、4種（S42、32-15、Humera、Wollega）をVAT試験の対象として選定した上で、8品種（GMP3、SIE2、KDG3、KDG5、BEN2、BEN4、PSK1およびMDK2）を候補品種として選択した。これらの品種は4つの地域で、135人の農家の参加の下で選抜され、また、S42、Humera、MKD2、GMP3を用いた食味試験も実施された。これらの結果から、有望な食用ゴマと考えられるMKD2とGMP3の生産システムの整備が進められている。

指標2-2：INERAによる新品種の承認

➤ 指標は未達成である。
 ➤ 指標の設定を再検討する必要がある。

プロジェクトの調査によると、国家品種登録は国家種子委員会（Comite National de Semance : CNS）によって審査が行われ、判断が下されることが分かった。したがって、新品種の承認を行う主体はINERAではない。CNSはDGPV総局長が議長を務め、農業省、環境省、科学技術省の主要3省に加え、警察省、法務省、保健省、経済省などから指名されたメンバーで構成されている。また、CNSのサブコミッティーのチームがINREAのFarako-Baステーションに設置されており、科学的な審査を行っている。

- 補足指標：品種登録の申請用紙を CNS に提出する

補足指標は、プロジェクト終了時まで達成されることが見込まれる。ゴマの国家登録制度に関する調査は完了しており、品種登録の申請に必要な手続きが明らかにされている。また、品種登録に必要な試験データの収集は着実に進んでおり、2018 年後半には申請の準備が整うことが見込まれている。なお、全国品種登録の国家カタログは 5 年ごとに更新されるため、次の登録機会は 2019 年となる。

- 補足指標：新品種のデータシートを INERA が承認する

補足指標は、プロジェクトの後半に達成されることが見込まれている。活動の進捗状況で述べたとおり、DHS 試験、VAT 試験を通じて得られたデータは整理、分析が進められており、ゴマの原種種子の生産に関する研究も進行中である。これらの研究の成果はプロジェクト後半で取りまとめられ、新品種の技術仕様書が INERA の承認を受ける予定である。

指標 2-3：受益者数に関する指標が検討されている

➤ 指標は検討中であるが、当初の計画（詳細計画策定調査報告書）で目標としている受益者の人数は、プロジェクトの後半で達成される見込みである。

成果 2 の活動の対象となる農民グループは、成果 1 の活動の対象となる農民グループと同一である。そのため、指標 1-2 と同様に、受益者数（中核農家、FFS/FBS に参加したゴマ生産農家）については、当初計画の目標値を達成することが見込まれている。

指標 2-4：栽培技術普及のために実施された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）

指標 2-5：組織活動と管理システムの強化のために提供された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）

➤ 指標 2-4、指標 2-5 の達成状況を測定することは困難である。関連する活動は成果 2 の下では実施されておらず、指標のデータを入手することは不可能である。

食用ゴマの栽培に関する研修(活動 2-5、2-6、2-7)はブルキナファソ側のカウンターパートとの共通認識に基づき、活動の実施を取りやめている。そのため、本指標を用いて成果 2 の達成状況を測定することは不可能である。なお、成果 1 で実施されている研修では、ゴマ栽培技術に加えて、流通に関連するテーマを扱っており、本指標は成果 1 の達成状況の測定に用いられている。

(3) 成果 3 の達成状況

成果 3：プロジェクトが対象とする種子の生産・配布体制が整備される。

成果 3 に関連する活動は計画どおり実施されている。しかし、成果 3 の 5 つの指標のうち、4 つの指標（指標 3-2、3-3、3-4、3-5）については、指標の設定が適切ではなく、再検討する必要がある。中間レビュー調査においては、達成状況を測定するために複数の補

足指標を用いた。

指標 3-1：選択した搾油用ゴマの種子生産量（● kg → ● kg）
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 活動は実施中であり、現時点で指標に関連するデータを入手することは困難である。 ➤ 数値目標は設定されていないため、指標の達成状況を測定することは困難である。

2016年の研修に参加した農家のアンケート調査によると、① BM州では、アンケートに参加した13名の種子生産農家による総生産量は10,995 kg、1ha当たりの収量は53 kg/haから480 kg/haであった。また、② HB州では、アンケートに参加した13名の種子生産農家による総生産量は7,401 kg、1ha当たりの収量は、17 kg/ha～494 kg/haであった。

- 補足指標：種子生産に関する研修の回数と参加者数

表－10に示したとおり、現在までに種子生産研修（理論研修、実践研修、総括セミナー）は計17回実施され、平均27名の農家に参加している。今後も研修は継続実施されていく予定であり、研修回数、研修参加者数は増加していくことが見込まれる。

表－10：研修参加者数（種子生産研修）

研修コース	HB 州		BM 州	
	日付	参加者数	日付	参加者数
種子生産 理論研修（2015年）	2015年6月16～17日	34名		
種子生産 理論研修（2016年）	2016年6月7日～8日	30名	2016年5月31日～6月1日	25名
種子生産 実践研修（第1回/2016年）	2016年6月30日	28名	2016年6月28日	25名
種子生産 実践研修（第2回/2016年）	2016年7月14日	28名	2016年7月12日	26名
種子生産 実践研修（第3回/2016年）	2016年8月10日	27名	2016年8月25日	25名
種子生産 実践研修（第4回/2016年）	2016年10月6日	23名	2016年10月13日	25名
種子生産 実践研修（第5回/2016年）	2016年10月20日	24名	2016年10月27日	24名
種子生産 総括セミナー	2016年12月8日	25名	2016年12月6日	26名
種子生産 理論研修（2017年）	2017年2月8～9日	27名	2017年2月15～16日	38名

（出所：業務進捗報告書を基に調査団員が作成）

- 補足指標：認証された種子生産の検査のためのマニュアルの更新

2008年～2012年の期間でJICAが実施した「ブルキナファソ国優良種子普及計画プロジェクト（PDSA 2008-2012）」で作成されたマニュアルの更新作業が進められている。同マニュアルはDGPVの職員、INERAの研究者、全国種子課（Service National des Semences：SNS）の査察官を含むプロジェクトメンバーによってレビューされている。このプロセスはプロジェクトの2018年までに完了する予定である。

指標 3-2：食用ゴマの種子中の異なる色の種子の混合比（● % → ● %）

指標 3-3：選択された食用ゴマの原種種子の量（● kg/年）

指標 3-4：食用ゴマの種子を生産する農家の数（● 農家）

指標 3-5：食用ゴマの種子生産に使われた農地の総面積（● ha）

➤ 指標に関連する活動が進行中であり、この指標の中間レビューのためのデータを入手することは困難である。

➤ これらの指標は再検討する必要がある。

これらの指標は食用ゴマを想定しているものの、本プロジェクトでは、関係者のニーズを考慮し食用ゴマに特化した活動を行っていない。そのため、これらの指標の達成状況を判断するためのデータの入手は困難である。また、指標の再検討に加え、関連する活動についても見直しを行う必要がある。

• 補足指標：全国種子生産者リストに新たに登録された農家の数

表－11に示すように、種子生産のための種子生産者登録を完了した農家の数は、対象2州の合計で29名であった。内訳はBM州が15名、HB州が14名（2017年2月22日時点）である。なお、2016年に種子生産研修に参加したHB州の中核農家は、2017年にも種子生産者リストへの登録を行わなかった。登録を行わなかった明確な理由は確認されていないが、K.Vigué村での聞き取り調査では、生産した認証種子を販売するための市場へのアクセス手段が限られており、村内で消費するゴマ種子が過剰供給になっているという問題が指摘された。

表－11 種子生産者登録数（2017年2月22日時点）

	2016年	2017年	合計
BM州	13名	2名	15名
HB州	0名	14名	14名
			29名

（出所：業務進捗報告書を基に調査団員が作成）

（4）成果4の達成状況

成果4：ゴマ関係者のマーケティング能力が改善される。

成果4の指標は明確に記載されておらず、成果の達成を測定することは困難である。そのため、成果4の成果を測定するためには適切な指標を設定する必要がある。

指標 4-1：ゴマの国際的な市場動向を理解するための仕組みを構築する

➤ 関連する活動は実施中であり、中間レビュー時点で指標の達成状況を測定するデータを入手することは困難である。

ゴマ種子のプラットフォームは、日本で2回(2015年5月と2016年6月)、ブルキナファソで1回(2016年8月)開催された。これらのプラットフォームは、ブルキナファソのゴマ関係者が国際市場の動向を理解するための重要な機会となっている。また、農薬管理に関連して、日本人専門家は、BM州およびHB州のゴマ生産農家を訪問し、収穫、乾燥、脱穀及びスクリーニングの作業を視察するとともに、ブルキナファソ国内で採集したゴマのサンプルを日本に持ち帰り分析を行っている。これらの取り組みを通じて明らかになった事項は、今後の品質管理に役立てられる。

指標 4-2：品質管理のために実施された研修の回数（●回）

➤ 指標には数値目標が設定されていないため、達成状況を判断することはできない。

数値目標が設定されていないため、指標の達成状況を測定することは困難である。プロジェクトは、2016年11月29日にBM州でゴマ関係の業者を対象とした研修を行い、24名が参加した。2017年には、第2回目の研修が予定されており、研修内容に関する協議が進められている。また、ブルキナファソ産のゴマ取扱業者から採集した13のサンプルと、生産者から収集したゴマの23サンプルを用いた残留農薬の分析を日本国内で実施した。

指標 4-3：ゴマの職業間組織の強化に関する指標が検討されている

➤ 指標を検討中である。ゴマの職業間組織の強化の指標を設定する必要がある。

指標が適切に設定されていないため、達成状況を測定することは困難である。ゴマの職業間組織（インタープロフェッション）の強化に関する指標を検討し、設定する必要がある。

指標 4-4：ゴマ関連情報の発信回数（●回）

➤ 指標には数値目標が設定されていないため、達成状況を判断することはできない。

本指標はゴマ関連情報の発信にかかわる活動の結果を測定するものである。中間レビュー調査の時点で、ゴマ関連の情報発信を阻害する要因はないことから、計画どおりに活動が実施されれば、指標は意図されたレベルで達成されることが見込まれる。なお、現時点で日本語とフランス語の2言語で発行されたパンフレット(2016、2017)、ならびに計5回のニュースレター(vol.1～vol.5)の発行が行われた。

2-3 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標：プロジェクト対象農家のゴマの生産性と収入が改善される。

現行のPDMでは、指標が適切に設定されていないため、プロジェクト目標の達成の見込みを判断することはできない。また、ブルキナファソ側カウンターパートの正式な任命の遅れと、日本人長期専門家(総括/農業・農村開発アドバイザー)の離任により、プロジェクト活動の多く

は 2016 年以降に開始されている。農家を対象とした研修は 2016 年のゴマ生産の時期、1 シーズンのみで実施されているため、活動の具体的な成果が観察され、指標に関連するデータの入手が可能となるまでには、一定の時間が必要である。

指標 1：搾油用ゴマ栽培による家計当たりの収入（● FCFA/年→● FCFA/年）
 指標 2：食用ゴマ栽培による家計当たりの収入（● FCFA/年→● FCFA/年）

- 必要なデータが入手できないため、指標の達成状況を測定することは困難である。
- 指標には数値目標が設定されていない。

プロジェクトの調査によると、ブルキナファソのゴマ生産農家のゴマ生産による収入は 1ha 当たり 103,000FCFA（約 19,000 円）と推定されている。ただし、PDM の指標に数値目標が設定されておらず、指標のデータを入手することも困難であるため、本指標を用いてプロジェクト目標達成の見込みを評価することは不可能である。また、収入の増減を指標とした場合、ゴマ生産農家の収入は販売価格の変動に大きく影響を受けることに留意する必要がある。

指標 3：搾油用ゴマ生産性（● kg/ha → ● kg/ha）
 指標 4：食用ゴマ生産性（● kg/ha → ● kg/ha）

- 搾油用ゴマ、食用ゴマといった用途ごとのゴマの生産性に関するデータの入手ができないため、指標の達成状況を測定することは困難である。
- 指標には数値目標が設定されていない。

指標に関連するデータが現時点で入手困難であり、なおかつ数値目標が設定されていないことから、指標の達成見込みを正確に評価することが難しい。また、搾油用ゴマ、食用ゴマの個別の生産性の増減を判断するための基準データを入手することができないことから、これらの指標については、再設定をする必要がある。

2-4 上位目標の達成見込み

上位目標：ゴマの輸出量が増大する。

中間レビューの時点で上位目標の達成見込みを判断することは時期尚早である。また、プロジェクト目標と上位目標との因果関係が明確ではないことに加え、上位目標を達成するための道筋についても明らかではないため、上位目標の設定を見直す必要がある。

指標 1：搾油用ゴマの輸出高（● 万 t → ● 万 t）
 指標 2：食用ゴマの輸出高（● 万 t → ● 万 t）

- 搾油用ゴマ、食用ゴマといった用途ごとのゴマ輸出量に関するデータの取得は困難であり、指標の達成見込みを判断することは困難である。
- 指標には数値目標が設定されていない。

ゴマの輸出量に関しては、表-12 に示すように、プロジェクトが開始された 2014 年と比較し

て2015年、2016年ともに増加している。しかしながら輸出量の増加には、国際価格の変動や、気象条件による生産量の増減といったさまざまな要因が影響することから、ゴマ輸出量の増加とプロジェクト活動の成果との因果関係は不明である。したがって、上位目標である「ゴマの輸出量が増大する」については、目標設定の妥当性を考慮する必要がある。

表－12 ゴマ輸出量の推移

2014年	2015年	2016年
94,889 t	171,461 t	159,837 t

(出所：Trade map 120740 Sesamum seeds, whether or not broken)

2-5 プロジェクトの実施プロセス

プロジェクトの効果発現に貢献した要因並びにプロジェクトの効率的な実施を阻害した問題点として、以下の項目が挙げられる。

2-5-1 プロジェクトの効果発現に貢献した要因

(1) フィードバックを活用した継続的な改善

プロジェクトは、各研修の実施から得たフィードバックや教訓を活用し、継続的な研修内容の改善に取り組んでいる。例えば、2016年の研修には、フランス語を十分に理解しない中核農家が研修に参加していたことにより効率的な研修の実施が困難であった。こうした問題を改善するため、研修に参加する中核農家の選定は、明確なクライテリアに基づき慎重に行われた。また、研修の実施時期、内容、期間は、前回研修の結果やフィードバック、所見に基づいて必要な変更がなされている。こうした、PDCAサイクル(Plan-Do-Check-Action)は、適切に機能しており、対象ゴマ生産農家への効率的な技術移転に寄与している。

(2) ローカルリソースの活用

プロジェクトでは、他ドナーや政府機関によって実施されたゴマセクターの支援事業を通じてブルキナファソに蓄積された既存のリソースを活用し、効率的な活動を実施している。特に研修の実施に当たっては、他ドナーが実施するプロジェクトに直接関与した経験のある地域の専門家を登用しており、研修の内容については、地域の状況を十分に把握している専門家との討議を通じて決定されている。また、JICAが過去に実施した優良種子普及計画プロジェクト、ドイツ国際協力公社(Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit: GIZ)の実施した農業開発プログラム(Programme Développement de l'Agriculture: PDA)など、他のプロジェクトによって開発されたマニュアルや研修教材を活用している。

2-5-2 プロジェクトの問題点

(1) コミュニケーションと相互理解の不足

プロジェクトメンバー間のコミュニケーションには課題が見られる。関係者間の日常的なコミュニケーションは十分とは言えず、多くのカウンターパート職員にとって、合同調

整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）がプロジェクト進捗に関する情報を入手するための主な機会となっている。JCCなどの正式な会合では、参加者の手当やその他の費用を賄うための予算配分が必要であるが、ブルキナファソ側が負担すべき予算が不足しているためJCC以外の会議の頻度は十分ではない。また、カウンターパート職員が通常業務で多忙であることもあり、予算を必要としない定期的な会議は開催されていない。こうした事情により、プロジェクト関連の情報共有の機会が限られており、カウンターパート職員のプロジェクト活動への参加や、プロジェクトに関する相互理解の醸成を阻害している。

（2）PDMの修正の遅れ

ベースライン調査の結果の検証が遅れたため、PDMの改訂が適切なタイミングで実施されていない。現在のPDMに設定された指標は具体的な記述に欠けており、各活動の目標が明確ではない。プロジェクトの適切な枠組みが整理されていないため、プロジェクト関係者が活動の実施、及びその目標を達成するための道筋について共通認識を持つことができていない。

（3）ブルキナファソ側による予算配分の制限

ブルキナファソ側の活動を効果的に実施するための予算配賦が十分ではない。カウンターパート職員は予算不足が原因でプロジェクト活動に積極的に参加することができず、円滑なプロジェクト運営が困難になっている。カウンターパート職員の活動への関与の機会が制限されることにより、先方のオーナーシップ意識が希薄になり、さらに活動への参加意欲が低下するという悪循環に陥っている。また、カウンターパート職員以外で、プロジェクトの効果発現に重要な役割を果たすZAT/UATなどの地方農業機関の巻き込みが不十分であり、プロジェクトによる技術移転の普及メカニズムの有効性が損われている。

第3章 プロジェクトの実績と達成状況

3-1 評価5項目による評価結果

3-1-1 妥当性：やや高い

プロジェクト目標及び上位目標は、ブルキナファソにおける農業セクターの国家戦略並びにわが国の対ブルキナファソ援助方針と整合している。また、プロジェクトの活動は対象地域の農民やゴマ関係者のニーズを満たすものである。一方、プロジェクトの最終受益者であるゴマ生産農家への技術移転のアプローチについては改善の余地がある。

(1) 国家政策に見る優先課題

本プロジェクトは、経済成長加速のために農業分野に重点を置くブルキナファソの開発戦略と整合している。ブルキナファソ政府は成長加速化に向けた戦略文書である SCADD に対応する農業分野の実行計画文書として PNSR を策定しており、ゴマを含む搾油作物に国際市場への輸出が可能な農産物としての高い優先順位を付けている。本プロジェクトは、ゴマの生産性向上とゴマの輸出量の増加を目指しており、上述のブルキナファソの開発戦略や実行計画の方針と整合している。

(2) 必要性

ゴマは対象地域の農民にとって重要な換金作物の一つである。ゴマの 1ha 当たりの生産性の向上及びゴマフィリエール関係者のマーケティング能力の強化は、対象となるゴマ生産農家の収入向上に寄与することが期待される。また、ゴマの輸出はブルキナファソにおける外貨獲得の重要な機会であることから、ゴマを取り扱う輸出業者の能力強化に関するニーズも高いと言える。したがって、プロジェクトが目標とするゴマの生産性の向上と収入の改善に向けた各活動はゴマ関係者と最終受益者のニーズを満たしていると言える。

(3) プロジェクトアプローチの適切性

本プロジェクトは、適切な技術の普及、認証種子の導入、ゴマセクター関係者の能力向上を通じてゴマ生産の強化を目指すものであり、プロジェクトのアプローチはおおむね適切である。また、対象地域と中核農家の選定についても明確なクライテリアに基づき注意深く実施されている。一方で、移転した技術を対象地域に普及・定着させるためには、中核農家が実施する FFS/FBS を定期的にサポートする仕組みが必要となる。しかしながら、モニタリング並びにフォローアップの体制が適切に構築されておらず、プロジェクトのアプローチに課題が見られる。プロジェクト前半では、地域の農業普及員である ZAT/UAT の活動予算の不足が主な原因で十分にプロジェクト活動に関与することができておらず、プロジェクトによるモニタリングは 14 地域対象に合計 3 回の実施に留まっている。

(4) プロジェクト実施体制の適切性

プロジェクト関係者の役割分担は明確にされているものの、予算面での制約により中心的なカウンターパート機関である DGPER のプロジェクトへの関与が十分ではなかった。また、その他のカウンターパート機関である INERA、DGPV に加え、研修後のモニタリ

ング、フォローアップで重要な役割を持つ ZAT/UAT のプロジェクトへの関与も不十分であった。プロジェクト後半においては、成果 1～成果 3 の活動について、これらのカウンターパート機関の積極的な参加の下で実施される必要がある。なお、プロジェクトの活動予算が適切に配賦されていないことを含め、先方カウンターパート機関のオーナーシップ意識の低さが観察されたが、その原因の一つとして、カウンターパート機関の日常業務とプロジェクト活動の内容のギャップが指摘される。

3-1-2 有効性：測定不能

指標が適切に設定されておらず、中間レビュー時点で関連するデータの入手ができないことから、プロジェクト目標の達成の見込みを判断することが難しい。そのため、現行の PDM に基づいて、有効性を適切に評価することはできない。

(1) プロジェクト目標の達成見込み

「2-3 プロジェクト目標の達成見込み」で述べたとおり、現行の PDM で設定された指標は適切ではない、もしくは記述が明確ではないため、プロジェクト目標の達成の見込みを正確に評価することは困難である。中核農家を対象とした各種の研修はプロジェクトチームが派遣された 2016 年から本格的に開始され、おおむね計画どおりに実施されているものの、研修成果を普及・定着させるためのモニタリングやフォローアップの仕組みは、依然として構築途上にある。また、ブルキナファソ側のカウンターパート職員の正式な配置が遅れたことにより、多くの活動について計画されている技術移転の成果が十分に発現していない。ゴマの生産は 1 年に 1 回しか行えないため、プロジェクトの具体的な成果を確認するためのデータの取得には一定の時間が必要となる。

(2) プロジェクト目標と各成果の因果関係

PDM におけるプロジェクト目標と成果の因果関係は、おおむね適切である。本プロジェクトは、地域のゴマ生産農家やゴマ分野の関係者の能力強化を通じて、ゴマの生産の仕組みを強化することを目的に実施されている。この目的の達成のために、FFS/FBS を通じたゴマの生産性向上（成果 1）、食用ゴマ種子生産システムの導入・構築（成果 2）、ゴマ種子の生産と流通のためのシステムの開発（成果 3）を行うとともに、ゴマセクター関係者のマーケティング能力を強化（成果 4）するというプロジェクト設計になっている。

しかしながら、中間レビュー調査においては、食用ゴマの生産システムの構築と導入には一定の期間が必要であり、プロジェクト完了までに対応することが不可能であることが明らかになった。

(3) プロジェクト目標達成に影響する外部条件

プロジェクトによるモニタリング体制の構築、地域の関係者によるフォローアップ体制の整備の遅れは、プロジェクト目標達成の阻害要因となる。中核農家による技術普及を計画している本プロジェクトのアプローチは、対象地域のゴマ生産農家にはなじみの薄い手法であり、FFS/FBS の実施促進のためには、適切なモニタリングの仕組みが必須である。また、ZAT/UAT 等の地域の関係者によるフォローアップ体制の整備は、一般農家が移転

された技術と知識を継続的に使用し、それらが地域に定着するために必要不可欠である。

なお、プロジェクト目標の外部条件である「国際市場におけるゴマの価格が大幅に下落しない」は、中間レビュー調査時点で満たされていることが確認された。

3-1-3 効率性：中程度

日本側投入はおおむね適切であり、期待される成果の実現に寄与している。一方で、ブルキナファソ側の予算配賦が十分ではなく、カウンターパート職員の積極的なプロジェクトへの関与が制限されている。

(1) 日本側の投入

2014年の政変の影響と日本人長期専門家の辞任により、本格的な活動の開始は当初の計画よりも大幅に遅れている。プロジェクトを取り巻くこのような困難な状況において、日本人専門家は高度な専門知識を駆使して活動に取り組んでいる。プロジェクト活動に用いる資機材は各活動の必要性に応じて随時調達され、試験圃場などの現場で活用されている。また、本邦研修、第三国研修は戦略的に計画、実施された。本邦研修に参加したカウンターパート職員は、研修終了後にプロジェクト活動に積極的に関与し、日常業務において研修で学んだ知識・技術を活用している。

(2) ブルキナファソ側の投入

ブルキナファソ側の予算配賦が十分でなかったことにより、カウンターパート職員のプロジェクトへの関与は限られている。プロジェクトの残りの期間における効率的な活動実施に向けては、適切な予算配賦と、カウンターパート機関の積極的な参加が必須となる。人的資源に関しては、DGPER、DGPV、INERA、DRAAHから合計19名のカウンターパート職員が配置されており、JCC等の会議に出席をしている。また、3カ所の日本の専門家の執務スペース（DRAAH-BM、DRAAH-HB、DGPER）並びに4カ所の試験圃場（CPR Kurougou、INERA Gampela、INERA Farako-Ba、INERA Niangoloko）がブルキナファソ側から提供された。

3-1-4 インパクト：時期尚早

(1) 上位目標の達成見込み

中間レビュー時点で、多くの活動が実施中であり、プロジェクトのインパクトを測定することは時期尚早である。また、現行のPDMの指標を用いて上位目標達成見込みとプロジェクトの効果の規模を予測することも困難である。プロジェクト完了後にブルキナファソ国内の他地域でFFS/FBSを普及させるための道筋が明確ではなく、プロジェクトの成果がどの程度広がっていくかについても明確な判断根拠がない。

(2) プロジェクト目標と上位目標の因果関係

プロジェクトの上位目標はゴマの輸出の増加であり、プロジェクトの目的は地域の農家の生産性と収入の改善である。現時点で上位目標を達成するための道筋が明確にされてはならず、上位目標を達成するという観点で実施されている活動はない。また、ゴマの輸出

量の増減については、国際的なゴマの価格や気象条件などの外部要因が大きく影響することから、プロジェクトの貢献度を測定することは困難である。そのため、上位目標の設定自体が適切ではないと考えられる。

(3) その他のインパクト

中間レビュー時点で正負の波及効果は見られない。本プロジェクトの多くの活動は2016年に開始されており、ブルキナファソのゴマ分野に何かしらの波及効果を生み出すためには、一定の時間が必要である。

3-1-5 持続性：やや低い

政策面の持続性は確保されることが見込まれるが、組織面、財政面、技術面での持続性には改善すべき課題が見られるため、プロジェクトの後半に向けて取り組みを強化していく必要がある。

(1) 政策面

本プロジェクトの目的は、ブルキナファソ政府の国家開発戦略及び農村セクター開発計画と一致しており、ゴマ生産の改善にかかわる優先順位は依然として高い。また、収穫後のゴマの取り扱いを規定した仕様書である「Cahier des Charges」が2016年に関係省庁により署名され、2017年に発効する予定である。さらに、栽培に関する「Cahier des Charges」も準備中であり、こうした状況は、プロジェクトの政策面の持続性の確保に貢献している。

(2) 組織面

中核農家を対象とした研修の計画立案から関係者の調整、研修実施など、プロジェクト完了後にプロジェクトの成果を活用していく主要なアクターが明確ではない。中心的なカウンターパート機関である DGPER は、国内及び地域の流通、収穫後処理、国内消費に関する業務に責任を負うが、プロジェクト活動は、技術開発、品種選択、技術普及、種子流通、農薬管理、輸出といった幅広い活動が含まれる。組織面での持続性を確保するためには、幅広いアクターのプロジェクト活動への積極的な巻き込みが必要である。

(3) 財政面

ブルキナファソ側が活動を継続的に実施していくための持続的な仕組みがない。活動予算の不足は、プロジェクト実施期間中においてもカウンターパート職員のプロジェクト活動への関与を阻害しており、財源確保の課題は、財務面の持続性のみならず、技術移転の効率性をも低下させている。

(4) 技術面

プロジェクトの主な技術移転の対象は、BM 州、HB 州のゴマ生産農家である。そのため、プロジェクトによる FFS/FBS 研修が終わった後に、中核農家による FFS/FBS が確実に実施されるためのモニタリングの仕組みが不可欠である。しかしながら、農民活動のサ

ポートにおいて中心的な役割を果たす ZAT/UAT の関与は、プロジェクト前半ではほとんど見られなかった。技術面での持続性確保に向けては、こうした地域のアクターの巻き込みが必須となる。一方で、プロジェクトで準備されたマニュアル、テキスト、ツールは、プロジェクト完了後にも現場レベルで活用されることが見込まれる。

3-2 結論

ブルキナファソでは、これまでもゴマ分野を対象とした他ドナー及び政府機関による支援事業が多く実施されてきた。プロジェクトはこれらの支援事業を通じてブルキナファソ国内に蓄積されたローカルリソースを活用し、効率的な事業運営を行っている。また、各種研修の実施においては、継続的な改善を計画に取り入れており、研修成果の向上に努めている。他方、ブルキナファソ側の予算が限られているため、カウンターパート職員が十分に活動に関与することができていない。また、日常的なコミュニケーションや情報共有においても課題があり、かつ PDM が適切に設定されていないことから、プロジェクトに関する共通理解の醸成が進んでいない。これらの要因がプロジェクトの円滑な実施を阻害している。

評価 5 項目の評価結果では、プロジェクトの妥当性は「やや高い」と評価した。プロジェクトのアプローチは、農業セクターを経済成長の柱とするブルキナファソの国家政策や日本の援助政策と合致しており、換金作物であるゴマの生産性の向上は関係者のニーズとも整合している。一方で、プロジェクトのデザインに関しては、改善すべき課題が見受けられた。有効性については「測定不能」と判断した。PDM の指標が適切に設定されておらず、プロジェクト目標の達成状況・見込みを測定することは不可能である。効率性に関しては「中程度」と評価した。すべての成果は未達成であり、ブルキナファソ側の予算が不足している中で活動が実施されている。各活動で着実な成果が見られるとはいえ、実施体制の整備に時間を要したことで、活動の進捗に遅れが見られる。インパクトについては、評価を行うことが「時期尚早」であることに加え、プロジェクト目標と上位目標の因果関係に乖離が見られることから、PDM の上位目標を再検討する必要がある。プロジェクトの持続性は、「やや低い」と判断した。政策面での持続性は確保されている一方で、財政面、組織面、技術面において、課題が見られることから、プロジェクト後半では改善に向けた取り組みが必要となる。これらの評価結果を踏まえ、プロジェクトの残りの期間およびプロジェクト完了後におけるさらなる改善のために、中間レビュー調査団は、「3-3 提言」に示すとおり、提言をまとめた。

3-3 提言

中間レビュー調査団は、以下のとおり、今後実施すべき事項を提言する。

3-3-1 プロジェクトチームへの提言

(1) PDM 改訂について

中間レビュー調査開始時点で、PDM 指標の数値目標が未設定であり、また適切な指標が設定されていない箇所も見られた。プロジェクトの目標、その先の活動を関係者間で共有するためにも PDM に適切な指標、数値目標が設定されることは不可欠であることから、可能な限り早いうちに PDM 改訂、数値目標の設定を行うこと。本評価団は改訂版 PDM のドラフト版を作成し、評価報告書の別添として提出している。次回 JCC までに改

訂版 PDM について議論し、最終合意が図られるよう期待する。

(2) 情報共有について

1) プロジェクトはワーキングチームを結成しており、チーム内での情報共有は主に JCC で行われている。しかし、実際の各活動の実施者とワーキングチーム内のカウンターパートに任命されている者にはいくつか乖離が見られる。日本側、ブルキナファソ側、両者の各活動における実施者間で情報共有が円滑になされるよう、まずはプロジェクトの PO に従い、各活動に対応する両者の実施責任者を明確にする。

2) 上述の通り、JCC 以外に関係者間で情報共有を行う場がほとんど存在しない。これは慢性的な予算不足の問題を抱えるなか、公式な場を設置する場合は多くの支出を必須とすることが一因となっている。今後は、JCC 等の公式な会議とは別に、1) の実施責任者間で定期的なプロジェクト進捗を共有する打合せが設けられることを期待する。

3) 各活動の実施責任者は各自の上長に定期的にプロジェクト活動の進捗報告を行い、関係者間でプロジェクト進捗を共有する。左記については、次官表敬時に先方農業省次官と調査団長間で確認された事項である。

(3) モニタリング・フォローアップの強化

1) FFS/FBS 等の技術研修の実施フォローや一般農家への技術普及を担保するためには、公的農業普及員 (ZAT/UAT) を巻き込んだモニタリング・フォローアップ活動が必須である。

2) どのようにローカルの人的リソースを活用しモニタリング・フォローアップ体制を強化するか、今後のプロジェクト活動で議論していく。

3-3-2 ブルキナファソ側への提言

(1) R/D 記載のプロジェクト活動のローカルコスト負担の順守に向け、最大限尽力する。

(2) カウンターパート職員のプロジェクト活動への参加が非常に限定的である。今後のプロジェクト活動の成功、プロジェクト終了後の持続性を担保するためにも、JICA 専門家に相談のもと、ブルキナファソ側が強いリーダーシップ・イニシアティブを持って活動を実施していくこと。

(3) 次官表敬時に先方農業省次官と調査団長間で確認したとおり、ベースライン調査の審議会については、次回 JCC を早急を実施するためにも、可能な限り早く実施する。また、その実施に際して、JICA 専門家は技術面でサポートを行う。

3-3-3 日本側への提言

(1) 中間レビュー調査の結果を受けて、今後の効率的・効果的な投入に向けて、JICA ブルキナファソ事務所、JICA 本部は見直し・協議を行う。

(2) 効果的・効率的なプロジェクト活動のために、JICA 技術協力のコンセプト、JICA プロジェクト評価ガイドラインをブルキナファソ側と共有する。

第4章 団員・団長所感

4-1 農薬管理団員所感

4-1-1 ブルキナファソ産ゴマの残留農薬問題の概要

ブルキナファソ産ゴマについては、日本での輸入時検査において殺虫剤であるイミダクロプリドが基準値（0.01ppm）以上検出されたことにより、現在、検査命令の対象となっている。検査命令は輸入者が輸入の都度、輸入者自身の負担で検査を行わなければならない、また、結果が判明するまで通関手続きが行えないため、通常の輸入手続きに比べ、経済的かつ時間的な負担が生じ、国際的な競争力を失う一因となる。

ゴマのイミダクロプリドの日本の残留基準値については、近く、0.01ppm から 0.05ppm に引き上がる予定ではあるが、過去に 1.5ppm を検出した事例もあり、また、現在も輸入者の自主的な検査で 0.05ppm を超える事例も散見されており、基準値緩和が最終的な問題解決にはならない。

いずれにしても、輸入時に残留農薬違反が発見されると、全量が輸出国へ積戻しになったり、第三国へ再輸出されたり、あるいは、廃棄処分されたりと、その経済的損害は甚大であり、この残留農薬問題を解決することは、ブルキナファソ産ゴマの安定的かつ継続的な輸出の拡大に避けては通れないものである。

4-1-2 残留農薬問題解決のための基本事項

輸出農作物の残留農薬問題を解決し、国際市場の信頼性を高めるためには、一つには、輸出相手国において違反が繰り返し発見されないよう、自国において食品中の残留農薬の検査能力を向上させ、輸出時における検査システムを確立することが重要である。しかしながら、食品中の残留農薬検査は、あくまでロット全体のゴマの一部の検体のみしか検査することができない（抽出検査）ことから、この対応のみで完結することはできない。特にゴマのように数多くの小規模農家が少量ずつ生産し、一つの構成されたロットの中に数多くの小規模農家のゴマが混在するという特徴をもっていることから、なおさら、輸出検査のみでは対応不可能である。

このため、農薬に汚染されたゴマを検査後に排除するのではなく、農薬に汚染されないよう、農薬を使用する各農家に対し、農薬を適正に使用するよう教育指導することが重要となる。特に、ブルキナファソでは全国内でゴマを栽培している小規模農民が 120 万人も存在するといわれており、これら数多くの農家に対していかに効果的に普及活動を行うかの視点が重要である。

4-1-3 これまでのブルキナファソにおける対応状況

まず、輸出時における検査システムについては、これまでも輸出時検査のシステムは存在していたものの、今般新たに、ゴマ仕様書（Cahier des Charges）が関係大臣（農業省・保健省・商業省）の署名を終え、現在パブリックコメントを実施中とのことであった。その運用方法はいまだ不明確な部分はあるものの一応の仕組みは出来上がるようである。検査項目については、現在も安全性に関する項目としてサルモネラ及びイミダクロプリドに関する検査証明書が保健省の国立分析所（LNSP）により発行されていた。しかしながら、LNSP はブルキナファソで唯一農薬分析が可能な機関であるというものの、稼働できる液体クロマトグラフィー（Liquid

Chromatography – tandem Mass Spectrometry、以下 LC/MSMS という。) を所有しておらず、高速液体クロマトグラフ (High Performance Liquid Chromatography、以下 HPLC という。) を用いて分析しているとのことであった (検出感度などは未確認)。また、標準作業手順書 (Standard Operating Procedure、以下 SOP という。) の作成など優良試験所基準 (Good Laboratory Practices、以下 GLP という。) の導入が未実施のようであり、検査結果の信頼性は確保されているとはいえない。また、実際に輸出される貨物のうちのどの程度検査が実施されているのかについても不明であった。(保健省の LNSP 所長は、輸出の許認可にその権限を強化したいとの意向を持っているようであり、農業省と機関間協定に JICA も協力してもらいたいとの発言もあった。) このように、輸出時検査を満足に行うようにするために克服すべき課題は非常に多い。

次に、農薬の適正使用であるが、ブルキナファソにおいても、パラグアイ共和国 (以下パラグアイという。) 同様、数多くの農家がゴマ栽培にかかわっていることから、農薬の適正使用についての啓もう普及に対する取り組みの徹底は極めて重要である。ブルキナファソにおいては、各地に ZAT/UAT と呼ばれる DGPV の普及員が配置されているようであるが、彼らの業務として農薬の適正使用について、重点化させることも対策の一助になりうる。

4-1-4 今後プロジェクトで実施すべき優先順位

輸出段階での検査の強化については、制度としての枠組みは一応出来上がっているものの、残留農薬のように微量成分を正確かつ迅速に行うためには、LC/MSMS などの高度な機器を導入するとともに、検査員の研修を積み、さらに、検査を実施する検査機関に GLP を導入し、信頼性のあるデータを出すことが必要である。しかしながら、残されたプロジェクトの期間及び必要となる予算を勘案すると、プロジェクト終了までの期間内にそれらを達成することは困難と言わざるを得ない。

一方、農家に対する農薬の適正指導に関する啓もう普及については、既存の普及員の活動の中に残留農薬対策、及び、以下に述べるアフラトキシン対策をも組み入れて実施することは十分可能であり、また、それらの取り組みは問題解決のための重要なステップであることから、このプロジェクトにおいても大いに取り組むべき課題と思慮する。農家に対する指導にあつては、できるだけ単純明快で具体的な行動につながるメッセージが届くよう (例えば、アフラトキシン対策では、①乾燥工程においてゴマを直接土の上に置かないこと、②袋詰めされたゴマの保管はパレットの上に置くこと、など。) 工夫することが望まれる。

以上をまとめると、今後プロジェクトにおいては、農薬管理の主体となる農家への教育指導の改善に重点を置き、輸出段階での検査については、ブルキナファソ政府の主体的な取り組みを側面的に支援するという体制が妥当であると思慮する。

(追記：アフラトキシンについて)

最近、ブルキナファソ産ゴマからカビ毒の一種であるアフラトキシンが日本の輸入時モニタリング検査で検出 (12 µg/kg) された。アフラトキシンは自然界に存在する最も強い発がん性物質であり、特に肝臓がんの原因となる発がん物質である。国際機関も「アフラトキシンの摂取量を可能な限り低く抑えるべきである。」と勧告している。また、今回の輸入事例では、一度に 1 万袋、500 t 以上ものゴマが日本への輸入を拒否されたことから経済的なインパクトも大きく、これもイミダクロプリドと同じく検査命令の対象となったことから、今後のブルキナ

ファソにおける取り組みが必要となっている。

アフラトキシンは、意図的に使用される農薬などと異なり、自然界（土壌中）に存在するカビのゴマへの汚染、並びにその後の高温多湿の条件下によるカビの増殖に伴う毒素の産生がその汚染の原因である。

このため、プロジェクトの活動の中で、アフラトキシン汚染についても、この機序を念頭に置いた、ゴマの農業生産工程管理（Good Agriculture Practice、以下 GAP という。）を農家や流通業者に対し普及指導することが望まれる。

4-2 ゴマ栽培団員所感

4-2-1 ゴマ、品種開発と技術開発の現状

プロジェクトが委託実施したベースライン調査では、2014年には約150万世帯がゴマ生産によって所得向上と生活環境改善が実現されたとされており、人口約1,810万人のブルキナファソで、ゴマが広く栽培されていることが推察されよう。国家の輸出においても金、綿花に次ぐ外貨獲得第3位のコモディティの位置を占めている。輸出作物として重要なゴマの生産性向上と生産量の増加を目的として、本プロジェクトでは栽培技術の開発と普及、品種純化、新品種登録に向けた特性評価等にも取り組んでいる。

現状、搾油用ゴマと食用ゴマの区別はしておらず、INERA（国立環境農業研究所）と共同で、富山大学（20品種）とナイジェリアのNCRI（National Cereals Research Institute）（11品種）から分譲を受けた品種、それにINERA所有のローカル品種（40品種）を供試して特性評価と有望品種候補の選抜を行っている。ブルキナファソの品種登録申請にはDHS（遺伝的・形態学的特性データ）とVAT（収量・営農的特性データ）が必要であるが、プロジェクトではそのためのデータ集積を行っていて、効率的なデータ収集と言える。登録申請のためには2年間のデータが必要で、2017年雨期が2年目のデータ収集となる。しかし、2017年から1品種を新たに調査に追加の予定で、これについては今年度が第1年目のデータとなる。また、知的所有権等に配慮して、国外からの分譲品種を除外し、これまでのINERA所有の物から6有望品種を候補として選んでいる。

また、栽培技術の改善として品種、作付け時期、栽植密度、施肥量、追肥、殺虫剤の試験を行っている。試験の結果有効と判断された技術、つまり①雨期の播種時期7月21日～8月1日が4品種（S42、GMP3、Humera、MKD2）でそれ以後の播種の場合より生産性が高い、②基肥100kg/haが生産性向上に効果的、150kg/ha以上では100kg/haに比べてあまり効果がない、③殺虫剤は効果的だが使用時期によって効果は異なる、については、技術移転を目的として実施している中核農家を対象としたファシリテーター研修や種子生産農家研修に要素技術として適宜組み込んでおり、INERA研究者（実際にはプロジェクト予算による雇用者）が研修講師を勤めることもあり、栽培研究と普及活動での連携がとられていることが明らかとなった。しかし、下記4-2-2に述べるように持続性には課題が残る。

4-2-2 ブルキナファソのゴマ品種配布の仕組みとINERAの問題

INERAは作物品種の育種家種子（Breeder's seeds）、原原種種子（Foundation seeds）、原種種子（Registered seeds）を保存・維持・提供する責任を負っている。INERA本所から原原種種子をINERAの国内各ステーションに配布し、そこで原種種子を生産して種子生産農家等に販売す

る仕組みとなっている。種子生産農家は登録制で、栽培中に種子検査官の検査を受け合格すれば認証種子（Certified seeds）として販売が可能となる。

ゴマで言えば、現在5品種が国家に登録されており、INERA本所がそれらの原種種子を提供できる体制になっているべきである。しかし、実際にはその内3品種しか現存しておらず、しかもその内2品種は混雑が多く、現在プロジェクトで純化中である。したがって、現状残り1品種（S42）のみが言わばまともな登録品種の原種種子としての扱いが可能で、プロジェクトで研修に使う品種もS42のみである。

このように、INERAの作物品種の維持管理能力が疑われる。調査の結果、研究者は種子生産現場に出ることはほとんどなく、現場での作業は日々雇用者がやっている実態から推して知るべしとも言える。そのため、栽培技術の開発や有望品種の選抜試験を通じた共同作業によって日本人専門家から技術移転を図ろうとしてもできないのが現状である。ゴマは主要食用作物ではないとはいえ、輸出品として重要な位置を占めているので、品種の維持管理は国家としても基本的に重要な業務であることを深く認識し、その業務を確実に果たせるような体制をINERAに整備することが強く望まれる。

4-2-3 栽培技術開発と有望品種特性評価を通じた技術移転とその持続性

栽培技術開発と有望品種特性評価を通じた技術移転の相手は、R/D付属文書の実施体制上はINERA研究者である。しかし、4-2-2で書いたようにINERAの研究者はほとんど現場に出てきておらず、協働を通してできる研究技術の移転を図ることが難しい現状となっている。この解決には、研究者のもとに若い研究者または技術職員をアシスタントとして配置し、その者に技術移転を図ることがプロジェクト成果の持続性を担保する上でも適策ではないかと考えられる。最貧国の一つとされるブルキナファソの実情を考慮すれば、JICAは支援を継続し、相手国の持続性確保を促すための活動をすべきではないかと思われる。しかし、そのためには、INERAが強い当事者意識を持ち、自ら責任を果たすという責任感を持たなければ、解決は難しいと推察される。農業・水利省とINERAの当事者意識、責任感の醸成に向けた日本側の不断の働きかけが求められる。

4-2-4 食用ゴマについて

日本はブルキナファソのゴマを全て搾油資源と見なしており、ブルキナファソが日本を輸出先国とする限り、食用ゴマの生産にはあまり希望がもてないのが現状である。搾油用ゴマと食用ゴマには品種の違いはあれ、作物としての基本的な違いはないので、栽培技術研究において区別する必要はない。ただし、オイル含量など食用としての特性を備える品種は、現状ではともかく、国内外の今後の需要増に備えて今から整備しておくことは重要である。その意味で、現在検討している有望品種の特性を明確にした上で品種登録まで持っていくことは意味がある。ただし、品種登録には申請から登録承認まで一般に2年またはそれ以上の年月がかかるので、プロジェクトの残り期間を考慮すれば、登録申請に必要な品種特性データを整備するところまでを視野に入れるのが現実的であると考えられる。その先の登録申請は、農業・水利省とINERAのプロジェクト成果の持続性の有無として測ることもできよう。

4-2-5 ICT利用の普及システム

農家を直接指導する普及員 ZAT/UAT がその責務を十分に果たしておらず、その理由は主に普及のための移動にかかるコスト負担の不足であることが、現地調査を通じて明らかとなった。担当地域を巡回指導している例も見られたので、普及員が決して怠惰であるとは言えない。現代では携帯電話やインターネット活用の情報伝達システム（ICT）が世界を広くカバーしており、本現地調査地域でも普及してきていることが散見された。この ICT を利用した普及システムはすでに世界の他地域では実用に向けた検討がなされており、農業保険等の分野では一部実用化されている。普及員が実際に農家の現場に行かなくとも、農家自らが写真や音声で害虫や病害の様子または栽培技術上の問題を普及員に説明し、普及員が対策についての指示を出すような指導システムは、face to face での指導と同等の効果が期待されるとは言えないが、費用対効果の上からも、今後 JICA が技協プロジェクトとして実践に取り組む意義があるのではないかと考える。

4-3 団長所感

4-3-1 プロジェクトの意義と課題

消費量の 99.9% 以上を輸入に頼っているゴマは日本の食卓に欠かせない食材であるが、大生産地であった中国とインドが輸入国に転じ、国際市場は需要超過の状態が続いている。機械化が難しく労働集約的なゴマ生産の日本国内での拡大は容易ではなく、海外から安全で安心なゴマを輸入することは、日本の食料安全保障のために必要不可欠である。一方、ブルキナファソにとって、ゴマは輸出額第 3 位の産品であり、その大半は貧困な小規模農家により生産されている。上述の国際市場におけるゴマ需要超過による価格の上昇により、ゴマは小規模農家にとって魅力的な換金作物の一つとなり、次第にその生産量が増加してきた。ただし、生産量の増加は作付面積の増大に依るところが大きく、単収の増大による生産量増大のポテンシャルは依然として高い。ゴマ生産にかかわる生産性向上及びそれに伴う農家収入の増大を目指す本プロジェクトは、ブルキナファソの開発に資するのみならず、日本の食料安全保障にも資するものであり、その協力の意義は大きいと言える。

他方、コメなどの他作物と比べて、ゴマは栽培ノウハウなどが日本にそれほど蓄積されているわけではなく、ゴマの栽培に関する日本人研究者は非常に限られていることを認識する必要がある⁶。現在ゴマ品種の選別や栽培技術にかかわる支援を行っている長期専門家自身も本プロジェクトに従事するまでゴマ栽培の研究に従事したことはなく、試行錯誤の中で協力を進めている状況である。また、カウンターパートであるブルキナファソ側の研究及び普及体制は人的・資金的に非常に脆弱である。さらに、他ドナーによるいわゆる「丸抱え的援助」⁷を受けてきたためか、本プロジェクトに対するカウンターパート側のオーナーシップは弱く、それがプロジェクトの円滑な実施にとって大きな制約要因となっている。本プロジェクトでは、上位目標であるゴマ輸出量の増加に向けてゴマバリューチェーンの強化に資する取り組みも行ってい

⁶ 国内大学でゴマ栽培について本格的な研究を行っている大学は名城大学のみと言っても過言ではない。こうした状況もあり、ブラグアイにおけるゴマ生産に関する技術協力はゴマ栽培のノウハウを有するメキシコとの三角協力を中心に実施されている。

⁷ プロジェクト実施における行政官、研究者、普及員などの参加やそのためのコスト負担を求めるタイプの協力ではない支援。このような支援を受けるとアンダーマイニング効果が発生するため、例えば、セミナーへの参加にこれまで日当などを受け取ってきた行政官は、セミナーが行政官の業務改善に有益であっても、日当が支払われないと参加意欲が減退する弊害が生じる。

るが、行政による調整能力が低い中、業界団体の設立も途に就いたばかりであり、バリューチェーンの強化に必要な信頼関係の醸成は容易ではない⁸。

本プロジェクトは上述のようなチャレンジングな環境下において、日本人専門家が奮闘している状況であることを認識する必要がある。

4-3-2 協力範囲の整理

(1) 食用ゴマ

現在のブルキナファソ産ゴマの大半は搾油用である。運営指導調査団派遣前に、日本の商社、ゴマ加工企業に対するヒアリング結果からも、ブルキナファソ産ゴマの日本向け輸出も現時点では搾油用として期待されていることが確認されている。

一方、本プロジェクトでは、将来を見据え、より高価格で取り引きされる食用ゴマの生産にも取り組むこととしている。しかしながら、ブルキナファソの環境にあった優良品種の選抜、搾油用に比べて厳格な品質管理を問われる食用ゴマの種子生産・供給体制の構築、農家による食料ゴマの生産、輸出企業等による市場開拓までの道のりは非常に長く、5年間の技術協力プロジェクトで到底達成できるものではない。本プロジェクトでは、プロジェクト目標の指標として食料ゴマの生産性向上及びそれに伴う所得向上、また上位目標では、搾油ゴマのみならず食用ゴマの輸出増大が設定されているが、これらの目標及び指標は4-3-1で述べたチャレンジングな環境を踏まえると、非現実的と言わざるを得ず、関係者にとっての良き道しるべとなるような現実即した目標及び指標に再設定する必要がある。

本調査団は、食料ゴマについては品種登録の準備が整うところまでが現実的な指標と判断し、PDMの修正を提案した。なお、食用、搾油用は流通・加工業界、消費者サイドの視点による区分であり、種子生産農家及び一般農家にとっては、単に品種の違いとして理解されることが一般的である。また、食用、搾油用で栽培方法が特に変わるわけではないため、本プロジェクトで目指す「技術及び知識の開発と普及」(成果1)及び「認証種子生産農家数及び生産量の増大」(成果3)は、搾油用ゴマのみならず、将来の食用ゴマの生産性向上にも資するものであることを指摘したい。ただし、食用ゴマの生産拡大の有無は市場開拓次第であり、生産者にとって魅力のある買取価格が提示されるかどうか、食用ゴマ生産拡大の鍵といえる。

(2) 残留農薬

2014年にブルキナファソ産ゴマからイミダクロプリドが基準値を超えて検出されたことを理由に、日本では、ブルキナファソ産ゴマに対する命令検査が義務付けられている。また最近アフラトキシンが検出される事態が発生した。命令検査は国際競争力の低下に繋がることから、ブルキナファソ政府はゴマの生産から輸出までのゴマの取扱いを定める仕様書(Cahier des Charges)の作成を進めるなど、ブルキナファソ産ゴマへの信頼回復に向けた取り組みに着手し始めた。

⁸ パラグアイにおけるゴマ生産パイオニアである日系企業が業界団体内及び行政との調整などに積極的に関与している上述のパラグアイでの技術協力と比べると、協力の難易度は格段の違いがある。

本中間評価レビューでは、食品安全衛生の専門性を有し、JICA 専門家として現在パラグアイに赴任中の滝本浩司専門家に調査団に参加いただき、ブルキナファソにおける残留農薬問題の現状と課題、必要な対策やプロジェクトとしての可能な貢献等についての調査、分析を行った。詳細は同専門家の所感（４－１）のとおりであるが、それに加え以下の点を指摘したい。

- 1) 残留農薬問題に対する意識の低さ：ゴマの残留農薬問題はパラグアイでも発生しており、JICA は同国に対する残留農薬問題の解決に向けた協力を実施してきた。パラグアイとブルキナファソにおける残留農薬問題に対する意識を比較した場合、ブルキナファソ関係者の意識は低いと言わざるを得ない。というのも、ブルキナファソ産ゴマの主要輸出先は日本ではなく、他の輸出先でイミダクロプリドの基準値違反が発生したケースはこれまで報告されていない。他方、パラグアイ産ゴマの主要輸出先は日本であり、残留農薬の解決はパラグアイ関係者にとって死活問題である。問題解決に取り組む上で、この意識の差が成果に直結する可能性を十分理解しておく必要がある。
- 2) 必要な対策と本プロジェクトによる貢献：本プロジェクトでは、残留農薬問題解決に向けた協力として、イミダクロプリドを含む混合剤の使用方法、使用時期に関する聞き取り調査、サンプリング調査による汚染源の特定、処理濃度と残量の関係を明らかにする圃場試験等の協力などがこれまで検討されてきたが、４－１－４の提言を踏まえつつ、費用対効果の観点から活動の整理が求められる。

４－３－３ 農業普及員との連携強化

「プロジェクト成果発現の阻害要因」「提言」にも記載のとおり、農家への技術普及をより効率的に行うためには、農家に対する研修実施後のモニタリングとフォローアップ体制の強化が不可欠であり、現場の公的農業普及員（当地では一般的に ZAT/UAT と呼ぶ）がこの役割を担う体制とすることが、持続性確保の観点から妥当と考える。

本プロジェクトは、詳細計画策定調査の段階から ZAT/UAT の参加を想定していたものの、予算不足などの理由により、プロジェクト活動への参加をほとんど得られていない。事実、これまでプロジェクトが実施した FFS/FBS などの研修に参加した ZAT/UAT はわずか数名である。他方、今回の調査では、「研修を通じてわからないこと、より理解を深めたいことがあった場合は UAT にコンタクトを取る」「認証種子の売り先は UAT から紹介してもらった」など、一部の ZAT/UAT はプロジェクト対象農家をサポートしている事例を確認した。これはプロジェクトとして意図的に実施されているものではなく、ZAT/UAT は彼らの定常業務の一環として、本プロジェクトのモニタリング・フォローアップ機能を実施上担っていた事例である。

これまで、プロジェクト活動と ZAT/UAT の定常業務との関係が明示的に示されておらず、そのため各種のプロジェクト活動への参加やそのための予算確保に対する意識に乏しかったことが、ZAT/UAT のプロジェクト活動への参加が得られにくかった原因の一つと思われる。しかし、ZAT/UAT は日常のマנדートとして、限られた予算ではあるものの担当地域の農家に技術サポートを行っており、その一環としてプロジェクトが求めるモニタリング・フォロー

アップ機能も果たすことは十分可能と思われる。したがって、プロジェクト対象地域の ZAT/UAT 向けの研修を行い彼ら自身の能力向上を図るとともに、ZAT/UAT の定常業務の中にゴマ生産農家へのサポートを明記することにより、プロジェクトの自立発展性を高めることが可能と史料する。

トップダウン的な傾向が強い当地において、ZAT/UAT の活動計画は各州農業局長の指針に基づいて策定される。対象地域の州局長から、ZAT/UAT のプロジェクト活動への関与は、何かしらのメモランダムで合意することが望ましいとの提案があった。まずは、プロジェクトと州局間で対象地域の ZAT/UAT の活動スケジュールにゴマ生産農家へのサポートを明記し、あわせて彼らへの研修機会の提供についても合意することを今後の対応の一案としたい。

4-3-4 日本企業との連携

ゴマ分野における JICA 協力の実施国はブルキナファソ及びパラグアイの 2 国であり、両国とも、種子品質の劣化、残留農薬問題など共通の課題を抱えている。本プロジェクトでは、毎年プラットフォーム会合を開催し、日本側関係者（商社、加工企業、大学等）とブルキナファソのゴマに関する情報の共有に努めてきたが、ブルキナファソのゴマ生産事情等を把握する貴重な機会として日本側関係者からの評価も高い。

今次調査を通じて、ブルキナファソが抱える課題の解決を検討する上で、パラグアイでの取り組みは参考となる事例であることが確認された。また、日本側関係者から、パラグアイにおける取り組みについての情報共有に期待する声も強い。については、今後上述のプラットフォーム会合では、ブルキナファソ、パラグアイ両国における JICA の取り組みにかかわる情報共有、意見交換の場とすることを提案したい。

付 属 資 料

1. M/M (ミニッツ・オブ・ミーティング)
2. 調査日程
3. 主要面談者リスト
4. PDMversion 0
5. PO
6. 評価グリッド
7. 投入実績
8. PDM 改定案
9. 面談議事録

COMPTE RENDU DE LA RÉUNION
ENTRE
L'ÉQUIPE JAPONAISE DE LA REVUE À MI-PARCOURS
ET
LES AUTORITÉS CONCERNÉES DU BURKINA FASO
SUR
LA COOPÉRATION TECHNIQUE JAPONAISE
DANS
LE CADRE DU PROJET DE RENFORCEMENT DE LA PRODUCTION
SESAME (PRPS)

L'équipe Japonaise d'évaluation à mi-parcours (ci-après dénommée «l'équipe japonaise») a conduit une mission d'évaluation dirigée par M. Keisuke ITO de la JICA, l'Agence Japonaise de la Coopération Internationale, du 4 au 21 juin 2017, aux fins d'évaluation à mi-parcours du Projet de Renforcement de la Production de Sésame, PRPS (ci-après dénommé "le Projet") d'octobre 2014 à septembre 2019 au Burkina Faso

La mission conjointe d'évaluation à mi-parcours (ci-après dénommée «l'équipe»), composée de six membres du Japon et deux membres du Burkina Faso, a été menée pour procéder à une revue à mi-parcours qui servira à émettre des recommandations au Ministère de l'Agriculture et des Aménagements Hydrauliques et à la JICA.

L'équipe a évalué le rendement et les réalisations du projet à travers des visites sur le terrain, des entretiens et une série de discussions concernant les mesures souhaitables à prendre par les deux Parties pour une mise en œuvre réussie du projet

À la suite des entretiens et discussions, l'Équipe a convenu de soumettre, ci-joint, un rapport conjoint d'évaluation à mi-parcours aux Parties. Les deux Parties s'engagent à déployer un maximum d'effort pour la prise de mesures requises pour la réussite du projet tenant compte des recommandations proposées par l'équipe.

Ouagadougou, le 20 Juin, 2017



Mr. Keisuke ITO
Directeur,
Agriculture et Développement Rural Groupe 2,
Equipe 3,
Direction du Développement Rural,
Agence Japonaise de Coopération
Internationale
Japon



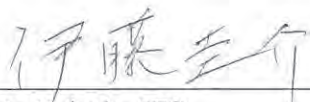
Mr. Moussa MAIGA
Secrétaire Général
Ministère de l'Agriculture et des
Aménagements Hydrauliques
Burkina Faso

Par Interim
Amos KIEMOU

Rapport d'Évaluation à Mi-parcours
sur
Le Projet de Renforcement de la Production du
Sésame (PRPS)

Équipe d'Évaluation à Mi-parcours

Juin 2017



Mr. Keisuke ITO
Directeur,
Agriculture et Développement Rural Groupe
2, Equipe 3,
Direction du Développement Rural,
Agence Japonaise de Coopération
Internationale
Japon



Mr. POUYA W. Thierry
Ingenieur agronome,
Responsable de la filière sésame,
Direction Générale de la Promotion de
l'Économie Rural,
Ministère de l'Agriculture et de la
Sécurité Alimentaire
Burkina Faso

5

5

Rapport d'Évaluation à Mi-parcours
sur
Le Projet de Renforcement de la Production du
Sésame (PRPS)

Équipe d'Évaluation à Mi-parcours

Juin 2017



9A

2

TABLE DES MATIERES

1. Plan d'Evaluation à Mi-parcours.....	4
1.1. Objectifs	4
1.2. Calendrier	4
1.3. Membres	4
1.4. Méthodologie.....	4
1.4.1 Critères d'Evaluation.....	5
1.4.2. Méthode de collecte de données.....	5
2. Résumé du Projet.....	6
2.1. Historique	6
2.2. Grandes lignes du Projet.....	7
2.3. Période de mise en œuvre.....	7
2.4. Agence de mise en œuvre	7
2.5. Zone d'intervention	7
2.6. Groupes cibles	7
3. Réalisations et processus de mise en œuvre.....	7
3.1. Apports	7
3.1.1. Apports du côté Japonais.....	7
3.1.2. Apports du côté Burkinabè.....	8
3.2. Progrès des Activités	8
3.3. Les réalisations du projet.....	12
3.3.1. Les résultats	13
3.3.2. La réalisation de l'objectif du projet	21
3.3.3. Les réalisations de l'objectif général.....	22
3.3.4. Processus de mise en œuvre	23
3.3.5. Évaluation par les cinq critères	24
3.3.6. Conclusion.....	29
4. Recommandations	29
4.1. Recommandations à l'équipe du projet (homologues burkinabé et experts japonais) 29	
4.1.1. Révision du PDM	29
4.1.2. Partage d'informations	30
4.1.3. Renforcement de la surveillance et du suivi.....	30
4.2. Recommandation à la partie burkinabé	30
4.3. Recommandations à la partie japonaise	31

ANNEXE

Annexe 1. Programme de l'évaluation à mi-parcours

Annexe 2. Cadre Logique du Projet

Annexe 3. Plan d'Opérationnalisation (PO)

Annexe 4. Contributions du Projet

4-1. Experts nommés par la JICA

4-2. Matériels fournis par la JICA

4-3. Formation

4-4. Mission personnelle de l'homologue

4-5. Terrain, Edifice, Bureau et matériels fournis par le Burkina Faso

Annexe 5. Grille d'évaluation

Annexe 6. Cadre Logique de Projet (Version proposéé)

Annexe 7. Liste des personnes interviewées

Liste des Abréviations et des Acronymes

BM	Boucle du Mouhoun
CAD	Comité d'aide au développement
CNS	Comité National de Semance
CPR	Centre de Promotion Rurale
DAF	Direction de l'Administration et des Finances
DGESS	Direction Générale des Études et des Statistiques Sectorielles
DGPER	Direction Générale de la Promotion de l'Economie Rural
DGFOMR	Direction Générale du Foncier, de la Formation et de l'Organisation du Monde Rural
DGPV	Direction Générale des Productions Végétales
DPAAH	Direction Provinciale de l'agriculture et des Aménagements Hydrauliques
DRAAH	Direction Régionale de l'agriculture et des Aménagements Hydrauliques
FBS	Farmer Business School / Ecole d'Entrepreneuriat Agricole
FCFA	Franc des Colonies Françaises d'Afrique
FFS	Farmer Field School / Champs Ecoles des Producteurs (CEP)
GIZ	Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit
HB	Hauts-Bassins région
INERA	Institut National pour l'Environnement et de la Recherche Agricole
INSD	Institut National de la Statistique et de la Démographie
JCC	Joint Coordination Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
MAAH	Ministère de l'Agriculture, et des Aménagements Hydrauliques
MICA	Ministère de l'Industrie, du Commerce et de l'Artisanat
OCDE	Organisation de coopération et de développement économiques
PDA	Programme Développement de l'Agriculture
PDM	Project Design Matrix (Cadre logique du Projet)
PNSR	Programme National du Secteur Rural
PO	Plan of Operation
PRPS-BF	Projet de Renforcement de la Production du Sésame du Burkina Faso
RD	Record of Discussion
SCADD	Stratégie de Croissance Accélérée et de Développement Durable
UAT	Unité d'Animation Technique
ZAT	Zone d'Appui Technique

1. Plan d'Evaluation à Mi-parcours

1.1. Objectifs

Les objectifs de l'évaluation à mi-parcours sont les suivants:

- (1) examiner et évaluer les intrants, les activités, la structure de mise en œuvre, les processus et les réalisations du projet;
- (2) clarifier les problèmes et questions à aborder pour la mise en œuvre réussie du projet pour la période restante;
- (3) faire des recommandations relatives aux activités de la période restante; et
- (4) examiner et réviser le Cadre Logique du Projet (Project Design Matrix, PDM) le cas échéant

1.2. Calendrier

L'évaluation a été menée du 4 au 21 juin 2017. Le calendrier est joint à l'Annexe 1.

1.3. Membres

L'évaluation a été menée par une équipe conjointe d'évaluation à mi-parcours (ci-après dénommée «l'Equipe») constituée des membres japonais et burkinabé suivants :

Membres Japonais

Désignation	Nom	Structure
Chef d'équipe	M. Keisuke Ito	Agence de coopération internationale du Japon (JICA)
Production de Sesame	Dr. Shuichi Asanuma	JICA
Contrôle des Pesticides	M. Hiroshi Takimoto	Ministère de la santé, du travail et du bien-être social, Japon
Contrôle des Pesticides	M. Haruhiko Igawa	JICA Paraguay
Planification de la Coopération	M. Yuki Akai	JICA
Analyse Evaluation	M. Teppei Okano	Icons Inc.

Membres Burkinabè

Nom	Structure
Mr. Pouya Thierry	Direction Général de Promotion de l'Economie Rurale (DGPER)
Mr. NANAN Lamime	Direction Générale des Études et des Statistiques Sectorielles (DGESS)

1.4. Méthodologie

L'évaluation est conçue pour vérifier les aspects suivants sur la base du Cadre Logique du Projet et du Plan d'Opérations (PO) conformément à la Ligne directrice d'Evaluation du Projet JICA.

1.4.1 Critères d'Évaluation

Le tableau 1 présente les cinq critères d'évaluation établis par le Comité d'Aide au Développement (CAD), l'Organisation de Coopération et de Développement économiques (OCDE), qui seront appliqués à cette évaluation à mi-parcours.

Tableau 1: Cinq critères d'évaluation

Pertinence	La question est de savoir si les buts, les objectifs généraux et la portée du projet ont été/sont conformes aux besoins et aux préoccupations prioritaires du pays bénéficiaire au moment de l'évaluation et de l'après-évaluation du projet. Ce critère mettra l'accent sur la politique/plan de développement du pays bénéficiaire, les besoins des bénéficiaires et la politique du donateur.
Efficacité	Examiner dans quelle mesure les objectifs du projet ont été atteints par rapport aux résultats. Ces critères comprendront une analyse quantitative basée sur les indicateurs de fonctionnement et d'effet de la JICA.
Efficience	Mesurer avec quelle efficacité les différents intrants sont convertis en résultats du projet pendant le processus de mise en œuvre (productivité du processus de mise en œuvre). Ce critère examinera la pertinence des intrants tels que le coût et son volume du projet, son calendrier de mise en œuvre, les échéances, sa fonction institutionnelle / organisationnelle.
Impact	Identifier dans quelle mesure l'objectif global du projet a été atteint et vérifier les changements intentionnels et non intentionnels, directs et indirects, positifs et négatifs aux niveaux des aspects techniques, sociaux-économiques, institutionnels et environnementaux du fait de ce projet.
Pérenité	Poser la question de savoir si les bénéficiaires du projet sont susceptibles de se poursuivre après l'achèvement du projet. Ces critères comprendront une étude des aspects techniques, institutionnels et financiers au niveau de l'agence/organisme d'exécution; de transfert de technologie et d'appropriation des bénéficiaires. Il comprendra également une analyse des difficultés et contraintes qui pourraient compromettre la pérennité du projet.

(Source: Ligne directrice d'Évaluation du Projet JICA)

1.4.2. Méthode de collecte de données

Des données à la fois quantitatives et qualitatives ont été recueillies aux fins d'analyse. Les méthodes de collecte de données utilisées pour l'évaluation à mi-parcours étaient les suivantes:

- Revue documentaire/littérature ;
- Questionnaires.
- Interviews des informateurs clés.
- Observation directe sur les sites du projet.

2. Résumé du Projet

2.1. Historique

Au Burkina Faso, le sésame est une culture de longue date en zones rurales. De par sa résistance relativement élevée contre la sécheresse et sa capacité de développement sur des sols appauvris, le sésame est cultivé par de nombreux agriculteurs. Une culture extensive dans la plupart des cas, les semences utilisées sont habituellement celles produites par les agriculteurs eux-mêmes. La demande intérieure en sésame est généralement faible, et les ménages utilisent une petite quantité dans leur alimentation. La transformation reste artisanale et se limite à la fabrication de biscuits au sésame ou à l'extraction de l'huile. Le volume vendu dans le pays reste négligeable. L'essentiel de la production du sésame est destinée à l'exportation. Les volumes d'exportation ont considérablement augmentés ces dix dernières années, passant de 17 974 tonnes en 2006 à plus de 171 000 tonnes en 2016.

Suite à l'effondrement des prix internationaux du coton, le plus grand produit agricole exporté du pays au cours des dernières années, le Gouvernement du Burkina Faso a entrepris de promouvoir de nouvelles filières porteuses comme le sésame pour diversifier les produits exportés. Cette mesure a eu pour effet de favoriser l'augmentation progressive de la superficie de production et la productivité du sésame. Le sésame constitue actuellement le deuxième produit agricole de rente après le coton. En 2015, la production du sésame a été estimée à plus de 235 000 tonnes avec un volume d'exportation de plus 171 000 tonnes. Cette performance place le Burkina Faso parmi les plus 10 plus grands pays exportateurs de sésame dans le monde.

Le Burkina Faso a adopté en février 2010 la «Stratégie pour la croissance accélérée et le développement durable (SCADD)», qui place l'agriculture comme un secteur prioritaire pour accélérer le développement. En outre, le «Programme national du secteur rural 2011-2015» développé comme cadre de mise en œuvre des stratégies de la SCADD pour le secteur rural est considéré comme le programme le plus important pour l'agriculture et le développement rural. Ainsi, la promotion des produits et industries agricoles devient une priorité pour le développement. En ce sens, les cultures d'oléagineux, y compris le sésame, sont considérées comme un produit à fort potentiel pour exportation vers les marchés internationaux.

C'est dans ce contexte que ce projet de coopération technique a été élaboré afin de renforcer la filière sésame.

En juin 2017, alors que la mise en œuvre de ce projet a atteint la période médiane, la JICA a entrepris une évaluation à mi-parcours conjointement avec les intervenants Burkinabés avec pour objectif de mesurer les progrès du projet et faire des recommandations pour la période restante du projet

2.2. Grandes lignes du Projet

Le Cadre Logique du Projet qui permet une vue d'ensemble du projet se résume comme suit:

Tableau 2: Grandes lignes du Projet

Objectif global	Accroître l'exportation du sésame	
But du Projet	Accroître la productivité et le revenu de producteurs de sésame cibles	
Résultats	R1	La productivité du sésame à huile est améliorée
	R2	Le système de production de sésame de bouche est introduit et mis en place.
	R3	Le système de production et de distribution du sésame sélectionné par le projet est mis en place.
	R4	La capacité de marketing des intervenants de la filière sésame est renforcée.

2.3. Période de mise en œuvre

Cinq ans (du 27 Mai 2014 au 26 Mai 2019)

2.4. Agence de mise en œuvre

Ministère de l'Agriculture et des Aménagements Hydrauliques ex Ministère de l'Agriculture et de la Sécurité Alimentaire

2.5. Zone d'intervention

La mise en œuvre du projet s'effectuera dans deux zones distinctes:

- Zone de Dédougou, province du Mouhoun, région de la Boucle du Mouhoun
- Zone de Bobo-Dioulasso, province du Houet, région des Hauts-Bassins

2.6. Groupes cibles

Les groupes cibles du projet sont des producteurs, des commerçants et exportateurs, ainsi que des structures et des agences.

3. Réalisations et processus de mise en œuvre

3.1. Apports

3.1.1. Apports du côté Japonais

Le tableau 3 indique les apports réels des Japonais comparativement aux prévisions faites dans le Cadre Logique du Projet

Tableau 3: Apports des Japonais

Prévisions	Réels (en date d'Avril 2017)
[Experts japonais] 1. Conseiller en chef 2. Techniques de culture 3. Gestion/Organisation agricole 4. Contrôle qualité / après récolte	[Experts japonais] (voir Annexe 4-1) Les experts suivants à long et court termes ont été dépêchés: Experts à long terme Conseiller en chef du projet Coordonnateur / Développement communautaire

5. Marché / Commercialisation 6. Coordinateur / formateur 7. D'autres membres pour déterminer s'il est nécessaire de mettre en œuvre le Projet	Gestion agricole / Techniques de culture Experts à court terme Conseiller en chef Assistant Manager/Marché Diffusion 1 (gestion FFS/FBS) Diffusion 2 (organisation des agriculteurs) Diffusion 3 (Matériel de formation / Coordinateur) Après récolte Contrôle des pesticides Interprète									
[Machines et Equipement] 1. Véhicules 2. Equipement de bureau 3. Equipement de formation	[Equipement] (voir Annexe 4-2) Des machines et des équipements tels que des véhicules et des équipements de culture et de bureau d'un coût total de 94 068 230 FCFA ont été fournis.									
[Formation] Un ou deux participants à former durant les formations des homologues sur des sujets pertinents au Japon et /ou dans un pays tiers chaque année.	[Formation](voir Annexe 4-3) Un total de 20 membres de la contrepartie a participé à la formation au Japon alors que 3 autres membres de la contrepartie ont participé à la formation dans un pays tiers a savoir le Rwanda. <table border="1" data-bbox="753 707 1294 790"> <thead> <tr> <th>Pays</th> <th>2015</th> <th>2016</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Japon</td> <td>8 personnes</td> <td>12 personnes</td> </tr> <tr> <td>Rwanda</td> <td></td> <td>3 personnes</td> </tr> </tbody> </table>	Pays	2015	2016	Japon	8 personnes	12 personnes	Rwanda		3 personnes
Pays	2015	2016								
Japon	8 personnes	12 personnes								
Rwanda		3 personnes								

3.1.2. Apports du côté Burkinabè

Le tableau 4 indique les apports réels des Burkinabè comparativement aux prévisions faites dans le Cadre Logique du Projet.

Tableau 4: Apports des Burkinabè

Prévisions	Réels (en date d'avril 2017)
[Attribution du personnel de contrepartie] Personnel de contrepartie	[Attribution du personnel homologue] (voir annexe 4-4) 16 membres DGPV: 10 personnes. Direction Générale des Productions Végétales (DGPV): 3 personnes. Institut National de l'Environnement et de la Recherche Agricole (INERA): 1 personne. Direction Régionale de l'Agriculture et des Aménagements Hydrauliques (DRAAH) / Hauts-Bassins (HB): 1 personne. DRAAH / Boucle du Mouhoun (BM): 1 personne
[Cout tu projet] Contrepartie nationale	[Cout tu projet] En 2016, le Gouvernement du Burkina Faso a attribue 14.425.000 FCFA pour la mise en oeuvre du projet. Le budget requis pour 2017 est de 70 708 000FCFA.
[Bureaux de projet et équipement nécessaire]	[Bureaux de projet et équipement nécessaire] (voir annexe 4-5) Espace de bureaux pour les experts japonais (3 places: DRAAH-BM, DRAAH-HB et DGPV) Champs expérimentaux (4 places: Centre de Promotion Rurale /CPR Koudougou, INERA Gampela, INERA Farako-Ba et INERA Niangoloko)

3.2. Progrès des Activités

Le projet a débuté en octobre 2014 et les homologues burkinabés ont été officiellement affectés en décembre 2015. L'équipe japonaise a été affectée en février 2016 et a depuis mis en œuvre les activités du projet selon le Plan Opérationnel. Étant donné qu'il a fallu du temps pour mettre en place la structure de mise en œuvre du Projet et que certaines activités ont été retardées ou modifiées à

partir du plan initial, aucun résultat n'a été atteint au moment de l'examen à mi-parcours. Bien que la plupart des activités soient en cours et que des résultats constants soient observés dans les activités relatives au Résultat 1 (amélioration de la productivité du sésame), au R2 (introduction du système de production) et au R3 (développement des systèmes de production et de distribution pour le sésame sélectionné), il est nécessaire d'accélérer les activités pour atteindre les objectifs du projet.

En raison de la non-conformité du sésame exporté du Burkina Faso, où des niveaux excessifs de pesticides ont été trouvés, le projet prévoyait mener plusieurs activités supplémentaires liées au contrôle des pesticides. En outre, plusieurs activités liées au sésame en bouche, telles que la mise en œuvre des formations, ont été annulées, compte tenu des besoins des parties prenantes.

Tableau 5 : Etat d'avancement des activités (mai 2014 - novembre 2015)

Activités	Etat d'avancement									
1-1 Vérifier le caractère des variétés de sésame	<ul style="list-style-type: none"> - Des champs expérimentaux ont été mis en place pour tester la variété de sésame concassée. - Des tests de caractéristiques variétales (test DHS) de trois types de graines/semences (S42, 32-15 et Yandev 55) un test de rendement (test VAT) de S42 et 32-15 ont été menés - Le réarrangement des données et l'analyse statistique sont en cours pour toutes les 49 espèces. 									
1-2 Effectuer divers tests pour améliorer le rendement des du sésame (temps de semis, fertilisation, etc.).	<ul style="list-style-type: none"> - Des champs expérimentaux ont été mis en place pour améliorer le rendement du sésame concassé. - Les tests suivants ont été effectués en utilisant le S42 pour l'amélioration du rendement à l'hectare : 1) Test de la date de semailles (Site du Centre de Promotion Rurale/région de la BM et Farako – Station de Ba/région des HB). 2) Test de fertilisation (site de Badala/Région de la BM et Gampela/Ouagadougou). 3) Test de densité de semis (site de Makognadougou/région des HB) et 4) Test de parasite (station de Farako-Ba/région des HB). - L'établissement des données et l'analyse statistique sont en cours. - Le champ expérimental a été établi sur le site de Makognadougou/HB pour vérifier les effets des pesticides et des insecticides. L'observation est en cours. 									
1-3 Organiser et suivre la formation pour diffuser les techniques appropriées de production de sésame	<ul style="list-style-type: none"> - Les TdR de formation ont été formulé et les formateurs/programmes de formation ont été confirmés. - Le projet a sélectionné 15 groupes de la région des HB et 15 groupes de la région du BM comme groupe cible en 2016. De plus, le projet a sélectionné 15 groupes de la région des HB et 18 groupes de la région du BM pour les formations en 2017. <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Région des HB</th> <th>Région du BM</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>15 groupes</td> <td>15 groupes</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>15 groupes</td> <td>18 groupes</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> - Le manuel de mise en œuvre des FFS, les notes de l'animateur, le cahier du producteur et le manuel pour le cahier de notes du producteur ont été développés. - Une session théorique et six sessions pratiques de formation de l'animateur sur les FFS (Champs Ecoles des Producteurs)/ FBS (Ecole d'Entrepreneuriat Agricole) ont été fournies dans les régions des HB et BM en 2016 (totalisant 14 sessions). - Une session théorique de formation des animateurs sur les FFS / FBS a été dispensée dans les régions des HB et BM en 2017 (totalisant 2 sessions). - Un atelier récapitulatif des formations sur les "FFS / FBS", les "Renforcement des capacités pour le Groupement paysan" et la 		Région des HB	Région du BM	2016	15 groupes	15 groupes	2017	15 groupes	18 groupes
	Région des HB	Région du BM								
2016	15 groupes	15 groupes								
2017	15 groupes	18 groupes								

	<p>"Production de semences" a été organisée en décembre 2016.</p> <p>- Un suivi sur le terrain a été effectué trois fois en 2016.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">Date de mise en œuvre</th> <th colspan="3">Nombre de sites de suivi</th> </tr> <tr> <th>BM</th> <th>HB</th> <th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 Jul 2016</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2 Sep à Oct 2016</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3 Nov 2016</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	Date de mise en œuvre	Nombre de sites de suivi			BM	HB	Total	1 Jul 2016	2	4	6	2 Sep à Oct 2016	4	2	6	3 Nov 2016	1	1	2
Date de mise en œuvre	Nombre de sites de suivi																			
	BM	HB	Total																	
1 Jul 2016	2	4	6																	
2 Sep à Oct 2016	4	2	6																	
3 Nov 2016	1	1	2																	
1-4 Étudier et proposer des méthodes pour gérer les organisations et améliorer la gestion des exploitations agricoles pour augmenter la productivité du sésame et améliorer la génération de revenus des agriculteurs ordinaires (à travers l'agriculture contractuelle, le renforcement de capacité des organisations, etc.).	<p>- Les tests de la date de semis ont été effectués pour le soja, l'arachide et le niébé dans le champ expérimental de Farako-Ba, parallèlement au test de la date de semis de sésame.</p> <p>- La mesure réelle du rendement, de l'enquête sur le labour (enquête sur la littérature/entrevue), l'étude des prix sur le marché (enquête sur la littérature/entrevue) et l'évaluation du rendement du sésame semé à la mi-juillet a été entreprise.</p>																			
1-5 Organiser une formation pour renforcer les activités organisationnelles des agriculteurs et leurs systèmes de gestion (gestion organisationnelle, accès aux fonds, etc.).	<p>- Quatre séances de formation ont été fournies sur le renforcement des capacités des organisations dans les régions des HB et du BM en 2016 (totalisant huit sessions).</p>																			
2-1 Étudier les caractéristiques des variétés de sésame sélectionnées.	<p>- Environ 40 variétés de semences de sésame ont été séparées et sélectionnées, car elles ont été considérées comme plus prometteuses que les variétés locales.</p> <p>- 50 variétés de semences de sésame ont été cultivées expérimentalement dans le site de Gampela pendant la saison sèche de 2016. Sur la base de la culture de l'essai, quatre variétés (S42, 32-15, Humera et Wollega) ont été utilisées comme variétés témoins pour le test TVA et huit variétés (GMP3, SIE2, KDG3, KDG5, BEN2, BEN4, PSK1 et MDK2) ont été sélectionnées comme variétés candidates.</p> <p>- L'étude caractéristique des 50 variétés pendant la saison des pluies en 2016 a été menée dans le champ de Gampela et a été publiée comme thèse de maîtrise par un élève de l'Université de Ouagadougou. La même étude avec 36 variétés a été répétée pendant la saison sèche en 2017, mais la moitié d'entre elles a été endommagée par le bétail. L'étude sur les graines endommagées a été annulée.</p>																			
2-2 Vérifier la convenance et l'aptitude à cultiver du sésame de bouche/de bouche, et identifier la variété pour la vulgarisation.	<p>- Le projet a préparé un plan de recherche pour la sélection des variétés de semences de sésame.</p> <p>- Au total, six sites expérimentaux ont été mis en place en 2016. 1) Pissila, Kaya/sésame blanc et noir. 2) Gampela, Ouagadougou/sésame noir. 3) site de CPR, Dédougou/sésame blanc. 4) Makognadougou, Bobo Dioulasso/sésame blanc. 5) Farako-Ba, Bobo Dioulasso/sésame noir, et 6) Niangoloko, Banfara/sésame blanc.</p> <p>- Les variétés ont été sélectionnées sur quatre sites. 135 agriculteurs ont participé à la sélection. Une étude caractéristique a été menée en 2017 à 1) Gampela, Ouagadougou/sésame blanc et 2) Makognadougou, Bobo-Dioulasso/sésame, noir.</p>																			
2-3 Mettre en place des tests de culture pour le sésame de bouche, afin d'établir les techniques de culture.	<p>- Les tests suivants ont été effectués en utilisant MKD2 et GMP3 en 2016 : 1) Test de date de semis (site CPR/région de la BM et station Farako-Ba/région des HB). 2) Test de fertilisation (site Badala/région de la BM et station de Gampela/Ouagadougou) 3) Test de densité de semis (région de Makognadougou/HB).</p> <p>- Des travaux de purification ont été entrepris sur le site de Badala et devraient être mis en œuvre dans le site de Makognadougou en 2017.</p>																			
2-4 Procéder à l'enregistrement officiel des nouvelles variétés de semences de sésame de bouche.	<p>- Le projet a mené un sondage sur la qualité du système d'enregistrement au Burkina Faso et a clarifié la procédure.</p>																			
2-5 Organiser et surveiller la formation pour la diffusion des techniques appropriées de production de sésame de bouche.	<p>- L'activité 2-5 a été annulée compte tenu des besoins des parties prenantes.</p>																			

2-6 Étudier et proposer comment gérer les organisations et améliorer la gestion des exploitations afin d'accroître la productivité de sésame de bouche et améliorer la génération de revenus des agriculteurs ordinaires (par l'entremise d'une agriculture contractuelle, le renforcement de capacités des organisations, etc.).	- L'activité 2-6 a été annulée compte tenu des besoins des parties prenantes.
2-7 Organiser une formation pour renforcer les activités organisationnelles des agriculteurs et leurs systèmes de gestion (gestion de l'organisation, accès aux fonds, etc.).	- L'activité 2-7 a été annulée compte tenu des besoins des parties prenantes.
3-1 Organiser une formation pour la production appropriée des semences de base.	- Afin d'étudier la production appropriée de semences de base, environ un hectare de la production originale de semences a été mené sur le site de Badala dans la région de la BM pendant la saison sèche (février et juin 2016).
3-2 Organiser une formation pour renforcer la capacité des formateurs chargés de la supervision technique des producteurs de semences.	- Des travaux de révision sont en cours pour utiliser le manuel créé par un précédent projet de la JICA.
3-3 Organiser une formation pour renforcer la capacité des producteurs de semences à produire des semences améliorées.	- Une session de formation théorique a été menée pour les agriculteurs cibles en 2015. - Sept sessions de formation (formations théoriques et pratiques, et une séance sommaire) sur la production de semences ont été menées pour les régions des HB et de la BM en 2016 (totalisant 14 sessions). - Une session de formation théorique a été menée pour les régions des HB et de la BM en 2017 (totalisant deux sessions). - La formation et la situation du transfert de technologie par le projet ont été suivies par des enquêtes par questionnaire. (12 groupes avec 13 personnes dans la région de la HB et 13 groupes avec 13 personnes dans la région des BM).
3-4 Établir un système de production et de distribution de semences ciblées par le Projet (suivi, supervision, etc.).	- Le projet a mené une séance d'information sur le suivi de la mise en œuvre de la production de semences pour la zone d'animation Technique (ZAT)/Unité d'Animation Technique (UAT) concernée dans les régions de la BM et des HB. - Le suivi sur place de la production de semences certifiées a été mené dans la province de Wiloho et Bouamissé Mouhoun, dans la région de la BM et à Satiri et Héna dans la province du Houet, région des HB. - L'enregistrement a été effectué pour la production de semences par les producteurs de semences formés par le projet dans la région de la BM (13 agriculteurs en 2016, deux agriculteurs en 2017) et les régions des HB (14 agriculteurs en 2017).
4-1 Renforcer la capacité de commercialisation sur les marchés internationaux (nécessite un sondage sur le marché, la promotion de la participation aux foires internationales, l'examen des méthodes d'estimation de la production, etc.).	- Des échantillons de sésame de la saison 2016 ont été prélevés à travers le Burkina et analysés au Japon - La plate-forme japonaise a été organisée à deux reprises pour le sésame à Tokyo (mai 2015 et juin 2016). Les problèmes de violation des exportations de sésame au Japon ont été discutés par des organisations associées
4-2 Organiser une formation pour le contrôle de la qualité en fonction des besoins du marché (traitement des impuretés, gestion de l'utilisation des pesticides, renforcement du système de contrôle, traçabilité, etc.).	- Des enquêtes ont été menées sur la gestion des pesticides, les traitements post-récolte et la marketing du sésame en 2016. - Un séminaire de marketing a été organisé pour les distributeurs de la région de la BM en novembre 2016.
4-3 Renforcer les organisations au sein de la chaîne de valeur du sésame et renforcer les organisations interprofessionnelles dans l'industrie du sésame.	- La plate-forme Burkina Faso pour le sésame a eu lieu en août 2016 et 47 personnes y ont participé.
4-4 Promouvoir le partage d'informations sur la production, la distribution et les marchés.	- Deux formations ont été tenues respectivement en juin et septembre 2016 au Japon.

3.3. Les réalisations du projet

Le PDM, qui a été approuvé le 19 décembre 2014, a eu une pièce jointe de la RD, qui indique que la valeur cible des différents indicateurs n'a pas été définie et que certains indicateurs n'ont pas été clairement décrits. Ces indicateurs sont nécessaires pour évaluer l'avancement du projet et ses réalisations. Ainsi, l'équipe a utilisé des indicateurs supplémentaires (comme on le voit dans le tableau 6) pour l'examen à mi-parcours.

Tableau 6 : Indicateurs pour l'examen à mi-parcours

	<u>PDM</u>	<u>Indicateurs supplémentaires</u>
Objectif général	1. Exportations de sésame (xx à xx tonnes) 2. Exportations du sésame de bouche (xx à xx tonnes)	
Objectif du projet	1. Revenu du ménage par agriculteur par culture de sésame concassé. (Xx FCFA/année à xx FCFA/an) 2. Revenu du ménage par agriculteur par culture de sésame de bouche. (Xx FCFA/année à xx FCFA/an) 3. Productivité par culture de sésame concassé. (Xx kg/ha à xx kg/ha) 4. Productivité par agriculteur par culture de sésame de bouche. (Xx kg/ha à xx kg/ha)	
Résultat 1	1-1 (Xx kg/ha à xx kg/ha) Productivité par agriculteur par culture de sésame concassé. 1-2 l'indicateur sur le nombre de bénéficiaires est en cours étude. 1-3 Nombre de formations reçues pour la vulgarisation des techniques de culture (formations xx) et le nombre de participants (xx pers.). 1-4 Nombre de formations données pour renforcer les activités organisationnelles et le système de gestion des producteurs (formations xx) et le nombre de participants (xx pers.).	- 60% des agriculteurs des groupes cibles finissent de semer pendant la saison optimale - 60% des agriculteurs des groupes cibles utilisent des graines certifiées - Le rendement par hectare de sésame du groupe cible augmente de 10 à 20% (par province)
Résultat 2	2-1 Sélection des variétés adaptées à l'introduction. 2-2 Approbation de nouvelles variétés par INERA. 2-3 l'indicateur sur le nombre de bénéficiaires est en cours étude. 2-4 Nombre de formations reçues pour la vulgarisation des techniques de culture (formations xx) et le nombre de participants (xx pers.). 2-5 Nombre de formation dispensée pour renforcer les activités organisationnelles et le système de gestion des producteurs (formations xx) et le nombre de participants (xx pers.).	- Soumission du formulaire d'inscription des variétés au CNS - Approbation de fiche technique pour les nouvelles variétés par INERA
Résultat 3	3-1 Volume de production de graines du sésame concassé sélectionné (xx kg → xx kg). 3-2 Ratio de mélange de grain de couleur différente avec le sésame de bouche (xx% à xx%). 3-3 Volume du sésame de bouche originales sélectionnées (xx kg/an). 3-4 Nombre d'agriculteurs produisant des du	- Mise à jour du manuel pour l'inspection de la production certifiée de semences - Nombre de formation sur la production de semences et le nombre de participants

	sésame de bouche (champs xx). 3-5 Superficie totale consacrée à la production de sésame de bouche (xx ha).	
Résultat 4	4-1 Construire une structure pour comprendre la tendance du sésame sur le marché international. 4-2 Nombre de formation sur le contrôle de la qualité (formations xx). 4-3 L'indicateur relatif au renforcement de l'interprofession du sésame est en cours d'étude. 4-4 Le nombre d'émissions d'informations sur le sésame (xx fois).	

3.3.1. Les résultats

Bien que la plupart des activités planifiées aient été mises en œuvre conformément aux OP, les indicateurs exacts qui peuvent être vérifiés n'ont pas été décrits dans le PDM. Cela provoque des difficultés à mesurer correctement le niveau d'atteinte des résultats. Ainsi, l'équipe utilise plusieurs indicateurs supplémentaires pour mesurer le niveau d'atteinte des résultats, qui devraient contribuer à la réalisation de l'objectif du projet.

Résultat 1 : Améliorer la productivité du sésame

Tous les indicateurs du résultat 1 n'ont pas encore été atteints. L'indicateur n'est pas correctement réglé et il est difficile de mesurer l'atteinte du résultat. Malgré les tentatives de l'équipe d'utiliser des indicateurs supplémentaires pour mesurer l'atteinte du résultat la date choisie n'était pas disponible au moment de l'examen à mi-parcours.

Indicateur 1-1 : Productivité par agriculteur par culture de sésame concassé. (Xx kg/ha à xx kg/ha)

- Les données pour mesurer la réalisation de l'indicateur ne sont pas disponibles lors de l'examen à mi-parcours.
- Les objectifs numériques n'ont pas été définis

Il est difficile de mesurer la réalisation de l'indicateur 1-1, car les données relatives à la productivité des agriculteurs cibles ne sont pas encore disponibles en ce moment.

Selon l'enquête réalisée par le projet, la moyenne nationale des rendements de sésame au cours des 13 dernières années est de 502 kg/ha. En ce qui concerne le rendement par hectare dans les régions cibles, la région de la BM a produit 400 à 800 kg/ha et la région des HB a produit 180 - 430 kg/ha en 2015-2016. Grâce aux sessions de formation sur FFS, le projet a confirmé la productivité en fonction du type de semences (semences certifiées ou locales) et de l'efficacité de l'application des engrais, ce qui a permis aux principaux agriculteurs d'apprendre les méthodes pour améliorer la productivité des rendements au sésame. Ainsi, on s'attend à ce que la productivité soit améliorée dans une certaine mesure lorsque les sessions de formation FFS/FBS seront menées efficacement et que la technologie

sera vulgarisée de manière appropriée aux principaux agriculteurs. Cependant, il est difficile de mesurer le degré de réalisation de l'indicateur, car il est difficile d'obtenir avant l'examen à mi-parcours, des données relatives aux activités mises en œuvre pour améliorer la productivité des agriculteurs cibles en 2016.

Indicateur 1-2 : Un indicateur sur le nombre de bénéficiaires est en cours d'étude.

➤ Cet indicateur est en cours d'étude. L'objectif du nombre d'agriculteurs ciblé dans le plan initial devrait être atteint dans la deuxième moitié du projet.

✓ *Indicateur supplémentaire : nombre d'agriculteurs ayant participé aux FFS/FBS organisé par leurs dirigeants.*

Le nombre cible des bénéficiaires qui a été établi au cours de l'enquête préliminaire menée en Septembre 2013, sont les suivantes :

- 1) Les agriculteurs noyau : environ 60 à 100.
- 2) Les agriculteurs qui ont participé à FFS/FBS : environ 1 000 personnes.

Comme le montre le tableau 7, le projet a sélectionné 122 producteurs noyaux et 550 producteurs ont participé aux FFS et 520 agriculteurs ont participé aux FBS plus d'une fois. En outre, 310 agriculteurs utilisaient au moins une technologie transférée par le projet. Le nombre de bénéficiaires mentionnés ci-dessus devrait augmenter dans la seconde moitié du projet.

Tableau 7 : Le nombre de bénéficiaires

	Producteurs noyaux	Agriculteurs du groupe	Agriculteurs de sésame	FFS (* 1)	FBS * (2)	Transfert de technologie (* 3)
BM (2016)	14 groupes (28 producteurs)	424	289	302	262	232
BM (2017)	15 groupes (30 producteurs)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
HB (2016)	14 groupes (28 producteur)	354	102	248	258	78
HB (2017)	18 groupes (36 producteurs)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Total	61 groupes (122 producteurs)	778	391	550	520	310

(Source : Rapport d'activité du projet)

(* 1) Les producteurs ayant participé aux CEP au moins une fois (en décembre 2016).

(* 2) Les producteurs ayant participé aux FBS au moins une fois (en décembre 2016).

(* 3) Les producteurs s ayant utilisé au moins une technologie introduite (à partir de novembre 2016).

Indicateur 1-3 : Nombre de formations effectuées pour la vulgarisation des techniques de culture (formations xx) et le nombre de participants (xx pers.).

➤ Le nombre de sessions de formation et les participants sont prévus.

➤ Les objectifs numériques n'ont pas été définis

Bien qu'il soit difficile de mesurer la réalisation de l'indicateur 1-3, l'indicateur devrait être atteint selon le niveau prévu. L'indicateur est lié au résultat de l'activité et il n'y a aucun facteur gênant pour la mise en œuvre de la session de formation sur les FFS/FBS.

À ce jour, les sessions de formation sur les FFS/FBS ont été menées 15 fois et en moyenne, 26,3 agriculteurs ont participé. Bien qu'aucune cible numérique n'ait été définie dans l'indicateur et qu'il soit difficile de mesurer la réalisation des sessions de formation, il y a des rapports selon lesquels les activités de 2016 ont régulièrement progressé. Le nombre de groupes de producteurs noyau a augmenté en 2017 et le nombre de participants attendus devrait également augmenter.

Tableau 8 : Nombre de participants (Formation sur les FFS/FBS)

Titre de la formation	Région des HB		Région du BM	
	Date	Nombre de participants	Date	Nombre de participants
Formation des animateurs de FFS/FBS	8-10 Juin 2016	30	1-3 Juin 2016	28
Formation pratique sur les FFS/FBS (Session 1)	30 Juin 2016	28	28 juin 2016	25
Formation pratique sur les FFS/FBS (Session 2)	14 Juil 2016	28	12 Juil 2016 (2 Août 2016)	26
Formation pratique sur les FFS/FBS (Session 3)	dix Août 2016	27	25 août 2016	25
Formation pratique sur les FFS/FBS (Session 4)	6 Oct 2016	23	13 octobre 2016	25
Formation pratique sur les FFS/FBS (Session 5)	20 Oct 2016	24	27 oct 2016	24
Formation pratique sur les FFS/FBS (Session récapitulative)	8 Déc 2016	25	6 déc. 2016	26
Formation des animateurs des FFS/FBS	25-27 Avril. 2017	30		

(Source : Rapport d'activité du projet)

✓ *Indicateur supplémentaire : 60% des agriculteurs des groupes cibles finissent de semer pendant la saison optimale*

L'enquête auprès des producteurs locaux sur le terrain (K.Vigué, Houet, région des HB) a révélé que ce qu'ils ont appris le plus lors de la formation est « la datet du semis de semences ». Étant donné que le calendrier des semis affecte la productivité du sésame, l'indicateur supplémentaire peut mesurer les progrès de la réalisation de la production.

En ce qui concerne la réalisation de l'indicateur supplémentaire, il est en bonne voie pour atteindre la cible. Selon l'enquête par questionnaire par le projet en 2016, les producteurs noyaux de 22 groupes ont appris comment utiliser le calendrier de culture et 467 producteurs ont été imprégné du sujet. Les données sur la date de u semis seront disponibles après la saison hivernale de 2017.

Tableau 9 : Mise en œuvre de FBS pour le calendrier cultural du sésame en 2016

	Groupe cible	Groupe a mis en œuvre le FBS sur le calendrier de culture en 2016	Nombre de participants
Région de la BM	14 groupes	11 groupes	257 producteurs
Région des HB	14 groupes	11 groupes	210 producteurs

(Source : Rapport d'activité du projet)

✓ *Indicateur supplémentaire : 60% des agriculteurs des groupes cibles utilisent des semences certifiées*

Une autre méthode importante pour améliorer la productivité du sésame est d'utiliser des semences certifiées. Les agriculteurs locaux ont amélioré leurs connaissances sur l'utilisation de la semence de bonne qualité lors de la séance d'entrevue. L'indicateur supplémentaire est également sur le point d'atteindre son objectif. Les données relatives à l'utilisation des semences certifiées par les producteurs cibles seront disponibles après la saison optimale en 2017.

Indicateur 1-4 : Nombre de formations dispensées afin de renforcer les activités d'organisation et de système de gestion au profit des producteurs (formations xx) et le nombre de participants (xx pers.).

- Le nombre de séances de formation et les participants sont comme prévu.
- Les objectifs numériques ne sont pas fixés.

Bien qu'il soit difficile de mesurer la réalisation de l'indicateur 1-4, l'indicateur devrait être atteint selon le niveau prévu. L'indicateur est lié au résultat de l'activité et il n'y a pas de facteur entravant la mise en œuvre de la session de formation sur le renforcement des capacités du groupe des producteurs. Les sessions de formation sur le renforcement des capacités du groupe des agriculteurs ont été menées huit fois et en moyenne 25 producteurs ont participé. Comme l'indicateur 1-3, il est difficile de mesurer la réalisation de cet indicateur. Cependant, l'équipe du projet a recueilli les commentaires des participants des sessions de formation, reflètent que leur compréhension de la session précédente améliore la qualité de la formation à venir, le contenu devient plus approprié pour les agriculteurs et encourager la participation des agriculteurs.

Tableau 10 : Nombre de participants (renforcement des capacités de formation du groupe des agriculteurs)

Titre de la formation	Région des HB		Région de la BM	
	Date	Nombre de participants	Date	Nombre de participants
La formation sur le renforcement des capacités du groupe des agriculteurs (session 1)	30 Juin 2016	28	28 juin 2016	25
La formation sur le renforcement des capacités du groupe des agriculteurs (Session 2)	6 Oct 2016	23	13 octobre 2016	25

La formation sur le renforcement des capacités du groupe des agriculteurs (Session 3)	20 Oct 2016	24	27 octobre 2016	24
La formation sur le renforcement des capacités du groupe des agriculteurs (Résumé session)	8 Déc 2016	25	6 décembre 2016	26

(Source : Rapport d'activité du projet)

Résultat 2 : Introduire et construire le système de production de sésame de bouche.

Les activités liées à la formation de sésame de bouche ont été annulées. Une autre activité du résultat 2 a été mise en œuvre sans retard significatif, donc le résultat devrait atteindre l'objectif visé. L'indicateur 2-1 devrait être atteint dans la seconde moitié du projet. En revanche, les indicateurs 2-2, 2-3, 2-4 et 2-5 ne sont pas décrits correctement.

Indicateur 2-1 : Sélection des variétés adaptées à l'introduction.

➤ L'indicateur devrait être atteint dans la seconde moitié du projet.

Sur le site de Gampela, 50 variétés de sésame ont été expérimentées pendant la saison sèche de 2016. Sur la base de la culture test, 04 variétés ont été sélectionnées (S42, 32-15, Humera et Wollega) pour le test VAT et 08 variétés (GMP3, SIE2, KDG3, KDG5, BEN2, BEN4, PSK1 et MDK2) ont été choisies comme variétés candidates. Ces variétés ont été sélectionnées sur quatre sites avec 135 agriculteurs et un test de qualité gustative a été réalisée en utilisant S42, Humera, MKD2 et GMP3. Sur la base de ces résultats, les systèmes de production ont été développés pour MKD2 et GMP3, qui sont considérés comme sésame de bouche .

Indicateur 2-2 : Approbation de nouvelles variétés par l'INERA.

➤ L'activité liée à cet indicateur est en cours et devrait être atteint d'ici la fin du projet.

Cet indicateur n'a pas encore été atteint et il est nécessaire de le reconsidérer.

Selon l'enquête réalisée par le projet, l'enregistrement national de la variété est approuvé par le Comité National de semence (CNS). Le sous-comité du CNS est situé au sein de l'INREA , Farako-Ba et a la responsabilité de l'examen scientifique de la variété.

✓ Indicateur supplémentaire : Soumission du formulaire d'enregistrement des variétés au CNS

L'indicateur supplémentaire devrait être atteint d'ici la fin du projet. Une enquête sur le système national d'enregistrement des semences de sésame a été réalisée et la procédure nécessaire a été clarifiée. Le catalogue national pour l'enregistrement des variétés nationales est mis à jour tous les cinq ans, en tant que telle, la prochaine occasion pour l'enregistrement est en 2019.

✓ Indicateur supplémentaire : Approbation de la fiche technique pour les nouvelles variétés par l'INERA

L'indicateur supplémentaire devrait être atteint dans la seconde moitié du projet. Diverses études ont

été menées avec l'INERA comme mentionné dans « 3.2. Les Etat d'avancement des activités ». Les résultats des études seront compilés et la fiche technique des nouvelles variétés sera approuvée par l'INERA.

Indicateur 2-3 : l'indicateur du nombre de bénéficiaires est en cours d'étude.

➤ L'indicateur est en cours d'étude. Le nombre d'agriculteurs cibles devrait atteindre l'objectif prévu selon le plan initial dans la prochaine moitié du projet.

Cet indicateur est similaire à l'indicateur 1-2, le groupe cible de l'activité de l'indicateur 2 est le même que l'activité de l'indicateur 1.

Indicateur 2-4 : Nombre de formations réalisées pour la vulgarisation des techniques de culture (formations xx) et le nombre de participants (xx pers.).

Indicateur 2-5 : Nombre de formations dispensées afin de renforcer les activités d'organisation et de système de gestion au profit des producteurs (formations xx) et le nombre de participants (xx pers.).

➤ Il est difficile de mesurer la réalisation des indicateurs 2-4 et 2-5, car les activités connexes ne sont pas mises en œuvre et les données de l'indicateur sont difficiles à obtenir.

Bien que les sessions de formation liées à la culture de sésame de bouche (activité 2-5, 2-6 et 2-7) aient été annulées, la formation de l'indicateur 1 couvre des sujets liés à la production de sésame et à la vulgarisation de la technologie.

Résultat 3 : Développer le système pour la production et la distribution des semences de sésame

Les activités liées au résultat 3 ont été réalisées comme prévu. Cependant, 4 indicateurs/ 5 ne sont pas correctement définis dans le cadre logique. L'équipe tente d'utiliser plusieurs indicateurs supplémentaires pour mesurer l'atteinte du résultat 3.

Indicateur 3-1 : Volume de la production de semences de sésame sélectionné (xx kg → xx kg).

➤ Cette activité est en cours et il est difficile d'obtenir des données pour cet indicateur avant l'examen à mi-parcours.

Il est difficile de mesurer la réalisation de l'indicateur avant l'examen à mi-parcours, étant donné que l'objectif numérique n'a pas été défini.

Selon une enquête par questionnaire auprès des agriculteurs qui ont participé aux sessions de formation en 2016,

1) Dans la région de la BM, la production totale de 13 producteurs de semences qui ont participé au

questionnaire était de 10.995 kg. Le rendement par hectare se situait entre 53 kg/ha à 480 kg/ha.

2) Dans la région des HB, la production totale des 13 producteurs de semences qui ont participé au questionnaire était de 7.401 kg. Le rendement par hectare se situait entre 17 kg/ha à 494 kg/ha.

✓ *Indicateur supplémentaire : Mise à jour du manuel pour l'inspection de la production de semences certifiées*

Le manuel préparé par le « Projet pour la diffusion des semences améliorées au Burkina Faso (PDSA, 2008-2012) » a été examiné par les membres du projet, y compris le personnel de DGPV, les chercheurs de l'INERA et les inspecteurs du SNS. Le processus de mise à jour du manuel est en cours et devrait être achevé dans la deuxième moitié du projet.

✓ *Indicateur supplémentaire : Nombre de formation sur la production de semences et le nombre de participants*

Les séances de formation sur la production de semences ont été menées 17 fois et en moyenne 27 producteurs ont participé.

Tableau 11 : Le nombre de participants (La formation sur la production de semences)

Titre de la formation	Région des HB		Région de la BM	
	Date	Nombre de participants	Date	Nombre de participants
Formation théorique sur la production de semences	16 - 17 Juin 2015	34		
Formation théorique sur la production de semences	7 - 8 Juin 2016	30	31 Mai - 1 Juin 2016	25
La formation pratique sur la production de semences (session 1)	30 Juin 2016	28	28 Juin 2016	25
La formation pratique sur la production de semences (Session 2)	14 juillet 2016	28	12 Juil. 2016	26
La formation pratique sur la production de semences (Session 3)	10 août 2016	27	25 Août 2016	25
La formation pratique sur la production de semences (Session 4)	6 Oct. 2016	23	13 Oct. 2016	25
La formation pratique sur la production de semences (Session 5)	20 octobre 2016	24	27 Oct. 2016	24
La formation pratique sur la production de semences (Résumé session)	8 décembre 2016	25	6 Déc. 2016	26
Formation théorique sur la production de semences	8 - 9 Fev. 2017	27	15 - 16 Fev. 2017	38

(Source: Rapport d'activité du projet)

Indicateur 2.3 Ratio du mélange des grains de couleur différente dans le sésame de bouche (xx% à xx%).

Indicateur 3.3 Volume de sésame de bouche d'origine sélectionné (xx kg/an).

Indicateur 3-4 Nombre d'agriculteurs produisant des semences de sésame de bouche (fermes xx).

Indicateur 3-5 Superficie totale consacrée à la production de semences de sésame de bouche (xx ha).

- Les activités en rapport avec les indicateurs sont en cours et il est difficile d'obtenir des données pour cet indicateur avant l'examen à mi-parcours.
- Ces indicateurs doivent être reconsidérés.

Ces indicateurs (3-2, 3-3, 3-4 et 3-5) prennent en compte de sésame de bouche. Toutefois, compte tenu des besoins des parties prenantes, le projet ne se concentre pas intensément sur le de bouche. Par conséquent, certaines activités liées aux indicateurs doivent être modifiés. Ainsi, il est difficile d'obtenir des données pour ces indicateurs.

✓ *Indicateur supplémentaire : Nombre d'agriculteurs nouvellement inscrits dans la liste des producteurs nationaux de semences*

Le nombre d'agriculteurs qui ont terminé l'enregistrement pour la production de semences est au total 29 (en date du 22 Février), comme indiqué dans le tableau 12. La ventilation est de 15 agriculteurs de la région de la BM et 14 agriculteurs dans la région des HB.

Tableau 1 2 : Le numéro d'enregistrement de producteur de semences

	2016	2017 (en date du 22 Février)
Région de la BM	13	2
Région des HB	0	14

(Source : Rapport d'activité du projet)

Aucun des agriculteurs dans la région des HB qui ont participé à la formation sur la production de semences en 2016 n'est enregistré dans la liste des producteurs nationaux de semences. Bien que les raisons ne soient pas confirmées, selon l'enquête par entrevue à K.Vigué, un agriculteur de base a souligné un problème en ce qui concerne l'offre excédentaire de sésame dans le village en raison du manque d'accès au marché.

Résultat 4 : Renforcer la capacité de commercialisation des parties prenantes dans le secteur de sésame.

Indicateur 4-1 : Construire une structure pour comprendre la tendance du marché international de sésame.

➤ Cette activité est en cours et il est difficile d'obtenir des données pour cet indicateur avant l'examen à mi-parcours.

La plate-forme pour le sésame a eu lieu deux fois au Japon (mai 2015 et Juin 2016) et une fois au Burkina Faso (Août 2016). Des experts japonais ont visité les agriculteurs dans les régions de la BM et des HB, et supervisé leur travail de récolte, de séchage, de battage et de tri. En outre, des échantillons de sésame ont été recueillis à travers le Burkina Faso et analysés au Japon. Ces efforts ont donné l'occasion aux responsables de la filière sésame de comprendre le marché international.

Indicateur 4-2 : Nombre de formations offertes sur le contrôle de la qualité (formations xx).

➤ Les objectifs numériques ne sont pas fixés

Comme il n'y a pas de cible numérique définie pour cet indicateur, il est difficile de mesurer son niveau de réalisation. Des sessions de formation ont été tenues pour les commerçants de sésame (séminaire pour les petits et moyens intermédiaires de sésame) dans la région du BM le 29 novembre 2016 auxquelles 24 personnes ont participé. Une autre séance de formation est prévue pour 2017 et les contenus de cette séance de formation sont en cours de discussion. Par ailleurs, l'analyse du pesticide résiduel a été effectuée au Japon avec 23 échantillons de semences de sésame des producteurs et 13 échantillons de commerçants recueillis à travers le Burkina Faso

Indicateur 4-3 : l'indicateur lié au renforcement de l'interprofession de sésame est en cours d'étude.

➤ L'indicateur est en cours d'étude. Il est nécessaire de définir un indicateur pour le renforcement de l'interprofession de sésame.

Cet indicateur n'a pas été correctement établi et il est nécessaire de définir des indicateurs appropriés pour mesurer la réalisation du résultat 4.

Indicateur 4-4 : Le nombre d'émissions d'information sur le sésame (fois xx).

➤ Les objectifs numériques ne sont pas fixés.

L'indicateur est lié au résultat de l'activité et il n'y a pas de facteur gênant pour les émissions d'information sur le sésame ; il devrait être atteint selon le niveau prévu. À ce jour, des brochures (2016, 2017) et bulletin d'information (Vol. 1 à vol. 5) sont publiés en deux langues, japonais et français.

3.3.2. La réalisation de l'objectif du projet

Objectif du projet : Améliorer la productivité et les revenus des producteurs du sésame cible

La perspective de la réalisation de l'objectif du projet n'est pas mesurable puisque les indicateurs ne sont pas correctement définis dans le PDM. En outre, la plupart des activités du projet ont commencé depuis 2016 et les sessions de formation pour les agriculteurs locaux n'ont été mises en œuvre que pour une saison de production de sésame. Il faut donc plus de temps pour obtenir des résultats concrets.

Indicateur 1 : Revenu du ménage par agriculteur par la culture de sésame concassé. (xx FCFA/an à xx FCFA/an)

Indicateur 2 : Revenu du ménage par agriculteur par la culture de sésame de bouche. (xx FCFA/an à xx FCFA/an)

➤ Il est difficile de mesurer la réalisation de ces indicateurs vu que les données nécessaires ne sont pas disponibles.

➤ Les objectifs numériques ne sont pas fixés

Selon l'enquête par le projet, les revenus de la production de sésame sont estimés à 103.000 FCFA par hectare. Comme les objectifs numériques ne sont pas définis et comme il est difficile d'obtenir des données pour l'indicateur, il est impossible d'évaluer avec précision les perspectives de réalisation des Objectifs du projet. Bien que le revenu des agriculteurs de sésame soit affecté par les fluctuations du prix de vente, le projet étudie toutes les activités de sésame depuis la production jusqu'à la distribution. De plus, l'amélioration des capacités de commercialisation des responsables du sésame devrait contribuer à une augmentation de l'efficacité.

Indicateur 3 : Productivité par la culture de sésame concassé. (xx kg/ha à xx kg/ha)

Indicateur 4 : Productivité par agriculteur par culture de sésame de bouche. (xx kg/ha à xx kg/ha)

➤ Il est difficile de mesurer la réalisation de ces indicateurs vu que les données nécessaires ne sont pas disponibles.

➤ Les objectifs numériques ne sont pas fixés.

Considérant les raisons suivantes : 1) Les données devraient être recueillies après l'achèvement du projet, 2) Il est difficile d'obtenir des données pour l'indicateur, et 3) en tant que objectifs numériques ne sont pas définies, il est difficile d'évaluer avec précision les prévisions.

3.3.3. Les réalisations de l'objectif général

Objectif général : Accroître les exportations de sésame

Au moment de l'examen à mi-parcours, il serait trop tôt pour prévoir le taux de réalisation de l'objectif global. En outre, la relation de cause à effet entre l'objectif du projet et l'objectif général

n'est pas clair. Le chemin pour atteindre l'objectif général n'est pas clairement identifié et la définition de l'objectif général doit être revue

Indicateur 1 : Les exportations de sésame (xx à xx tonnes)

Indicateur 2 : Les exportations de graines de sésame de bouche (xx à xx tonnes)

- Il est difficile de mesurer la réalisation de ces indicateurs vu que les données nécessaires ne sont pas disponibles.
- Les objectifs numériques ne sont pas fixés

Par rapport à 2014, les exportations de sésame ont augmenté (Trade map 120740, Graines de sésame, concassées ou pas) comme indiqué dans le tableau ci-dessous. Toutefois, divers facteurs influent sur la croissance du volume des exportations, et étant donné que la relation de cause à effet entre ces facteurs et la réalisation de l'objectif du projet est peu clair, il est essentiel de considérer la « validité » comme indicateur du projet.

Tableau 1 3 : l'exportation de sésame

2014	2015	2016
94.889 tonnes	171.461 tonnes	159.837 tonnes

(Source : Trade map 120740 Graines de sésame, concassées ou pas)

3.3.4. Processus de mise en œuvre

Les résultats suivants ont été révélés comme étant les principaux facteurs contributifs et entravant de la mise en œuvre du projet. Ceux-ci se basent sur les résultats des entretiens et des questionnaires aux collègues et aux experts japonais.

(1) Facteurs contributifs au processus

Utilisation des ressources locales

Le projet a utilisé les ressources existantes au Burkina Faso pour mener ses activités. Les formateurs sont des experts locaux et certains ont une expérience professionnelle avec les bailleurs de fonds internationaux qui soutiennent le secteur du sésame. Le contenu de la formation a été décidé lors de la série de discussions tenues avec ces experts. Les matériaux de formation développés par d'autres projets, tels que Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit (GIZ)/ Programme Développement de l'Agriculture (PDA) et JICA, ont également été utilisés.

Amélioration continue du contenu des formations

Le projet a utilisé les commentaires et les leçons tirées de chaque séance de formation. Par exemple, le faible niveau d'alphabetisation de certains producteurs noyau ayant participé à la

formation en 2016 a impacté négativement la mise en place de certains champs écoles paysan (C.E.P). Pour améliorer le problème ci-dessus, la sélection des stagiaires a été soigneusement menée en 2017. Le calendrier, le contenu et la durée des sessions de formation sont également modifiés en fonction des résultats de la session précédente. Ce cycle PDCA (Planifier, Faire, Vérifier et Agir) a fonctionné correctement pour la mise en œuvre du renforcement des capacités des agriculteurs locaux.

(2) Facteurs entravant le processus

Manque de communication et de compréhension mutuelle

Il est possible d'améliorer la communication entre les membres du projet. À l'heure actuelle, le JCC est la bonne occasion d'obtenir des informations concernant l'avancement du projet pour la plupart des collègues. La participation des collègues aux activités sur le terrain a été limitée et aucune réunion ordinaire n'a eu lieu. Cette situation a affecté l'établissement d'une compréhension mutuelle pour l'objectif du projet et la mise en œuvre harmonieuse des activités.

Retard sur la révision du cadre logique

En raison du retard sur la validation du résultat de l'enquête de base, le PDM n'a pas été révisé en temps opportun. Les indicateurs vérifiables définis dans le PDM actuel ne sont pas spécifiquement décrits et l'objectif de chaque activité n'est pas clairement identifié. L'absence d'un cadre approprié du projet a entravé l'établissement d'une reconnaissance commune parmi les membres du projet pour la mise en œuvre des activités et la voie pour atteindre son objectif.

Contrainte budgétaire du côté de la partie burkinabé

Il y a une contrainte budgétaire du côté de la partie Burkinabé limitant la mise en œuvre efficace des activités. En raison du manque de ressources financières, la participation de la contrepartie a été limitée. Une participation insuffisante de la contrepartie a ralenti les activités et entrave la bonne exécution des activités. Plus particulièrement, la participation limitée des agences locales de l'agriculture telles que la ZAT et l'UAT affecte en grande partie l'efficacité du mécanisme de diffusion du transfert de technologie par le projet.

3.3.5. Évaluation par les cinq critères

Les résultats de l'évaluation par les cinq critères (Pertinence, Efficacité, Efficacité, Impact et Durabilité) sont résumés ci-dessous.

(1) Pertinence : relativement élevée

L'objectif du projet et l'objectif global sont pertinents en termes de stratégie du secteur agricole au Burkina Faso. Le projet est également conforme à la politique d'aide du Japon envers le Burkina

Faso et répond aux besoins des agriculteurs locaux, bien qu'il soit possible d'améliorer l'approche du transfert technique aux agriculteurs locaux.

Priorité politique

Le projet correspond à la stratégie de développement au Burkina Faso qui privilégie le secteur agricole pour accélérer la croissance économique. Dans le Programme National du Secteur Rural (PNSR), qui est un cadre de la mise en œuvre de la stratégie nationale pour le secteur rural, les cultures oléagineuses, y compris le sésame, sont considérées comme un produit à haut potentiel pour les exportations vers les marchés internationaux. Le projet vise à améliorer la productivité du sésame et le volume d'exportation. Ainsi, les objectifs du projet sont conformes avec la politique nationale du Burkina Faso.

Nécessité des parties prenantes

Le sésame est l'une des cultures commerciales importantes pour les agriculteurs de la région cible. L'amélioration de la production du sésame et le renforcement des capacités de commercialisation des parties prenantes dans le secteur du sésame devraient contribuer à la génération de revenus des agriculteurs cibles. Ainsi, l'objectif du projet satisfait aux besoins des agriculteurs locaux. Parallèlement, l'objectif global «Augmenter l'exportation de sésame» est en droite ligne avec celui des parties prenantes dans le secteur du sésame, car l'exportation du sésame est un moyen important d'acquérir des devises étrangères pour le Burkina Faso.

Adéquation des moyens

L'approche du projet est appropriée en termes de renforcement de la production de sésame grâce à la diffusion d'une technologie appropriée, l'introduction de semences de sésame certifiées et l'amélioration de la capacité des parties prenantes. La sélection de la région cible et les principaux agriculteurs sont soigneusement menés. Cependant, il existe une marge d'amélioration pour établir un système de surveillance pour l'agriculteur cible afin de s'assurer que la technologie transférée est correctement installée dans la région cible. Au cours de la première moitié du projet, en raison de la limitation de l'implication de ZAT/UAT, la surveillance a été effectuée seulement deux fois et 12 groupes sur 28 ont été surveillés.

Opportunité de la structure de mise en œuvre

La division du rôle parmi les membres du projet est clairement décrite dans l'accord du projet. Cependant, il existe un écart entre le plan et la structure de mise en œuvre. La plupart des collègues burkinabè sont dans l'administration au niveau central et les principales activités de la première moitié du projet ont été menées sur le terrain. En outre, une plus large gamme d'acteurs doit être

impliquée dans les activités du projet, en particulier pour l'activité liée au renforcement de la capacité de commercialisation dans le secteur du sésame.

(2) Efficacité: incommensurable

En ce qui concerne les indicateurs du but du projet, la plupart des indicateurs établis dans le cadre logique n'ont pas été mesurés au moment de l'examen à mi-parcours puisque les indicateurs n'ont pas été correctement décrits et l'étude de référence n'a pas encore été validée.

Possibilité d'atteindre le but du projet

Comme mentionné dans la partie «3.3.2. Réalisation du but du projet», il est difficile d'évaluer la perspective de l'atteinte du but du projet puisque les indicateurs définis dans le PDM ne sont pas correctement décrits. Cependant, la plupart des activités sont mises en œuvre selon les PO et des progrès constants ont été observés dans la première moitié du projet. La plupart des sessions de formation ont été lancées depuis 2016 et menées comme prévu. Un système pour surveiller l'état réel du FFS/FBS est sur le point d'être établi. Étant donné que la production du sésame se fait une fois par an, les résultats escomptés du transfert de technologie n'ont pas encore été pleinement atteints. Il faut du temps pour obtenir le résultat concret du transfert de technologie par le projet.

Relations de cause et d'effet

Les relations logiques entre le but du projet et tous les résultats dans le PDM sont généralement adaptées. Le projet a été mis en œuvre dans le but de renforcer la production de sésame en renforçant les capacités des agriculteurs et des acteurs locaux dans le secteur du sésame. En ce qui concerne l'atteinte de l'objectif, le projet a été conçu de manière à améliorer la productivité du sésame. En plus, le projet développe le système de production et de distribution de semences de sésame sélectionnées et renforce les capacités de commercialisation des acteurs du secteur du sésame.

Facteurs favorables et contraignants à l'efficacité

Le manque de structure de surveillance empêche la réalisation du but du projet. L'approche utilisée par le projet est nouvelle pour les producteurs locaux et une structure de suivi appropriée est nécessaire pour maintenir la mise en œuvre effective du FFS/FBS. Le suivi par les agents agricoles provinciaux est également nécessaire pour maintenir la technologie transférée par le projet. Les signes externes pour atteindre le but du projet sont le fait que "le prix du marché international de Sésame ne montre pas une tendance baissière significative" et c'était le cas au moment de l'examen à mi-parcours.

(3) Efficacité: modérée

Dans l'ensemble, toutes les données ont été converties pour générer les résultats attendus. En revanche, l'allocation budgétaire du côté de Burkinabé est insuffisante et entrave la participation du personnel de contrepartie.

Efficacité des données de la partie japonaise

En raison de l'impact du changement politique intervenu en 2014 et de la démission des experts à long terme, le début de l'activité à grande échelle a été retardé par rapport au plan initial. Cependant, des experts japonais ont été dépêchés et engagés dans les activités du Projet avec un haut niveau d'expertise dans les moments difficiles. L'équipement a été acheté selon la nécessité de chaque activité et ceux-ci ont été utilisés dans les champs expérimentaux. Les formations des homologues au Japon ont été stratégiquement conçues et mises en œuvre. La plupart des homologues formés au Japon ont participé activement aux activités du projet et ont fonctionné comme membres de base pour diriger le projet. Les participants ont utilisé ce qu'ils ont appris au Japon dans leurs travaux quotidiens

Efficacité des données de la partie burkinabé

Il y a un problème sur l'allocation budgétaire au niveau de la partie burkinabé. La participation des collègues de la contrepartie du projet est en quelque sorte limitée en raison du manque de budget dans la première moitié du projet, et il y a lieu d'améliorer cet aspect.

En ce qui concerne les ressources humaines, au total, 16 collègues ont été affectés par la DGPER, DGPV, INERA et DRAAH. La partie burkinabé a également fourni les espaces de bureaux pour les experts japonais (3 lieux: DRAAH-BM, DRAAH-HB et DGPER) et les champs expérimentaux (4 lieux: CPR Koudougou, INERA Gampela, INERA Farako-Ba et INERA Niangoloko).

(4) Impact: encore trop tôt pour évaluer

Perspective de la réalisation de l'objectif global

Au moment de l'examen à mi-parcours, il est difficile de prévoir la potentialité et l'ampleur de l'impact attendu du projet. La diffusion de FFS/FBS dans d'autres régions du pays ne sera pas soutenue par le projet et il n'est toujours pas possible de savoir dans quelle mesure les résultats du projet seront diffusés.

Relation causale

L'objectif global du projet est d'augmenter l'exportation du sésame et l'objectif du projet vise à améliorer la productivité et le revenu des agriculteurs cible dans la région. Le chemin pour atteindre l'objectif global n'est pas clair en ce moment et il n'y a aucune activité mise en œuvre dans la perspective d'atteindre l'objectif global. Il ne convient donc pas de fixer un objectif global. De plus,

des facteurs externes tels que le prix international du sésame et les conditions météorologiques ont une incidence importante sur le volume des exportations et il est difficile de mesurer le degré de contribution du projet.

Autre impact

Aucun effet de retombée n'a été observé au moment de la revue à mi-parcours. La majeure partie de l'activité a commencé en 2016 et il n'y a pas assez de temps pour produire les impacts dans le secteur du sésame.

(5) Durabilité: relativement faible

Bien que les aspects politiques pour assurer la durabilité de la réalisation du projet soient suffisants, les aspects institutionnels, financiers et techniques constitueront la partie vulnérable du projet qu'il va falloir renforcer.

Aspect politique

Dans le but de mieux contrôler la qualité du sésame à l'export, le ministère en charge de l'agriculture en collaboration avec les acteurs directs de la filière, a élaboré, le "Cahier des Charges pour l'exportation du sésame du Burkina Faso". Il s'agit d'un document cadre qui précise les conditions d'exportation du sésame du Burkina Faso à l'extérieur. Le cahier de charge vise à renforcer et à assurer l'application des législations nationales et internationales en matière de commerce, de norme de qualité des produits agricoles de façon générale et singulièrement la sécurisation sanitaire de l'offre de sésame alimentaire sur le marché agricoles et agroalimentaire. Pour accompagner les producteurs de sésame, un guide de production du sésame a été aussi élaboré en 2017, pour servir de référentiel technique pour la production du sésame.

Aspect institutionnel

L'acteur principal qui utilise la technologie transférée dans la phase post-projet n'est pas clairement identifié. Bien que la DGPER, principale contrepartie du projet, ait les responsabilités de la distribution domestique et régionale du sésame, la portée du projet comprend également le développement technologique, la sélection des variétés, la diffusion de la technologie, la distribution des semences, la gestion des pesticides et l'exportation. D'où la nécessité d'une implication active d'un large éventail d'acteurs pour assurer la durabilité de l'aspect organisationnel.

Aspects Financiers

Il n'y a pas de mécanisme durable permettant à la contrepartie d'obtenir les fonds nécessaires pour poursuivre les activités. La contrainte budgétaire limite la participation des homologues dans la

mise en œuvre des activités du projet. Le retard dans la mobilisation des ressources financière de la contre partie impact négativement la mise en œuvre des activités de la partie burkinabé. .

Aspect technique

La cible principale du transfert technique du projet concerne les producteurs de sésame dans 2 régions. La mise en place de la structure de surveillance pour assurer l'installation de la technologie est impérative. En ce sens, le rôle des chefs ZAT / UAT, agents de vulgarisation locaux, est primordial pour assurer le suivi des activités des producteurs locaux, mais la participation est limitée en raison du manque de budget mentionné dans l'aspect financier.

D'autre part, les manuels, textes et outils préparés par le projet seront utilisés sur le terrain après l'achèvement du projet.

3.3.6. Conclusion

Du point de vue des cinq critères d'évaluation, la pertinence du projet est évaluée comme «relativement élevée», car l'objectif du projet est très conforme aux besoins nationaux en matière de politique et de développement du Burkina Faso ainsi qu'à la politique d'aide du Japon, bien qu'il existe un fossé entre la conception du projet et la situation réelle. L'efficacité du projet est considérée comme «non mesurable», car les indicateurs ne sont pas clairement décrits dans le PDM. L'efficacité du projet est évaluée comme «modérée». Bien que la plupart des résultats n'aient pas encore été réalisés, les activités ont été mises en œuvre dans une situation difficile causée par la limitation de l'allocation budgétaire par la partie burkinabé. L'impact du projet est trop tôt pour être évalué et il est nécessaire de revoir l'objectif global du PDM. La pérennité du projet est évaluée comme «relativement faible» car certaines questions portant sur des aspects financiers, institutionnels et techniques à mi-parcours du projet existent toujours. Pour une amélioration supplémentaire du projet au cours de la dernière phase du projet et la période post-projet, l'équipe recommande les mesures présentées dans la partie «4.1. Recommandations.»

4. Recommandations

4.1. Recommandations à l'équipe du projet (homologues burkinabé et experts japonais)

4.1.1. Révision du PDM

- (1) Certains indicateurs n'ont pas été définis et n'ont même pas été décrits clairement. Afin de partager la portée du projet avec toutes les parties prenantes du projet, il est essentiel de définir les indicateurs appropriés dès que possible. La mission d'évaluation à mi-parcours soumet le projet de PDM révisé sous forme de pièce jointe (Annexe 6) en fonction des résultats de l'examen qui sera discuté et approuvé au prochain JCC.

4.1.2. Partage d'informations

- (1) Il est important de clarifier la responsabilité des homologues burkinabés (DGPER, DGESS, DGPV, DGFOMR, DAF, MICA, INERA, DRAAH, DPAAH, ZAT, UAT) et des experts japonais selon chaque activité du PDM/PO. Les personnes responsables du Burkina Faso et du Japon examineront ensemble l'évolution de chaque activité de façon périodique (au moins une fois par mois).
- (2) En se référant au point 3.3.4, les réunions formelles qui nécessitent des coûts tels que les indemnités n'ont pu être tenues fréquemment en raison de contraintes budgétaires qui devraient être couvertes par la partie burkinabé. À l'heure actuelle, le JCC tenu deux fois par an est l'occasion de partager des informations concernant l'avancement du projet, ce qui peut limiter la compréhension mutuelle. Il est recommandé d'encourager la tenue de réunions régulières entre le Burkina Faso et le Japon afin de ne pas générer de tels coûts en raison des contraintes budgétaires.
- (3) Il est recommandé à chaque partie d'informer son superviseur respectif de l'avancée du projet pour une meilleure gestion, tel que convenu entre le secrétaire général du MAAH et le directeur du Département du développement rural au siège de la JICA lors de la visite de courtoisie.

4.1.3. Renforcement de la surveillance et du suivi

- (1) Un agent de vulgarisation tel que le chef ZAT/UAT devrait davantage être impliqué dans l'appui-conseil et le suivi afin de pérenniser les actions du FFS/FBS et de sécuriser l'utilisation par les agriculteurs ordinaires de la technologie et des connaissances transférées.
- (2) L'équipe du projet discutera de la façon d'impliquer les agents de vulgarisation pour renforcer le système de surveillance en utilisant les ressources humaines et financières locales disponibles

4.2. Recommandation à la partie burkinabé

- (1) Le gouvernement burkinabé fera tout son possible pour obtenir un budget pour le coût local du projet qui a été convenu dans le R/D. Ce budget devrait couvrir tous les coûts locaux, y compris le coût nécessaire aux activités mises en œuvre par l'INERA.
- (2) La participation de l'autre partie dans les activités du projet a été limitée. Étant donné que les résultats du projet seront utilisés par le côté burkinabé, la contrepartie devrait assurer un leadership et prendre une initiative pour la mise en œuvre du projet, de concert avec les experts de la JICA.
- (3) Comme l'ont confirmé le Secrétaire Général du MAAH et le Directeur général du Développement rural, lors de la visite de la mission JICA HQ, la partie burkinabé s'engage à organiser un atelier de validation de l'étude de référence du projet avec l'appui technique de la partie japonaise.

4.3. Recommandations à la partie japonaise

- (1) Il est recommandé au bureau de la JICA Burkina Faso et au siège d'examiner les données nécessaires pour optimiser l'efficacité de la mise en œuvre du projet en fonction des résultats de cette évaluation à mi-parcours.
- (2) La JICA devra partager les informations sur les concepts de la JICA relatifs à la coopération technique et les lignes directrices pour les Evaluations de Projet avec la partie burkinabé pour une bonne mise en œuvre du projet



Annexe 1

Programme de l'évaluation à mi-parcours

Date		Evaluation analysis	Pesticide management
2017/6/5	Mon	8:00 Meeting with JICA Burkina Faso Office 10:30 Meeting with Acting Director of DPEFA and Mr. POUYA (Focal Point, DGPER/DPEFA) 13:00 JICA Experts (Ms. OTANI) 16:30 Mr. BIHOUN Jean (DGPV), Ms. BANISSI/NANEMA Claudine	
2017/6/6	Tue	8:00 Meeting with JICA Experts (Mr. CHUJO) 9:00 Meeting with Mr. YIGO, Mr. OUATTARA, Mr. TINGRI, Ms. MOUKIAN (DGPER) 11:00 Move to Koudougou 14:30 Meeting with Dr. MININGOU, Dr. OUEDRAOGO Ouma (INERA) 16:00 Meeting with Mr. ZOUNGRANA (Focal Point, DGPV/DVRD)	
2017/6/7	Wed	7:30 Move to Bobo-Dioulasso 14:00 Courtesy call to DR (Hauts-Bassins) or DP (Houet) 15:00 Meeting with Mr. MALO (Focal Point of HBs)	
2017/6/8	Thu	7:00 Move to K. Vigné 9:00 Visit to farmer's group of Benkadi (K. Vigné) (Core farmers, Ordinary farmers, ZAT/UAT) 14:00 Meeting with Mr RAMDE, Ms DA, Ms ZAMTAKO, Ms TRAORE and Mr SAWADOGO (Agriculture Officers, trainers, ZAT)	
2017/6/9	Fri	8:00 Move to Makognadougou 9:00 Site visit (Makognadougou, Mr. Marcel's Field) 10:30 Move to Ouagadougou	
2017/6/10	Sat	Meeting with JICA Experts	
2017/6/11	Sun	Documentation (Joint Review Report English version draft)	Documentation (Joint Review Report English version draft)
2017/6/12	Mon	AM : 9:30 Internal Discussion 10:30 Meeting with JICA experts 14:00 Courtesy Call to PS *Explanation about the Mid-term Review 15:30 Meeting with JICA office	AM : 9:30 Internal Discussion 10:30 Meeting with JICA experts PM:14:00 Meeting with groups of wholesalers : a 45 mn interview at the INTERCEB head office at Cité AN3,ETS KOUIDA N Hamadou (Sankariaré),ETS ZOUNGRANA (Sankariaré),Group VELEGDA(Kossodo),EBT at Cissé
2017/6/13	Tue	8:00 Move to Dédougou 13:30 Courtesy call to DR (Boucle du Mouhoun) and DP (Mouhoun) 14:00 Meeting with Mr. SANOU (Focal Point of BM) 15:30 Meeting with Mr. COLIBARY, Mr. SERE, Mr. PARE (Agriculture Officer, trainers)	9:00AM: Meeting with Mr. Coudiat (President of UNAPEOSEB) 15:00 PM Meeting with BURKINA SEED
2017/6/14	Wed	8:00 Move to Passakongo 9:30 Meeting with core farmers, ordinary farmers, ZAT/UAT 11:30 Move to Mr. KAM's field (Dédougou) 12:00 Site visit (Mr. KAM's field) 14:00 Move to Ouagadougou	9:00 AM: Meeting with Mrs. Some (Plant protection service) and visit of the phytosanitary post not far from the railway station 11:30 AM: Meeting with Mr. DJALLO and Mr. BARRY (APEX) 15:30 PM: Meeting with Mr. Velegda (ANACES-B) Central warehouse visit, Kossodo warehouse visit and Interview on ANASES-B
2017/6/15	Thu	Internal Discussion of Review Team	9:00 AM : Meeting and observation of LNSP PM : Prepare for presentation / Internal Discussion of Review Team
2017/6/16	Fri	AM : Documentation (Joint Review Report English version draft) PM : Meeting with JICA Expert	10:00 : Sesame Seminar (Mr. Takimoto make presentation on Pesticide Management), DGPER Conference Hall PM : Meeting with DGPER
2017/6/17	Sat	Documentation (Joint Review Report English version draft)	• Documentation 22:35 Departure from Ouagadougou (AF535)
2017/6/18	Sun	Documentation	
2017/6/19	Mon	• Joint Review Committee Meeting • Finalization Joint Review Report • Presentation of the Result of Mid-term Review, Recommendations to the Project and signing of M/M of Review Report	
2017/6/20	Tue	Documentation	
2017/6/21	Wed	• Reporting to JICA office • Reporting to the Embassy of Japan • Documentation 22:35 Departure from Ouagadougou (AF535)	

Annexe 2

Cadre Logique du Projet (PDM)

Titre du Projet : Projet de Renforcement de la Production du Sésame

Zone cible du Projet : A s'étendre dans les zones environnantes autour des 2 pôles (Ouagadougou, Bobo-Dioulasso)

Durée du Projet : Approximativement 5 ans à partir de 2014

Résumé du Projet	Indicateurs vérifiables objectivement	Moyens de vérification	Hypothèses importants
Objectif Global			
Les exportations de sésame augmentent	<ul style="list-style-type: none"> - L'évolution des exportations de sésame à huile (de xx à xx tonnes) - L'évolution des exportations de sésame de bouche (de xx à xx tonnes) 	<ul style="list-style-type: none"> - Statistiques nationales (au démarrage du Projet, à la fin du Projet) 	Le pays ciblé et la sous-région ne sont pas exposés au problème sécuritaire.
Objectif du Projet			
La productivité et les recettes tirées du sésame chez les producteurs ciblés par le Projet sont améliorées	<ul style="list-style-type: none"> - La recette annuelle de la production de sésame à huile par exploitation agricole (de xx FCFA/an à xx FCFA/an) - La recette annuelle de la production de sésame de bouche par exploitation agricole (de xx FCFA/an à xx FCFA/an) - Le rendement du sésame à huile (de xx kg/ha à xx kg/ha) - Le rendement du sésame de bouche (de xx kg/ha à xx kg/ha) 	<ul style="list-style-type: none"> - Enquête auprès des exploitations (initiale et finale) - idem - idem - idem 	Le prix du sésame au marché international ne marque pas de tendance baissière significative.
Résultats			
1. Le rendement de sésame à huile est amélioré	<ul style="list-style-type: none"> - Le rendement auprès des producteurs du sésame à huile (de xx kg/ha à xx kg/ha) - L'indicateur sur le nombre de bénéficiaires est à l'étude - Le nombre de formations réalisées pour la vulgarisation des techniques culturales (xx formations) et le nombre de participants (xx pers.) - Le nombre de formations réalisées pour le renforcement des activités organisationnelles et du système de gestion des producteurs (xx formations) et le nombre de participants (xx pers.) 	<ul style="list-style-type: none"> - Enquête auprès des exploitations (initiale et finale) - Enquête auprès des exploitations (initiale et finale) - Rapports du Projet - Rapports du Projet 	La production n'est pas affectée par une très mauvaise récolte due aux aléas climatiques, etc.
2. Le sésame de bouche est introduit et le système de production est mis en place	<ul style="list-style-type: none"> - La sélection des variétés adaptées à l'introduction - L'approbation des nouvelles variétés par l'INERA - L'indicateur sur le nombre de bénéficiaires est à l'étude - Le nombre de formations réalisées pour la vulgarisation des techniques culturales (xx formations) et le nombre de participants (xx pers.) - Le nombre de formations réalisées pour le renforcement des activités organisationnelles et du système de gestion des producteurs (xx formations) et le nombre de participants (xx pers.) 	<ul style="list-style-type: none"> - Rapports du Projet - Certificat d'enregistrement des nouvelles variétés délivré par l'INERA - Enquête auprès des exploitations (initiale et finale) - Rapport du Projet - Rapport du Projet 	Les ressources humaines chargées de la transmission technique, comme participants aux formations et autres, continuent à être impliquées au Projet.
3. Le système de production et de distribution des semences ciblées par le Projet est aménagé	<ul style="list-style-type: none"> - Le volume de production des semences de sésame à huile sélectionnées (de xx kg à xx kg) - Le taux de mélange de graines d'autres couleurs dans les semences de sésame d'huile sélectionnées (de xx % à xx %) - Le volume fourni des semences de base de sésame de bouche sélectionnées (xx kg/an) - Le nombre d'exploitations semencières de sésame de bouche formés (xx exploitations) - La superficie totale consacrée aux productions des semences de sésame de bouche (xx ha) 	<ul style="list-style-type: none"> - Enquête auprès des producteurs semenciers ((initiale et finale) - Enquête auprès des producteurs semenciers ((initiale et finale) - Rapports INERA - Rapports du Projet (évolution chronologique) - Rapports du Projet (évolution chronologique) 	
4. Les capacités de marketing des acteurs de la filière sésame sont renforcées	<ul style="list-style-type: none"> - La mise en place d'un dispositif permettant de saisir les tendances du marché international du sésame - Le nombre de formations réalisées sur le contrôle de qualité (xx formations) - L'indicateur lié au renforcement de l'interprofession de la filière sésame est à l'étude - Le nombre d'émissions d'information sésame (xx fois) 	<ul style="list-style-type: none"> - Rapports du Projet - Rapports du Projet - Rapports du Projet - Rapports du Projet 	

Activités	Apports	Hypothèses importants
<p>0. Faire une étude sur l'état des lieux (économie ménagère des exploitations agricoles, situation et problématiques des productions et de la filière, etc.)</p> <p>1-1 Vérifier les caractéristiques des variétés de sésame à huile</p> <p>1-2 Effectuer les différents essais d'amélioration du rendement de sésame à huile (période du semis, fumage, etc.)</p> <p>1-3 Organiser les formations pour la vulgarisation des techniques culturales adaptées de sésame à huile et assurer le suivi</p> <p>1-4 Etudier et proposer les fonctionnements types des Organisations et modes d'exploitation capables d'augmenter la production de sésame à huile et d'améliorer le revenu chez des exploitations ordinaires (cultures conventionnelles, renforcement d'organisations, etc.)</p> <p>1-5 Organiser les formations pour le renforcement des activités organisationnelles et du système de gestion organisationnelle des producteurs (gestion d'organisation, accès aux fonds, etc.)</p> <p>2-1 Etudier les caractéristiques des variétés de sésame de bouche candidates à la sélection définitive</p> <p>2-2 Vérifier l'aptitude comme sésame de bouche et l'adaptabilité culturelle, pour la sélection des variétés à vulgariser</p> <p>2-3 Effectuer les essais de culture de sésame de bouche, pour établir les itinéraires culturaux</p> <p>2-4 Procéder à l'enregistrement officiel des nouvelles variétés de sésame de bouche introduites par le projet</p> <p>2-5 Organiser les formations pour la vulgarisation des techniques culturales adaptées au sésame de bouche et assurer le suivi</p> <p>2-6 Etudier et proposer les fonctionnements types des Organisations et modes d'exploitation capables d'augmenter la production de sésame de bouche et d'améliorer le revenu chez des exploitations ordinaires (cultures conventionnelles, renforcement d'organisations, etc.)</p> <p>2-7 Organiser les formations pour le renforcement des activités organisationnelles et du système de gestion organisationnelle des producteurs (gestion d'organisation, accès aux fonds, etc.)</p> <p>3-1 Organiser les formations pour la production adéquate des semences de base</p> <p>3-2 Organiser les formations pour le renforcement des capacités d'encadrement des formateurs en charge de l'encadrement technique des producteurs semenciers</p> <p>3-3 Organiser les formations pour renforcement des capacités de production des semences améliorées des producteurs semenciers</p> <p>3-4 Mettre en place un système de production et de distribution des semences ciblées par le Projet (suivi, encadrement, etc.)</p> <p>4-1 Renforcer les capacités de marketing auprès du marché international (étude des besoins des marchés, promotion de la participation aux foires internationales, examen des méthodes de prévision des productions, etc.)</p> <p>4-2 Organiser les formations sur le contrôle de qualité basé sur les besoins des marchés (traitement d'impuretés, gestion de l'utilisation de pesticides, renforcement du système de contrôle, traçabilité, etc.)</p> <p>4-3 Renforcer les organisations de la filière sésame, de manière à renforcer l'interprofession de la filière sésame</p> <p>4-4 Promouvoir le partage d'informations sur la production, la commercialisation et les marchés</p>	<p>« Côté burkinabè »</p> <ul style="list-style-type: none"> - Le personnel homologue - Locaux de bureaux et équipement nécessaire - Différente procédure requise pour l'envoi des experts, mesures d'exonération, etc. - Budget de contrepartie <p>A se référer à l'Ebauche du PV</p>	
	<p>« Côté Japonais »</p> <p>Experts :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Expert « Chef d'équipe » - Expert « Techniques culturales » - Expert « Système d'exploitation / Organisation » - Expert « Contrôle de qualité / Traitement post-récolte » - Expert « Marché / Commercialisation » - Expert « Administration / Formations » <ul style="list-style-type: none"> - Formations - Matériel et équipement <p>A se référer à l'Ebauche du PV</p>	<p>Conditions Préalables</p>



Annexe 3
Plan d'Opérationnalisation (PO)

	2014			2015			2016			2017			2018			2019													
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
1. Experts																													
2. Formations																													
0. Mettre en œuvre une étude sur l'état des lieux																													
0 (Economie ménagère des exploitations agricoles, situation et problématiques des productions et de la filière, etc.)																													
1. Le rendement de sésame d'huile est amélioré																													
1.1 Vérifier les caractéristiques des variétés de sésame d'huile																													
1.2 Effectuer les différents essais d'amélioration du rendement de sésame d'huile (période du semis, fumage, etc.)																													
1.3 Organiser les formations pour la vulgarisation des techniques culturales adaptées de sésame d'huile et assurer le suivi																													
1.4 Etudier et proposer les manières d'être des organisations et modes d'exploitation capables d'augmenter la production de sésame d'huile et d'améliorer le revenu chez des exploitations ordinaires (cultures conventionnelles, renforcement d'organisations)																													
1.5 Organiser les formations pour le renforcement des activités organisationnelles et du système de gestion organisationnelle des producteurs (gestion d'organisation, accès aux fonds, etc.)																													
2. Le sésame de bouche est introduit et le système de production est mis en place																													
2.1 Etudier les caractéristiques des variétés candidates																													
2.2 Vérifier l'aptitude comme sésame de bouche et l'adaptabilité culturelle, pour la sélection des variétés à vulgariser																													
2.3 Effectuer les essais de culture de sésame de bouche, pour établir les itinéraires culturaux																													
2.4 Procéder à l'enregistrement officiel des nouvelles variétés de sésame de bouche																													
2.5 Organiser les formations pour la vulgarisation des techniques culturales adaptées de sésame de bouche et assurer le suivi																													
2.6 Etudier et proposer les manières d'être des organisations et modes d'exploitation capables d'augmenter la production de sésame de bouche et d'améliorer le revenu chez des exploitations ordinaires (cultures conventionnelles, renforcement d'organisation)																													
2.7 Organiser les formations pour le renforcement des activités organisationnelles et du système de gestion organisationnelle des producteurs (gestion d'organisation, accès aux fonds, etc.)																													
3. Le système de production et de distribution des semences ciblées par le Projet est aménagé																													
3.1 Organiser les formations pour la production adéquate des semences de base																													
3.2 Organiser les formations pour renforcement de capacités d'encadrement des formateurs en charge de l'encadrement technique des producteurs semenciers																													
3.3 Organiser les formations pour renforcement de capacités de production des semences améliorées des producteurs semenciers																													
3.4 Mettre en place un système de production et de distribution des semences ciblées par le Projet (suivi, encadrement, etc.)																													
4. Les capacités de marketing des acteurs de la filière sésame sont renforcées																													
4.1 Renforcer les capacités de marketing auprès du marché international (étude des besoins des marchés, promotion de la participation aux foires internationales, examen des méthodes de prévision des productions, etc.)																													
4.2 Organiser les formations sur le contrôle de qualité basé sur les besoins des marchés (traitement d'impuretés, gestion de l'utilisation de pesticides, renforcement du système de contrôle, traçabilité, etc.)																													
4.3 Renforcer les organisations de la filière sésame, de manière à renforcer l'interprofession de la filière sésame																													
4.4 Promouvoir le partage d'informations sur la production, la commercialisation et les marchés																													
5. Autres																													
Evaluation conjointe à mi-parcours																													
Evaluation conjointe finale																													
Projet du rapport final																													
Comité d'appui au Projet																													

Annexe 4-1

1. Experts nommés par la JICA

No	Nom de l'expert	Domaine d'expertise	Durée de la mission		Jours
			De	à	
1	Mr. TSUKII Yoshihumi	Conseiller en chef de projet / Conseiller technique de Minister Agriculture	1-oct.-2014	30-juin-2015	273
2	Mr. KIKUTA Masayoshi	Coordinateur / Suivre	9-oct.-2015	5-avr.-2017	545
3	Dr. HIJIKATA Nowaki	Agronomy / Selectionneur	7-juin-2015	6-juin-2018	1096
4	Mr. NAKAGAKI Osamu	Conseiller en chef / renforcement de la filière sésame	23-févr.-2016	16-mars-2016	23
			21-juin-2016	5-août-2016	46
			2-sept.-2016	21-oct.-2016	50
			9-nov.-2016	23-déc.-2016	45
			22-mars-2017	21-avr.-2017	31
5	Mme. OTANI Hanako	Chef adjointe / marketing	23-févr.-2016	8-avr.-2016	46
			22-mai-2016	1-juil.-2016	41
			15-oct.-2016	5-déc.-2016	52
			27-févr.-2017	26-avr.-2017	59
6	Mr. CHUJO Jun	Vulgarisation 1 (mise en œuvre et gestion de CEP/CGEA)	5-mars-2016	12-avr.-2016	39
			21-août-2016	10-oct.-2016	51
			27-févr.-2017	26-avr.-2017	59
7	Dr. KOBAYASHI Yuzo	Vulgarisation 2 (organisation des agriculteurs)	23-févr.-2016	20-mars-2016	27
			17-avr.-2016	16-mai-2016	30
			16-juil.-2016	14-août-2016	30
			15-avr.-2017	30-avr.-2017	16
8	Mr. MATSUDA Takeshi	Vulgarisation 3 (matériels pédagogiques audio-visuels) / Coordinateur	23-févr.-2016	22-mars-2016	29
			17-mai-2016	19-juil.-2016	64
			15-oct.-2016	11-nov.-2016	28
			28-nov.-2016	25-déc.-2016	28
			6-mars-2017	24-avr.-2017	50
9	Dr. NANYA Takashi	Traitement post-récolte	23-févr.-2016	8-avr.-2016	46
			30-nov.-2016	13-déc.-2016	14
			2-avr.-2017	30-avr.-2017	29
10	Dr. KUWAHARA Masahiko	Gestion des produits phytosanitaires	23-févr.-2016	3-mars-2016	10
			21-août-2016	9-sept.-2016	20
11	Mr. SERIZAWA Kiharu	Interprète	28-févr.-2016	8-mars-2016	10

* AFJ (Année fiscale japonaise) de Avril à Mars

2. Matériels fournis par la JICA

Date d'arrivée	Description du matériel	Montant	Prix unitaire		Total		Lieu de stockage
	Article		Monnaie		Monnaie		
5-déc.-2014	Table bureau	5	FCFA	148,680	FCFA	743,400	Bureau de projet (DGPER)
5-déc.-2014	Coffre-fort	1	FCFA	202,500	FCFA	202,500	Bureau de projet (DGPER)
10-déc.-2014	Voiture	1	FCFA	28,546,750	FCFA	28,546,750	Bureau de projet (DGPER)
12-déc.-2014	Armoire	2	FCFA	83,827	FCFA	167,654	Bureau de projet (DGPER)
7-janv.-2015	Photocopieur noir et blanc	1	FCFA	2,950,000	FCFA	2,950,000	Bureau de projet (HB)
15-janv.-2015	Voiture	1	FCFA	15,830,000	FCFA	15,830,000	Atelier (Ouaga2000)
16-janv.-2015	Ordinateur portable	1	FCFA	678,500	FCFA	678,500	Atelier (Ouaga2000)
27-févr.-2015	Projecteur	2	FCFA	407,100	FCFA	814,200	Bureau de projet (DGPER)
2-mars-2015	Imprimant couleur	1	FCFA	383,500	FCFA	383,500	Atelier (Ouaga2000)
10-mars-2015	Réfrigérateur	1	FCFA	265,500	FCFA	265,500	Bureau de projet (DGPER)
12-mars-2015	Pompe de irrigation	1	FCFA	220,000	FCFA	220,000	Sites de projet (Badala)
16-mars-2015	Appareil photo	1	FCFA	277,300	FCFA	277,300	Atelier (Ouaga2000)
18-mars-2015	Appareil vidéo	1	FCFA	324,500	FCFA	324,500	Bureau de projet (DGPER)
18-mars-2015	Ordinateur portable	1	FCFA	542,800	FCFA	542,800	Atelier (Ouaga2000)
19-mars-2015	Cribleuse	2	FCFA	980,000	FCFA	1,960,000	Sites de projet (CPR et Makognadougou)
19-mars-2015	HACHE PAILLE	2	FCFA	2,250,000	FCFA	4,500,000	Sites de projet (CPR et Makognadougou)
30-mars-2015	Moto-culter	2	FCFA	3,825,000	FCFA	7,650,000	Sites de projet (CPR et Makognadougou)
25-juin-2015	Ordinateur portable	1	FCFA	460,200	FCFA	460,200	Atelier (Ouaga2000)
7-juil.-2015	GPS	1	FCFA	354,000	FCFA	354,000	Atelier (Ouaga2000)
4-févr.-2016	Petite Moto-culter	5	FCFA	562,986	FCFA	2,814,928	Sites de projet et INERA
7-mars-2016	GPS	2	FCFA	318,600	FCFA	637,200	Atelier (Ouaga2000)
11-mars-2016	Pompe de irrigation	1	FCFA	400,000	FCFA	400,000	Sites de projet (Badala)
15-mars-2016	Réfrigérateur	2	FCFA	405,000	FCFA	810,000	INERA Kamboinsine
16-mars-2016	Moto	2	FCFA	1,416,000	FCFA	2,832,000	Region de HB et BM
25-mars-2016	Ordinateur portable	1	FCFA	442,500	FCFA	442,500	Bureau de projet (DGPER)
24-mai-2016	Ordinateur portable	1	FCFA	501,500	FCFA	501,500	Bureau de projet (DGPER)
20-juin-2016	Ordinateur portable	3	FCFA	454,300	FCFA	1,362,900	2 Bureau de projet (DGPER). 1 Bureau de projet (HB)
21-juil.-2016	Ordinateur portable	2	FCFA	260,000	FCFA	520,000	Atelier (Ouaga2000)
5-sept.-2016	Photocopieur couleur	1	FCFA	2,300,000	FCFA	2,300,000	Bureau de projet (DGPER)
6-sept.-2016	pH-/EC-/TDS-/°C-mètre	2	JPY	83,500	JPY	167,000	Atelier (Ouaga2000)
6-sept.-2016	GPS	3	JPY	53,000	JPY	159,000	Bureau de projet (DGPER)
6-sept.-2016	Analyseur d'humidité infraro	1	JPY	270,000	JPY	270,000	Bureau de projet (DGPER)
6-sept.-2016	Humidimètre à grains	1	JPY	160,000	JPY	160,000	Bureau de projet (DGPER)
11-oct.-2016	Moto-culter	2	FCFA	4,237,676	FCFA	8,475,352	Sites de projet (Badala et Makognadougou)
10-mars-2017	Pompe de irrigation	2	FCFA	417,500	FCFA	835,000	Atelier (Ouaga2000)
13-mars-2017	Réfrigérateur	1	FCFA	260,000	FCFA	260,000	Atelier (Ouaga2000)
13-mars-2017	Congélation	2	FCFA	470,000	FCFA	940,000	Atelier (Ouaga2000)

Note: le prix unitaire des articles cités doit être supérieur ou égal à 50 000yen et le matériel doit être utilisable plus d'une

3. Formation

(1) Formation personnelle de l'homologue au japon

No	Nom du personnel de l'homologue		Domaine d'expertise	Intitulé de la formation	Durée de la formation		
					De	à	
1	Dr	François LOMPO	Ministre de Agriculture	Marketing et la filière sésame de Japon	27-févr.-2015	13-mars-2015	
2	Mr.	Adama KABORE	Suivi / DGESS		27-févr.-2015	13-mars-2015	
3	Mr.	Thierry POUYA	Responsable de la filière sésame / DGPER/DPEFA	Sésame cultivation et le recherche	27-févr.-2015	13-mars-2015	
4	Mr.	TRAORE Mourice	Directeur Général / DGPV		23-juil.-2015	6-août-2015	
5	Mr.	OULE Jean Marcel	Directeur Régional / DRAAH-HB		23-juil.-2015	6-août-2015	
6	Mr.	SAWADOGO Oumarou	Directeur Régional / DRAAH-BM		23-juil.-2015	6-août-2015	
7	Dr.	Amos MININGOU	Chercheur / INERA		23-juil.-2015	6-août-2015	
8	Dr.	Bertin ZAGRE	Chercheur / INERA		23-juil.-2015	6-août-2015	
9	Dr.	OUEDRAOGO MANEGUEDO Robert	Secrétaire Général / MAAH		Formation au Japon dans le cadre de projet de renforcement de la production de sésame au Burkina Faso (Distribution)	12-juin-2016	18-juin-2016
10	Dr.	OUEDRAOGO Abdelaziz	Directeur Général / DGPER			12-juin-2016	18-juin-2016
11	Mr.	DIAWARA Ali	Directeur / DPEFA / DGPER	12-juin-2016		18-juin-2016	
12	Mr.	Cyprien VELEDGA	Secrétaire Général adjoint / ANACES-B	12-juin-2016		18-juin-2016	
13	Mr.	POUYA Thierry	Responsable de la filière sésame / DGPER/DPEFA	Knowledge Co-Creation Program (Young Leaders) for African Countries (French)/Agri-Business/Agri-Eco-Tourism Course	16-juin-2016	2-juil.-2016	
14	Mr	YIGO G. Ludovic Prosper Arsène	Agent à la cellule de suivi / DGPER/CSAC/Chargé de suivi-évaluation du projet		16-juin-2016	2-juil.-2016	
15	Mr.	ZOUNGRANA Urbain	Charge du Suivi de la Campagne Agricole / DPVC / DGPV	Formation au Japon dans le cadre de projet de renforcement de la production de sésame au Burkina Faso (Culture)	11-sept.-2016	21-sept.-2016	
16	Mme.	OUEDRAOGO Ouindingoud Juliette	Chef de service de la promotion des normes et de la métrologie / DGPER		11-sept.-2016	21-sept.-2016	
17	Mr.	SANOU Kointani	Chef de Section appui conseil à la Promotion des Filières Agricoles / Service Régional de Promotion de l'Economie Rurale / DRAAH-BM		11-sept.-2016	21-sept.-2016	
18	Mr.	COULIBALY Satioulaye	Chef de Section Systeme Information sur la Sécurité Alimentaire et l'Agriculture / Service Régional des Etudes et des Statistiques Sectorielle / DRAAH-BM		11-sept.-2016	21-sept.-2016	
19	Mr.	MALO Théophile	Section de Veille et de la Promotion Economique des Filières Agricoles au Service Régional de la Promotion de l'Economie Rurale / DRAAH-HB		11-sept.-2016	21-sept.-2016	
20	Mr	RAMDE Souleymane	Section Vulgarisation Appui Conseil Agricole au Service Regional de l'Amenagement et la Production Agricole / DRAAH-HB		11-sept.-2016	21-sept.-2016	

(2) Séminaires, ateliers ou Formations tenus dans tout autre pays

No	Nom de l'homologue		Domaine d'expertise	Intitulé de la formation	Durée de la formation	
					De	à
1	Mr.	ZOUNGRANA Urbain	Charge du Suivi de la Campagne Agricole / DPVC / DGPV	Chemp l'ecole (Rwanda)	15-août-2016	21-août-2016
2	Mr.	SANOU Kointani	Chef de Section appui conseil à la Promotion des Filières Agricoles / Service Régional de Promotion de l'Economie Rurale / DRAAH-BM		15-août-2016	21-août-2016
3	Mr.	MALO Theophile	Section de Veille et de la Promotion Economique des Filières Agricoles au Service Régional de la Promotion de l'Economie Rurale / DRAAH-HB		15-août-2016	21-août-2016

Annexe 4-4

4. Mission personnelle de l'homologue

No	Nom de l'homologue		Poste / Organisme	Domaine d'Expertise	Durée de la mission	
					De	à
1	Dr.	Denis OUEDRAOGO	Directeur Général / DGPER	Coordonnateur national / Directeur de projet	28-déc.-2015	
2	Dr.	Abdelaziz OUEDRAOGO	Directeur Général / DGPER	Coordonnateur national / Directeur de projet		présent
3	Mr.	DIAWARA Ali Badara	Directeur / DGPER/DPEFA	Homologue du chef de projet sésame de la JICA	28-déc.-2015	
4	Mme.	ZANGRE Valérie	Directrice / DGPER/DPEFA	Homologue du chef de projet sésame de la JICA		présent
5	Mr.	POUYA W. Thierry	Ingenieur agronome/ Responsable de la filière sésame / DGPER/DPEFA	Homologue du volet Organisation/Formation	28-déc.-2015	présent
6	Mr.	TINGRI Issaka	Economiste planificateur, Conseiller en études et analyses / DGPER/DDMPA	Homologue volet marché /commercialisation/marketing	28-déc.-2015	présent
7	Mme.	MOUKIAN/OUEDRAOGO O. Juliette	Chef de service de la promotion, des normes et de la métrologie / DGPER/DTAN	Homologue volet traitement post-récolte	28-déc.-2015	présent
8	Mr.	ZOUNGRANA Urbain	Technicien supérieur d'agriculture / DGPV/DVRD	Homologue du volet production de sésame /techniques culturales	28-déc.-2015	présent
9	Mme	BANISSI/NANEMA Claudine	Ingénieur en protection des végétaux / DGPV/DPVC	Homologue du volet contrôle de la qualité	28-déc.-2015	présent
10	Mr.	OUEDRAOGO Oumar	Chef de service productions / INERA	Homologue du volet semences de base	28-déc.-2015	présent
11	Mr.	BIHOUN Jean	Ingénieur de conception en vulgarisation agricole / DGPV/DVRD	Homologue du volet semences améliorées	28-déc.-2015	présent
12	Mr.	MALO Théophile	Ingénieur d'agriculture / DRAAH/HB	Homologue régional du projet	28-déc.-2015	présent
13	Mr.	SANOU Kointani	Technicien supérieur d'agriculture, Chef de Section appui conseil à la promotion des filières agricoles (SAPFA) / DRAAH/BM	Homologue régional du projet	28-déc.-2015	présent
14	Mr.	YIGO G. Ludovic Prosper Arsène	Ingénieur du développement rural/ DGPER/Service Suivi évaluation et contrôle interne	Chargé de suivi- évaluation du projet	28-déc.-2015	présent
15	Mr.	TAPSOBA Jean Fidéle	Chef de service administratif et financier / DGPER/SAF	Chargé de la mobilisation et de l'exécution de la contrepartie nationale	28-déc.-2015	
16	Mr.	OUATTARA Lassina	Chef de service administratif et financier / DGPER/SAF	Chargé de la mobilisation et de l'exécution de la contrepartie nationale		présent
17	Mme.	BAMA/NIKIEMA Alizeta	Secrétaire / DGPER/DPEFA	Secrétaire du projet	28-déc.-2015	présent
18	Mr.	ADESHOLA Ebenser	Chauffeur / DGPER	Chauffeur du projet	28-déc.-2015	présent
19	Mr.	ABOUGA W. D. R. Arnaud	Agent de liaison / DGPER	Agent de liaison du projet	28-déc.-2015	présent

* Expérience acquise en participant à des séances de formations organisées par la JICA (au Japon ou dans tout autre pays)

5. Terrain, Edifice, Bureau et matériels fournis par le Burkina Faso

Article	Lieu	Composition
AFJ 2014		
Champ experimentaux	CPR Kodougou (BM region)	system d'irrigation et pompe
Bureau de projet (DGADI)	DGADI	1 chambre, électricité
AFJ 2015		
Champ experimentaux	CPR Kodougou (BM region)	system d'irrigation et pompe
Champ experimentaux	INERA Gampela	system d'irrigation et pompe
AFJ 2016		
Champ experimentaux	CPR Kodougou (BM region)	system d'irrigation et pompe
Champ experimentaux	INERA Gampela	system d'irrigation et pompe
Champ experimentaux	INERA Farako-Ba	
Champ experimentaux	INERA Niangoloko	
Bureau de projet (BM)	DRAAH-BM	2 chambres, électricité
Bureau de projet (HB)	DRAAH-HB	1 chambre, électricité
Bureau de projet (DGPER)	DGPER	1 chambre, électricité

Annexe 5

Grille d'évaluation : Le projet de renforcement de la production de sésame

I. Réalisations du Projet

Élément d'évaluation		Indicateur / Questions d'évaluation	Données nécessaires	Source d'information	Moyens d'acquisition
Catégorie principale	Catégorie secondaire				
1. Atteinte du but global	But global Hausse des exportations de sésame	1. Exportations de graines de sésame à huile (de xx à xx tonnes)	<ul style="list-style-type: none"> - Données sur le volume d'exportation du sésame - Degré de contribution du Projet à cette augmentation 	<ul style="list-style-type: none"> - Statistiques nationales (au début et à la fin du Projet) 	<ul style="list-style-type: none"> - Étude de la documentation - Entrevue
		2. Exportations de graines de sésame de consommation (de xx à xx tonnes)			
		- Est-il nécessaire d'ajouter des indicateurs ou de modifier les indicateurs ?			
2. Atteinte des buts du Projet	Buts du Projet Amélioration du rendement à l'hectare et des revenus des producteurs de sésame cibles	1. Revenus de ménage des producteurs provenant de la culture des graines de sésame à huile (de xx FCFA/an à xx FCFA/an)	<ul style="list-style-type: none"> - Résultat de l'étude précédente réalisée par le Projet - Révision du rapport d'étude de référence (revenus issus du sésame et rendement de la production de sésame des producteurs noyaux) - Amélioration à mi-chemin du Projet 	<ul style="list-style-type: none"> - Études des producteurs (étude de référence et étude finale) 	<ul style="list-style-type: none"> - Étude de la documentation - Entrevue
		2. Revenus de ménage des producteurs provenant de la culture des graines de sésame de consommation (de xx FCFA/an à xx FCFA/an)			
		3. Productivité de la culture des graines de sésame à huile (de xx kg/ha à xx kg/ha)			
		4. Productivité, par producteur, de la culture des graines de sésame de consommation (de xx kg/ha à xx kg/ha)			
		- Est-il nécessaire d'ajouter des indicateurs ou de modifier les indicateurs ?	<ul style="list-style-type: none"> - Révision du PDM - Nécessité, pertinence et disponibilité des indicateurs 	<ul style="list-style-type: none"> - Rapport de Projet - Résultats d'entrevue 	
		- Y a-t-il des facteurs qui affectent l'atteinte des buts du Projet ?	<ul style="list-style-type: none"> - Prémisse importante : - Le prix du sésame, sur le marché international, n'affiche pas une tendance significative à la baisse. 		
3. Réalisation des Produits	Produit 1 Amélioration du rendement à l'hectare du sésame	1-1 Productivité, par producteur, de la culture des graines de sésame à huile (de xx kg/ha à xx kg/ha)	<ul style="list-style-type: none"> - Données des formations (date, nombre de participants, résultat, suivi, etc.) - Rapports de contrôle pour CEP et CGEA - Révision des données de référence du rendement à l'hectare, pour le sésame du groupe cible - Amélioration à mi-chemin du Projet 	<ul style="list-style-type: none"> - Études des producteurs (étude de référence et étude finale) 	<ul style="list-style-type: none"> - Étude de la documentation - Entrevue
		1-2 L'indicateur du nombre de bénéficiaires est en cours de détermination.			
		1-3 Nombre de formations réalisées pour la diffusion des techniques de culture (xx formations) et nombre de participants (xx personnes)		<ul style="list-style-type: none"> - Rapport de Projet 	
		1-4 Nombre de formations fournies pour renforcer les activités organisationnelles et le système de gestion pour les producteurs (xx formations), et nombre de participants (xx personnes)			
		- Est-il nécessaire d'ajouter des indicateurs ou de modifier les indicateurs ?	<ul style="list-style-type: none"> - Révision du PDM - Nécessité, pertinence et disponibilité des indicateurs (liens de causalité entre les objectifs du Projet et le Produit 1) 	<ul style="list-style-type: none"> - Rapport de Projet - Résultats d'entrevue 	
		- Y a-t-il des facteurs qui affectent la réalisation du Produit 1 (amélioration du rendement du sésame) ?	<ul style="list-style-type: none"> - Prémisse importante : - La production n'est pas affectée par une très mauvaise récolte causée par le mauvais temps, etc. 		

Annexe 5

Élément d'évaluation		Indicateur / Questions d'évaluation	Données nécessaires	Source d'information	Moyens d'acquisition	
Catégorie principale	Catégorie secondaire					
	Produit 2 Introduire un système de production du sésame	2-1 Sélection de variétés bien adaptées pour leur introduction.	<ul style="list-style-type: none"> - Progression de la sélection des variétés, et approbation de la feuille de données pour les nouvelles variétés. - Données des formations (date, nombre de participants, résultat, suivi, etc.) 	- Rapport de Projet	<ul style="list-style-type: none"> - Étude de la documentation - Entrevue 	
		2-2 Approbation des nouvelles variétés par l'INERA.		- Certificat d'enregistrement des nouvelles variétés de sésame émis par l'INERA		
		2-3 L'indicateur du nombre de bénéficiaires est en cours de détermination.		- Études des producteurs (étude de référence et étude finale)		
		2-4 Nombre de formations réalisées pour la diffusion des techniques de culture (xx formations) et nombre de participants (xx personnes)		- Rapport de Projet		
		2-5 Nombre de formations fournies pour renforcer les activités organisationnelles et le système de gestion pour les producteurs (xx formations), et nombre de participants (xx personnes)				
		- Est-il nécessaire d'ajouter des indicateurs ou de modifier les indicateurs ?		<ul style="list-style-type: none"> - Révision du PDM - Nécessité, pertinence et disponibilité des indicateurs 		- Rapport de Projet
		- Y a-t-il des facteurs qui affectent la réalisation du Produit 2 (Introduction d'un système de production du sésame) ?		<ul style="list-style-type: none"> - Prémisse importante : Les ressources humaines responsables du transfert de technologie, dont les participants à la formation, continuent de s'impliquer dans le Projet. 		- Résultats d'entrevue
	Produit 3 Promouvoir le système de production et distribution des graines de sésame sélectionnées par le projet.	3-1 Volume de production des graines de sésame à huile sélectionnées (xx kg → xx kg).	<ul style="list-style-type: none"> - Rapports de contrôle et d'étude concernant la production de graines 	- Études des producteurs de graines de sésame (étude de référence et étude finale)	<ul style="list-style-type: none"> - Étude de la documentation - Entrevue 	
		3-2 Taux de mélange des couleurs de grain dans les graines de sésame de consommation (de xx % à xx %).				
		3-3 Volume de graines d'origine pour les graines de sésame de consommation sélectionnées (xx kg/an).		- Rapport de l'INERA		
		3-4 Nombre de producteurs de graines de sésame de consommation (xx exploitations).		- Rapport de Projet		
		3-5 Aire totale consacrée à la production de graines de sésame de consommation (xx ha).				
		- Est-il nécessaire d'ajouter des indicateurs ou de modifier les indicateurs ?		<ul style="list-style-type: none"> - Révision du PDM - Nécessité, pertinence et disponibilité des indicateurs 		- Rapport de Projet
- Y a-t-il des facteurs qui affectent la réalisation du Produit 3 (promotion du système de production et distribution des graines de sésame) ?		<ul style="list-style-type: none"> - Prémisse importante : Les ressources humaines responsables du transfert de technologie, dont les participants à la formation, continuent de s'impliquer dans le Projet. 		- Résultats d'entrevue		
Produit 4 Renforcer la capacité de marketing des parties prenantes du secteur du sésame	4-1 Établir une structure permettant de comprendre les tendances du marché international du sésame.	<ul style="list-style-type: none"> - Nombre d'échanges entre les parties prenantes - Données des formations (date, nombre de participants, résultat, suivi, etc.) - Activités de relations publiques et de sensibilisation 	- Rapport de Projet	<ul style="list-style-type: none"> - Étude de la documentation - Entrevue 		
	4-2 Nombre de formations réalisées sur le contrôle de la qualité (xx formations)					
	4-3 Un indicateur du renforcement de					

Annexe 5

Élément d'évaluation		Indicateur / Questions d'évaluation	Données nécessaires	Source d'information	Moyens d'acquisition		
Catégorie principale	Catégorie secondaire						
		l'interprofession du sésame est en cours de détermination.					
		4-4 Le nombre d'émissions des informations sur le sésame (xx fois).					
		- Est-il nécessaire d'ajouter des indicateurs ou de modifier les indicateurs ?				- Révision du PDM - Nécessité, pertinence et disponibilité des indicateurs	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue
		- Y a-t-il des facteurs qui affectent la réalisation du Produit 4 (renforcement de la capacité de marketing des parties prenantes) ?				- Prémisse importante : Les ressources humaines responsables du transfert de technologie, dont les participants à la formation, continuent de s'impliquer dans le Projet.	
4. Intrants	1) Spécialistes japonais Spécialiste affecté à long terme et Spécialiste affecté à court terme	Les intrants de la partie japonaise (spécialistes, équipements, formation et budget) ont-ils été mis en œuvre tel que planifié ?	Quantité, qualité et étalement dans le temps des intrants	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue		
	2) Formation des homologues Formation du personnel homologue au Japon et dans d'autres pays						
	3) Équipements						
	4) Coût local des activités Projet						
	1) Affectation du personnel homologue	Les intrants de la partie burkinabè (homologues, espace de bureau / commodités, budget) ont-ils été mis en œuvre tel que planifié ?	Quantité, qualité et étalement dans le temps des intrants	- Rapport de Projet - Rapport de la DGPER - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue		
	2) Fourniture du bureau du Projet et des commodités nécessaires à la mise en œuvre du Projet.						
	3) Autres coûts						

Annexe 5

II. Processus de mise en œuvre du Projet

Élément d'évaluation		Questions d'évaluation	Données nécessaires	Source d'information	Moyens d'acquisition
Catégorie principale	Catégorie secondaire				
1. Mise en œuvre des activités planifiées	Activités du Produit 1	1-1 Vérifier la nature des variétés de graines de sésame à huile	<ul style="list-style-type: none"> - Données des intrants et activités - Progression des activités - Interrelations entre les activités 	<ul style="list-style-type: none"> - Rapport de Projet - Entrevues avec les spécialistes de la JICA et la partie burkinabè 	<ul style="list-style-type: none"> - Étude de la documentation - Entrevue
		1-2 Effectuer divers essais pour améliorer le rendement des graines de sésame à huile (moment des semis, fertilisation, etc.)			
		1-3 Organiser et suivre la formation pour diffuser les techniques adéquates de production des graines de sésame à huile			
		1-4 Étudier et proposer une façon de gérer les organisations et d'améliorer la gestion agricole pour hausser la productivité des graines de sésame à huile et pour hausser la génération de revenus pour les producteurs ordinaires (agriculture contractuelle, renforcement organisationnel, etc.)			
		1-5 Organiser la formation pour le renforcement des activités organisationnelles des producteurs et du système de gestion (gestion organisationnelle, accès aux fonds, etc.)			
	Activités du Produit 2	2-1 Étude de la nature des variétés sélectionnées de sésame			
		2-2 Vérifier l'adéquation des graines de sésame à huile et leur aptitude culturale, et identifier la variété à diffuser			
		2-3 Réaliser des essais de culture des graines de sésame à huile pour établir des techniques de culture			
		2-4 Procéder à l'enregistrement officiel des nouvelles variétés de graines de sésame de consommation			
		2-5 Organiser et suivre la formation pour diffuser les techniques adéquates de production des graines de sésame de consommation			
		2-6 Étudier et proposer une façon de gérer les organisations et d'améliorer la gestion agricole pour hausser la productivité des graines de sésame de consommation et pour hausser la génération de revenus pour les producteurs ordinaires (agriculture contractuelle, renforcement organisationnel, etc.)			
		2-7 Organiser la formation pour le renforcement des activités organisationnelles des producteurs et du système de gestion (gestion organisationnelle, accès aux fonds, etc.)			
	Activités du Produit 3	3-1 Organiser la formation sur la production adéquate des semences de base			
		3-2 Organiser la formation pour le renforcement des capacités des formateurs chargés de la supervision technique des producteurs de semences			
		3-3 Organiser la formation pour le renforcement de la capacité de production de semences améliorées par les producteurs de semences			
		3-4 Établir un système de production et distribution des semences ciblées par le Projet (contrôle, supervision, etc.)			
	Activités du Produit 4	4-1 Renforcer la capacité de marketing pour les marchés internationaux (étude des besoins du marché, promotion de la participation aux foires internationales, revue des méthodes d'estimation de la production, etc.)			
		4-2 Organiser la formation pour le contrôle de la qualité basé sur les besoins du marché (traitement des impuretés, gestion de l'usage des			

Annexe 5

Élément d'évaluation		Questions d'évaluation	Données nécessaires	Source d'information	Moyens d'acquisition
Catégorie principale	Catégorie secondaire				
		pesticides, renforcement du système de contrôle, traçabilité, etc.)			
		4-3 Renforcer les organisations de la chaîne de valeurs du sésame, et renforcer l'organisation interprofessionnelle de l'industrie du sésame			
		4-4 Promouvoir le partage de l'information sur la production, la distribution et les marchés			
2. Transfert de technologie	Méthode de transfert de technologie	- Y a-t-il des problèmes au sujet du transfert de technologie ?	- Résultat des activités Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevues
3. Modification des activités	Ajout et suppression d'activités	- Validité de la modification d'activité	- Activité ajoutée / Activité supprimée	- Rapport de Projet	- Étude de la documentation
4. Relations avec les parties prenantes	Relations au sein de l'équipe du Projet, et entre celle-ci et les parties prenantes	- Y a-t-il des réunions ordinaires et/ou des réunions du Comité mixte de coordination à intervalles réguliers, pour régler les problèmes ?	- Procès-verbaux du Comité mixte de coordination - Opinion des parties prenantes	- Procès-verbaux du Comité mixte de coordination - Résultat d'entrevue	- Entrevues
		- L'équipe du Projet et l'homologue ont-ils suffisamment communiqué entre eux pour partager l'information ?	- Communication entre les parties prenantes - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Entrevues
		- Le système de chaîne de commandement et de division des rôles a-t-il été établi ?	- Confirmer la chaîne de commandement et la division des rôles - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Entrevues
5. Appropriation	Appropriation par les organisations homologues	- Les homologues ont-ils participé activement aux activités du Projet ?	- Participation des homologues burkinabè - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
		- Le gouvernement du Burkina Faso a-t-il alloué un budget suffisant aux activités du Projet ?	- Allocation budgétaire	- Rapport de la DGPER / du MAAT	- Étude de la documentation
6. Contrôle et évaluation	Résultat du contrôle et de l'évaluation, réalisation du Projet	- Y a-t-il un système de contrôle et retour d'expérience ?	- Système de contrôle et retour d'expérience	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
7. Relations avec les autres bailleurs de fonds	Relations entre les autres bailleurs de fonds	- Y a-t-il collaboration avec d'autres bailleurs de fonds ?	- Description de la collaboration avec les autres bailleurs de fonds - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
8. Facteurs favorables et facteurs défavorables	Facteurs affectant le Processus de mise en œuvre	- Y a-t-il des facteurs qui affectent la mise en œuvre du Projet ? (structure de mise en œuvre, politiques, environnement social, etc.)	- Facteurs favorables	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
			- Facteurs défavorables		

Annexe 5

III. Cinq critères d'évaluation

Éléments d'évaluation		Éléments d'évaluation	Questions d'évaluation	Données nécessaires	Source d'information	Moyens d'acquisition
	Catégorie					
Pertinence	1. Priorités dans les politiques nationales pertinentes du Burkina Faso	Cohérence avec les politiques et la stratégie du Burkina Faso	- Cohérence avec les politiques et plans ci-dessous : - SCADD, PNDES, PNSR, etc.	- Plan de développement - Documents connexes	- Rapport de Projet - Documents connexes	- Étude de la documentation
	2. Nécessité	Besoins de la zone cible et des bénéficiaires	- Besoins des homologues et des bénéficiaires.	- Besoins du groupe cible - Niveau de satisfaction des bénéficiaires - Opinion des parties prenantes - Nombre de producteurs ayant participé aux activités du Projet	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	3. Pertinence du plan du Projet	Pertinence du plan du Projet	- Le plan du Projet est-il approprié ?	- Réalisation des Produits - Progression de l'activité - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
		Facteur affectant la pertinence (le cas échéant)	- Y a-t-il des facteurs qui affectent la pertinence du plan du Projet ?	- Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	4. Bien-fondé des approches du Projet	Bien-fondé de la sélection des groupes cibles	- La sélection des producteurs noyaux est-elle appropriée ?	- Progression de l'activité	- Rapport de Projet	- Étude de la documentation
		Bien-fondé de la sélection des homologues	- Le nombre et les capacités des homologues sont-ils appropriés ? - Ont-ils une expérience et des capacités suffisantes pour les activités du Projet ?	- Réalisation des Produits - Progression de l'activité - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
		Bien-fondé de la sélection des bénéficiaires	- La sélection des bénéficiaires et des sites pilotes est-elle appropriée ?	- Réalisation des Produits - Progression de l'activité	- Rapport de Projet	- Étude de la documentation
		Supériorité de la technologie japonaise	- Exemples d'usage de technologie japonaise supérieure.	- Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	5. Conformité aux politiques d'APD du gouvernement du Japon	Cohérence avec les priorités de l'APD japonaise	- Politique de l'APD japonaise pour le Burkina Faso, et Programme d'assistance par pays pour la République du Burkina Faso	- Politique d'aide du Japon	- Politique d'aide du Japon	- Étude de la documentation
	Efficacité	1. Atteinte des objectifs du Projet	Atteinte des objectifs du Projet	- Probabilité d'atteinte des objectifs du Projet selon l'état des indicateurs objectivement vérifiables - Contraintes à l'atteinte des objectifs du Projet, le cas échéant	- Comparaison entre le plan et la réalisation - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue
Contribution des Produits à l'atteinte des objectifs du Projet			- Contribution de Produits basée sur l'atteinte des indicateurs vérifiables de réalisation des objectifs du Projet	- Comparaison entre le plan et la réalisation	- Rapport de Projet	- Étude de la documentation
2. Liens de causalité « entre les Produits et les objectifs du Projet »		Conditions externes affectant l'atteinte des objectifs du Projet	- Les conditions externes sont-elles remplies ?	- Le prix du sésame, sur le marché international, n'affiche pas une tendance significative à la baisse.	- Rapport de Projet	- Étude de la documentation - Entrevue
		- Autres conditions externes	- Opinion des parties prenantes	- Résultats d'entrevue	- Entrevue	

Annexe 5

Éléments d'évaluation		Éléments d'évaluation	Questions d'évaluation	Données nécessaires	Source d'information	Moyens d'acquisition
Catégorie						
Efficience	1. Progression des intrants	État de progression des intrants	- Partie japonaise : envoi de spécialistes, fourniture d'équipements, formation au Japon, coût local	- Intrant du Projet - Progression de l'activité	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
			- Partie burkinabè : affectation d'homologues, coût du Projet	- Intrant du Projet - Progression de l'activité	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
		Bien-fondé des intrants	- Bien-fondé du champ d'expertise des spécialistes, niveau de satisfaction des participants aux formations, utilisation des résultats du Projet	- Progression de l'activité - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	2. Réalisation du Produit	Réalisation du Produit	- État de réalisation du Produit	- Réalisation du Produit - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	3. Liens de causalité entre les intrants et les Produits des activités	Bien-fondé des intrants pour réaliser les Produits	- Surplus et déficience des ressources humaines et autres ressources du Projet	- Comparaison entre le plan et la réalisation	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
		Des facteurs externes ont-ils eu des effets sur le Projet ?	- Les conditions externes sont-elles remplies ?	- La production n'est pas affectée par une très mauvaise récolte causée par le mauvais temps, etc. - Les ressources humaines responsables du transfert de technologie, dont les participants à la formation, continuent de s'impliquer dans le Projet	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
4. Coordination avec les autres projets	Collaboration avec d'autres projets de la JICA et d'autres projets d'aide	- Coopération et effets de synergie avec d'autres projets de la JICA	- Autres projets de la JICA	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue	
		- Coopération et effets de synergie avec des projets réalisés par d'autres bailleurs de fonds	- GIZ, HELVETAS, etc.			
Impact	1. Probabilité d'atteinte du but global	Probabilité d'atteinte du but global	- Perspective d'atteinte du but global	- Données sur le volume d'exportation du sésame - Degré de contribution du Projet à l'amélioration	- Statistiques nationales (au début et à la fin du Projet)	- Étude de la documentation - Entrevue
		Facteurs pouvant favoriser ou nuire à la réalisation du but global	- Y a-t-il une possibilité élevée que les conditions externes soient remplies ?	- Il n'y a pas de problème de sécurité dans le pays cible et dans les pays de sa sous-région. - Opinion des parties prenantes	- Résultats d'entrevue	- Entrevue
		Facteurs nuisibles à l'atteinte du but global	- Facteurs nuisibles ou favorables à l'atteinte du but global	- Opinion des parties prenantes	- Résultats d'entrevue	- Entrevue
	2. Liens de causalité	Liens entre le but global et les objectifs du Projet	- Y a-t-il un écart significatif entre le But global et les objectifs du Projet ? - L'atteinte des objectifs du Projet contribue-t-elle à l'atteinte du But global ?	- Révision du PDM et du PO - Opinion des parties prenantes	- PDM, PO - Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	3. Retombées positives	Impact positif	- Le Projet a-t-il des impacts positifs ?	- Progression de l'activité - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue

Annexe 5

Éléments d'évaluation		Éléments d'évaluation	Questions d'évaluation	Données nécessaires	Source d'information	Moyens d'acquisition
Catégorie						
	4. Retombées : négatives	Impact négatif	- Le Projet a-t-il des impacts négatifs ?	- Progression de l'activité - Opinion des parties prenantes	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
Durabilité	1. Aspect politique	Politique à l'étape de l'après-projet	- Possibilité de poursuite de l'aide politique à l'étape de l'après-projet.	- Politique de développement du gouvernement du Burkina Faso - Appropriation par le gouvernement du Burkina Faso - Opinion des parties prenantes	- Documentation sur les politiques du gouvernement du Burkina Faso - Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	2. Aspect institutionnel	Capacité institutionnelle des homologues à poursuivre les activités à l'étape de l'après-projet.	- Structure de continuité des activités par la partie burkinabè à l'étape de l'après-projet.	- Mandat de l'homologue et autres pouvoirs publics concernés - Structure dans la période d'après-projet. - Appropriation par l'homologue et les producteurs	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	3. Aspect financier	Estimation du coût de la poursuite des activités nécessaires à l'étape de l'après-projet	- Possibilité de maintien de l'allocation budgétaire pour les activités à l'étape de l'après-projet.	- Plan budgétaire de la DGPER, de l'INERA et de la DGPV - Disponibilité d'autres sources de financement	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue
	4. Aspect technique	Capacité technique du personnel homologue à effectuer les tâches dont la poursuite est nécessaire à l'étape de l'après-projet.	- Situation de l'utilisation des techniques et résultats du Projet.	- Progression du transfert de technologie - Compétences et connaissances transférées par le Projet	- Rapport de Projet - Résultats d'entrevue	- Étude de la documentation - Entrevue

Annexe 6

Cadre Logique de Projet (PDM) (Version proposéé)

Titre: Projet de Renforcement de la Production de Sésame

Zone cible: Ouagadougou, région de la Boucle du Mouhoun et région des Hauts-Bassins

Terme du Projet: 5 ans Octobre 2014 à Septembre 2019

Résumé narratif	Indicateurs objectivement vérifiables	Moyens de vérification	Hypothèse
Objectif Global			
Accroître la productivité de sésame en zone cible	- Le rendement moyen produit par les agriculteurs dans la zone cible augmente de plus de 20%	- Statistiques nationales	La région cible n'est pas exposé à un problème de sécurité.
Objectif du Projet			
Accroître la productivité et les revenus des producteurs de sésame cible	- Plus de 70% des agriculteurs cibles augmentent leur revenu par la production de sésame - Le rendement moyen par hectare produit par les agriculteurs cibles augmente de plus de 20%	- Enquête des agriculteurs (finale) - Enquête des agriculteurs (référence et finale)	-Le prix du marché international de sésame ne connaît pas une baisse significative. -La production n'est pas affectée par une très mauvaise récolte en raison de la météo, etc.
Résultat			
1. Développer et diffuser les technologies et connaissances appropriées	- Les modules et les matériaux pour la formation (sur les FFS/FBS, Renforcement des capacités des groupements de producteurs) des producteurs noyaux sont formulés - Plus de 180 producteurs noyaux ont participé à des formations - Plus de 90% des producteurs ayant participé aux FFS/FBS ont adopté plus d'une composante technique.	- Rapport du projet - Rapport du projet - Enquête des agriculteurs (finale) etc.	Les ressources humaines responsables de la transmission technique, autant que les participants à la formation et autres, continuent d'être impliquées dans le projet.
2. Sélection d'une nouvelle variété de sésame	- Plus d'une nouvelle variété est sélectionnée pour l'enregistrement des graines - Des recommandations techniques pour la sélection des variétés et des producteurs de semences de base sont faites.	- Rapport du projet - Rapport du projet	
3. Augmenter le nombre de producteurs de semences certifiés et de production certifiée	- Les modules et les matériaux pour la formation (sur la production de semences) des producteurs noyau sont formulés - Plus de 180 producteurs noyau ont participé à des formations. - Au moins un producteur de semences est enregistré dans plus de la moitié du groupe cible. - Plus de XX ha de production certifiée de semences par année en moyenne par les producteurs cibles de semences est déclaré	- Rapport du projet - Rapport de projet - Rapport de projet - Rapport de projet	
4. Renforcer la capacité de commercialisation/marketing des parties prenantes dans la filière sésame	- Le matériel de formation sur le contrôle de la qualité du sésame est développé - Plus de XX formation/session/atelier aux acteurs de la filière sésame sur le contrôle de la qualité ont été mené. - Plus d'un membre ANACES-B a un contrat direct avec un importateur japonais.	- Rapport de projet - Rapport de projet - Rapport de projet	

Activités	Intrants	Hypothèse
<p>0 Mener une enquête de référence (revenu des ménages des agriculteurs, état et problèmes de la production, del a chaîne de valeur, etc.).</p> <p>1-1 Vérifier le caractère des variétés de graines de sésame;</p> <p>1-2 Mener plusieurs tests pour améliorer le rendement en semences de sésame (temps de semis, fertilisation, etc.);</p> <p>1-3 Organiser et surveiller la formation pour diffuser la technique appropriée de production</p> <p>1-4 Étudier et proposer comment gérer les organisations et améliorer la gestion des exploitations pour accroître la productivité des semences de sésame et améliorer les revenus des producteurs ordinaires (agriculture contractuelle, renforcement des organisations, etc.);</p> <p>2-1 Étudier le caractère de certaines variétés de sésame;</p> <p>2-2 Vérifier l'adéquation de la semence de sésame et l'aptitude à le cultiver ; et identifier la variété pour l'extension;</p> <p>2-3 Effectuer des tests de culture pour les semences de sésame afin d'établir les techniques de culture;</p> <p>2-4 Préparer pour l'enregistrement officiel de nouvelles variétés de semences de sésame;</p> <p>3-1 Renforcer la capacité des chercheurs et des techniciens en matière de bonne production des semences de base;</p> <p>3-2 Renforcer la capacité des formateurs chargés de la supervision technique des producteurs de semences;</p> <p>3-3 Organiser une formation pour renforcer la capacité des producteurs de semences pour produire des semences améliorées;</p> <p>3-4 Surveiller la production et la commercialisation des semences certifiées produites par les producteurs noyau</p> <p>4-1 Renforcer la capacité de commercialisation sur les marchés internationaux (enquête sur les besoins du marché, promotion de la participation aux foires internationales, revue des méthodes d'estimation de la production, etc.);</p> <p>4-2 Organiser une formation pour le contrôle de la qualité en fonction des besoins du marché (traitement des impuretés, gestion de l'utilisation des pesticides, renforcement du système de contrôle, traçabilité, etc.);</p> <p>4-3 Promouvoir l'échange d'information sur la production, la distribution et les marchés</p>	<p>«Côté Burkinabe »</p> <ul style="list-style-type: none"> - Personnel de la contrepartie - Bureau de projet et équipement nécessaire - Facilitations pour l'envoi des experts, l'exonération fiscale, etc. - Budget de la contrepartie 	
	<p>«Côté Japonais»</p> <p>Experts :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Expert «Conseiller en chef» - Expert «Techniques de culture» - Expert «Gestion/ Organisation agricole» - Expert «Contrôle qualité / après récolte» - Expert «Marché / Commercialisation» - Expert «Coordinateur / Formation» <p>-Formation Machines et équipements</p>	<p>Pré-condition</p>

※ Le producteur cible signifie à la fois les producteurs noyaux et les producteurs ordinaires dans la zone cible

Annexe 7

Liste des personnes interviewees

Date	Name	Position
2017/6/5	Mr. NIKIEMA Seni	Directeur / DGPER/DPEFA
	Mr. BIHOUN Jean	Ingénieur de conception en vulgarisation agricole / DGPV/DVRD
	Ms. BANISSI/NANEMA Claudine	Ingénieur en protection des végétaux / DGPV/DPVC
2017/6/6	Mr. TINGRI Issaka	Economiste planificateur, Conseiller en études et analyses / DGPER/DDMPA
	Ms. MOUKIAN/OUEDRAOGO O. Juliette	Chef de service de la promotion, des normes et de la métrologie / DGPER/DTAN
	Mr. YIGO G. Ludovic Prosper Arsène	Ingénieur du développement rural/ DGPER/Service Suivi évaluation et contrôle interne
	Mr. OUATTARA Lassina	Chef de service administratif et financie / DGPER/SAF
	Dr. OUEDRAOGO Oumar	Chef de service productions / INERA
	Dr. MININGOU Amos	Chargé de Recherche / INERA
	Mr. ZOUNGRANA Urbain	Technicien supérieur d'agriculture / DGPV/DVRD
2017/6/7	Mr. HIEN Sitegne	Directeur Régional des Hauts Bassins
	Mr. SANON Marius	Directeur Provincial du Houet
	Mr. MALO Théophile	Ingénieur d'agriculture / DRAAH-Haut Bassins
2017/6/8	Mr. NAON Yacouba	Agriculteur noyau / Binkadi
	Mr. BANAO Bédémé	Agriculteur noyau / Binkadi
	Mr. RAMDE Souleymane	SRAPA (Service Regional de l' Amenagement et la Production Agricole) /Section Vulgarisation Appui Conseil Agricole, DRAAH-Haut Bassins
	Ms. DA/SANKARA Martine	SRAPA (Service Regional de l' Amenagement et la Production Agricole) /Section Vulgarisation Appui Conseil Agricole, DRAAH-Haut Bassins
	Ms. ZAMTAKO/HIEN A. Noellie	DRAAH-Haut Bassins
	Ms. TRAORE Memouna	SNS (Service national de semences) / DRAAH-Haut Bassins
	Mr. SAWADOGO Souleymane	ZAT / DPAAH-Houet
2017/6/9	Mr. OUEDRAOGO Marcel	Agriculteur
2017/6/13	Mr. SAWADOGO Oumarou	Directeur Régional de la Boucle du Mouhoun
	Mr. KONE Bakassa	Directeur Provincial du Mouhoun
	Mr. SANOU Kointani	Technicien supérieur d'agriculture, Chef de Section appui conseil à la promotion des filières agricoles (SAPFA) / DRAAH/BM
	Mr. COULIBALY Saïfoulaye	Chef de Section Système Information sur la Sécurité Alimentaire et l' Agriculture, Servise Régional des Etudes et des Statistiques Sectorielle, DRAAH-Boucle du Mouhoun
	Mr. SERE Alassane	Chef de section phytosanitaire / DRAAH-Boucle du Mouhoun
	Mr. PARE Martin Pierre	SNS (Service national de semences) / DRAAH-Boucle du Mouhoun
2017/6/14	Mr. SAMA Herassi	Agriculteur noyau / Wiloho (Passakongo village)
	Mr. TIBIRI Ernest	Agriculteur noyau / Wiloho (Passakongo village)
	Mr. KAM Simon	Agriculteur

2. 調査日程

日付		評価分析	農業管理
2017/6/5	月	8:00 JICA ブルキナファソ事務所 10:30 NIKIEMA 氏 (DPEFA 所長) との面談 11:00 POUYA 氏 (フォーカルポイント、DGPER / DPEFA) との面談 13:00 JICA 専門家との面談 16:30 BIHOUN 氏 (DGPV)、BANISSI 氏 (DGPV) との面談	
2017/6/6	火	8:00 JICA 専門家との面談 9:00 YIGO 氏、OUATTARA 氏、TINGRI 氏、MOUKIAN 氏 (DGPER) との面談 11:00 クドゥグに移動 15:00 OUEDRAOGO 氏、MININGOU 氏 (INERA) との面談 16:20 ZOUNGRANA 氏 (フォーカルポイント、DGPV / DVRD) との面談	
2017/6/7	水	7:30 ボボ・デュラツツへ移動 14:00 HIEN 氏 (DR, Hauts-Bassins 州)、SANON 氏 (DP, Houet 県) 15:00 MALO 氏 (HB 州フォーカルポイント) との面談	
2017/6/8	木	7:00 K.Vigue に移動 9:00 Benkadi グループ (K.Vigué) (中核農家、一般農家) からのヒアリング 14:00 TRAORE 氏 (種子生産検査官)、SAWADOGO 氏 (種子生産研修講師、ZAT)、ZAMTAKO 氏 (FFS / 農業管理研修講師) との面談 15:00 RAMDE 氏、DA 氏 (FFS/FBS 研修講師) との面談	
2017/6/9	金	8:00 マコグニャグドゥに移動 9:00 サイト訪問 (MARCEL 氏 圃場) 10:30 ワガドゥグに移動	
2017/6/10	土	合同レビュー報告書英語版ドラフト	
2017/6/11	日	合同レビュー報告書英語版ドラフト	合同レビュー報告書英語版ドラフト
2017/6/12	月	9:30 団内協議 10:30 JICA 専門家との協議 14:00 農業省次官への表敬訪問 / 中間レビューの説明 15:30 JICA ブルキナファソ事務所との会議	9:30 団内協議 10:30 JICA 専門家との協議 PM : 14 : 00 卸売業者グループとの面談 / ETS KOUDA N.Hamodou (Sankariaré)、ETS ZOUNGRANA (Sankariaré)、Grou p VELEGDA (Kossodo)、EBT at Cissi
2017/6/13	火	8:00 デドゥグに移動 13:30 SAWADOGO 氏 (DR, Boucle du Mouhoun 州)、KONE 氏 (DP, Mouhoun 県) 表敬訪問 14:00 SANOU 氏 (BM のフォーカルポイント) との面談 15:30 COULIBALY 氏 (農業士官、研修講師) との面談	9:00 COUDIATI 氏 (UNAPEOSEB 会長) との面談 15:00 BURKINA SEED との面談
2017/6/14	水	8:00 バサコンゴへ移動 9:30 中核農家、一般農家、UAT からのヒアリング 11:30 KUM 氏の圃場 (デドゥグー) に移動 12:00 サイト訪問 (カム氏 圃場) 14:00 ワガドゥグに移動	9:00 SOME 氏 (植物保護サービス) との面談、植物検疫所の視察 11:30 DIALLO 氏 (APEX) との面談 15:30 VELEGDA 氏 (ANACES-B) との面談、倉庫の視察、ANASES-B メンバーとの面談
2017/6/15	木	合同評価団内協議	9:00 LNSP の会議と観測 PM: プレゼンテーションの準備 / レビューチームの内部ディスカッション
2017/6/16	金	JICA 専門家との協議 報告書作成 (Joint Review Report 英語版ドラフト)	10 : 00 : 農業管理セミナー (瀧本氏)、於 DGPER 会議室 PM : DGPER との協議
2017/6/17	土	合同レビュー報告書英語版最終化、仏文への翻訳	22:35 ワガドゥグ発 (AF535)
2017/6/18	日	合同レビュー報告書英語版最終化、仏文への翻訳	
2017/6/19	月	中間レビュー調査結果、提言の説明	
2017/6/20	火	合同中間レビュー報告書 (仏文) への署名	
2017/6/21	水	13:00 JICA 事務所への報告 15:00 日本大使館への報告・ドキュメンテーション 22:35 ワガドゥグ発 (AF535)	

3. 主要面談者リスト

(1) ブルキナファソ側関係者

氏名	所属 / 役職
Mr. MAIGA Moussa	MAAH 次官
Dr. Abdelaziz OUEDRAOGO	DGPER 総局長
Mr. NIKIEMA Seni	DGPER/DPEFA 局長代理
Mr. POUYA W. Thierry	DGPER/DPEFA 農業エンジニア / ゴマフィリエール担当
Mr. BIHOUN Jean	DGPV/DVRD 農業普及企画エンジニア
Ms. BANISSI/NANEMA Claudine	DGPV/DPVC 植防エンジニア
Mr. TINGRI Issaka	DGPER/DDMPA 経済プランナー、調査分析アドバイザー
Ms. MOUKIAN/OUEDRAOGO O. Juliette	DGPER/DTAN 振興・規格・計量室室長
Mr. YIGO G. Ludovic Prosper Arsène	DGPER 農村開発エンジニア
Mr. OUATTARA Lassina	DGPER/DAF 総務・経理室室長
Dr. OUEDRAOGO Oumar	INERA 生産室室長
Dr. MININGOU Amos	INERA 研究員
Mr. ZOUNGRANA Urbain	DGPV/DVRD 上級農業技術者
Mr. HIEN Sitegne	Hauts-Bassins 州局長
Mr. SANON Marius	Houet 県局長
Mr. MALO Théophile	DRAAH 農業エンジニア / HB 州フォーカルポイント
Mr. NAON Yacouba	Houet 県 中核農家
Mr. BANAO Bédémé	Houet 県 中核農家
Mr. RAMDE Souleymane	FFS/FBS 研修講師
Ms. DA/SANKARA Martine	FFS/FBS 研修講師
Ms. ZAMTAKO/HIEN A. Noellie	FFS 研修講師 (農薬部門)
Ms. TRAORE Memouna	種子検査官
Mr. SAWADOGO Souleymane	種子生産研修講師
Mr. OUEDRAOGO Marcel	協力農家
Mr. SAWADOGO Oumarou	BM 州局長
Mr. KONE Bakassa	Mouhoun 県局長
Mr. SANOU Kointani	BM 州フォーカルポイント
Mr. COULIBALY Saïfoulaye	FFS/FBS 研修講師
Mr. SAMA Herassi	中核農家
Mr. TIBIRI Ernest	中核農家
Mr. KAM Simon	協力農家
Mr. TORO Ynoussa	head of UAT デイドゥグ

(2) 日本人専門家

氏名	担当分野
大谷 華子	副総括 / 流通
中條 淳	普及 1 (FFS/FBS 実施・運営)
松田 健志	普及 3 (視聴覚教材) / 業務調整
土方 野分	営農 / 栽培

(3) 日本大使館

氏名	担当分野
池崎 保	特命全権大使
松原 英夫	公使参事官
出口 彩央里	開発協力・政務担当・三等書記官

(4) JICA ブルキナファソ事務所

氏名	担当分野
小林 丈通	ブルキナファソ事務所所長
笹部 佳江	所員
星野 紀子	所員
Dr. SOME/TIODJIO Edwige	ナショナルスタッフ

4 PDM version 0

Title: The Project for Reinforcement of Sesame Production

Target area: A spread in the surrounding areas around the two poles (Ouagadougou, Bobo-Dioulasso)

Project Duration: Approximately 5 years from 2014

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
Increase sesame export	<ul style="list-style-type: none"> - Exports of crashing sesame seed (xx to xx tons) - Exports of edible sesame seed (xx to xx tons) 	<ul style="list-style-type: none"> - National Statistics (Start and End of the Project) 	The target and sub-region countries are not exposed to security problem.
Project Purpose			
Improve the productivity and income of target sesame farmers	<ul style="list-style-type: none"> - Household income per farmer by cultivation of the crashing sesame seed. (xx FCFA/year to xx FCFA/year) - Household income per farmer by cultivation of the edible sesame seed. (xx FCFA/year to xx FCFA/year) - Productivity by cultivation of the crashing sesame seed. (xx kg/ha to xx kg/ha) - Productivity per farmer by cultivation of the edible sesame seed. (xx kg/ha to xx kg/ha) 	<ul style="list-style-type: none"> - Farmer survey (Baseline and Final) - Ditto - Ditto - Ditto 	The price of sesame international market does not mark a significant downtrend.
Output			
1. Improve the productivity of crashing sesame seed	<ul style="list-style-type: none"> - Productivity per farmer by cultivation of the crashing sesame seed. (xx kg/ha to xx kg/ha) - Indicator on the number of beneficiaries is under consideration. - Number of trainings conducted for extension of cultivation techniques (xx formations) and the number of participants (xx pers.). - Number of training provided to strengthen organizational activities and management system for producers (xx formations) and the number of participants (xx pers.). 	<ul style="list-style-type: none"> - Farmer survey (Baseline and Final) - Ditto - Project Report - Ditto 	<p>Production is not affected by a very poor harvest due to weather, etc</p> <p>Human resources responsible for the technical transmission, as participants in training and others, continue to be involved in the project.</p>
2. Introduce and construct production system of edible sesame seed.	<ul style="list-style-type: none"> - Selection of varieties adapted to the introduction. - Approval of new varieties by INERA. - Indicator on the number of beneficiaries is under consideration. - Number of trainings conducted for extension of cultivation techniques (xx formations) and the number of participants (xx pers.). - Number of training provided to strengthen organizational activities and management system for producers (xx formations) and the number of participants (xx pers.). 	<ul style="list-style-type: none"> - Project Report - Certificate of registration of new varieties of sesame issued by INERA - Farmer survey (Baseline and Final) - Project Report - Ditto 	
3. Develop the system for production and distribution of sesame seeds selected by the project.	<ul style="list-style-type: none"> - Volume of seed production of selected crashing sesame seed (xx kg →xx kg). - Mixing ratio of the grain of a different color in the seeds of edible sesame seed (xx % to xx %). - Volume of original seed of selected edible sesame seed (xx kg / year). - Number of farmers to produce seed of edible sesame seed (xx farms).. - Total area devoted to seed production of edible sesame seed (xx ha). 	<ul style="list-style-type: none"> - Survey of sesame seed producers (Baseline and Final) - Ditto - Report of INERA - Project Report (chronological evolution) - Ditto 	
4. Reinforce the marketing capacity of stakeholders in the sesame sector.	<ul style="list-style-type: none"> - Build a structure to understand the international market trend of sesame. - Number of training conducted on the quality control (xx formations). - Indicator related to the strengthening of the sesame inter-profession is under consideration. - The number of emissions of sesame information (xx times). 	<ul style="list-style-type: none"> - Project Report - Ditto - Ditto - Ditto 	

4 PDM version 0

Activities	Inputs	Important Assumption
<p>(0) Implement a base line survey (household economies of farmers, situation and problems of production and value chain, etc.).</p> <p>1-1 Verify the character of varieties of crashing sesame seed;</p> <p>1-2 Make various tests to improve the yield of crashing sesame seed (seeding time, fertilization, etc.);</p> <p>1-3 Organize and monitor training to disseminate the appropriate technique of production of crashing sesame seed ;</p> <p>1-4 Study and propose how to manage organizations and improve farm management for increasing productivity of crashing sesame seed and improving income generation of ordinary farmers (contract farming, strengthening of organizations, etc.);</p> <p>1-5 Organize training for strengthening organizational activities of farmers and management system (organizational management, access to funds, etc.).</p> <p>2-1 Study the character of selected varieties of sesame;</p> <p>2-2 Verify the suitability as edible sesame seed and the aptitude for cultivating, and identify the variety for extension;</p> <p>2-3 Implement cultivation tests for edible sesame seed in order to establish the cultivating techniques;</p> <p>2-4 Proceed for official registration of new varieties of edible sesame seed;</p> <p>2-5 Organize and monitor training for disseminating the appropriate techniques of production of edible sesame seed ;</p> <p>2-6 Study and propose how to manage organizations and improve farm management for increasing productivity of edible sesame seed and improving income generation of ordinary farmers (contract farming, strengthening organizations, etc.);</p> <p>2-7 Organize training for strengthening organizational activities of farmers and management system (organizational management, access to funds, etc.);</p>	<p>« Burkinabe side »</p> <ul style="list-style-type: none"> - Counterpart personnel - Project office and necessary equipment - Procedure for dispatch experts, procedure for tax exemption, and so on. - Counterpart budget 	
<p>3-1 Organize training for the proper production of foundation seed;</p> <p>3-2 Organize training for strengthening capacity of trainers in charge of technical supervision to seed production farmers;</p> <p>3-3 Organize training for strengthening capacity of seed production farmers to produce improved seeds;</p> <p>3-4 Establish a system of production and distribution of seeds targeted by the Project (monitoring, supervision, etc.);</p> <p>4-1 Strengthen marketing capacity for international markets (needs survey of the market, promotion of participation in international trade fairs, review of methods for production estimate, etc.);</p> <p>4-2 Organize training for quality control based on market needs (impurity processing, management of pesticide utilization, strengthening of control system, traceability, etc.);</p> <p>4-3 Strengthen organizations of sesame value chain and reinforce the inter-professional Organization of sesame industry</p> <p>4-4 Promote the information sharing on the production, distribution and markets</p>	<p>« Japanese side »</p> <p>Experts :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Expert « Chief Advisor » - Expert « Cultivation techniques » - Expert « Farm management / Organization » - Expert «Quality control / Post-harvest » - Expert « Market / Commercialization » - Expert « Coordinator / Training » <p>- Training course</p> <p>Machinery and equipment</p>	<p>Precondition</p>

ブルキナファソ国 ゴマ生産支援プロジェクト

1. プロジェクトの達成状況

	調査項目	調査の視点 / 調査事項	指標・評価項目	必要な情報	情報源
	小項目				
実績の検証	上位目標の達成状況・見込み	上位目標：ゴマの輸出量が増大する。	指標 1：搾油用ゴマの輸出高（●万 t→●万 t）	● 輸出量に関する統計データ ● プロジェクトの寄与	● 国家統計データ
			指標 2：食用ゴマの輸出高（●万 t→●万 t）		
			追加指標の設定、指標修正の必要性はあるか？	● PDM のレビュー	● 文献調査 ● 関係者の意見
	プロジェクト目標の達成状況	プロジェクト目標:プロジェクト対象農家のゴマの生産性と収入が改善される。	指標 1：搾油用ゴマ栽培による家計当たりの収入（● FCFA/年→● FCFA/年）	● 農民を対象とした調査の結果 ● ベースライン調査結果（ゴマ収量と収入の変化）	● 文献調査 ● 関係者の意見
			指標 2：食用ゴマ栽培による家計当たりの収入（● FCFA/年→● FCFA/年）		
			指標 3：搾油用ゴマ生産性（● kg/ha→● kg/ha）		
			指標 4：食用ゴマ生産性（● kg/ha→● kg/ha）		
			追加指標の設定、指標修正の必要性はあるか？	● PDM のレビュー	● 文献調査 ● 関係者の意見
	成果の達成状況	成果 1：搾油用ゴマの生産性が改善される。	1-1 搾油用ゴマ栽培による農家一人当たりの生産性（● kg/ha→● kg/ha）	● 研修レポート、記録 ● FFS/FBS モニタリングレポート ● ベースライン調査結果 ● プロジェクト進捗報告書	● インタビュー結果 ● 文献調査 ● 関係者の意見
			1-2 受益者数に関する指標が検討されている		
1-3 栽培技術普及のために実施された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）					
1-4 組織活動と管理システムの強化のために提供された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）					
追加指標の設定、指標修正の必要性はあるか？			● PDM のレビュー	● 文献調査 ● 関係者の意見	
成果 2：食用ゴマが導入され、生産体制が構築される。		2-1 普及に適した品種の選択	● プロジェクト進捗報告書 ● INERA による承認証明書 ● 農民を対象とした調査の結果	● インタビュー結果 ● 文献調査 ● 関係者の意見	
		2-2 INERA による新品種の承認			
		2-3 受益者数に関する指標が検討されている			
		2-4 栽培技術普及のために実施された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）			
		2-5 組織活動と管理システムの強化のために提供された研修の回数（●回）及び参加者数（●名）			

調査項目	調査の視点 / 調査事項		指標・評価項目	必要な情報	情報源	
	小項目					
	成果3：プロジェクトが対象とする種子の生産・配布体制が整備される。		追加指標の設定、指標修正の必要性はあるか？	● PDM のレビュー	● 文献調査 ● 関係者の意見	
		3-1	選択した搾油用ゴマの種子生産量 (● kg → ● kg)	● ゴマ生産農家を対象とした調査の結果 ● INERA の報告書 ● 研修レポート、記録 ● プロジェクト進捗報告書	● インタビュー結果 ● 文献調査 ● 関係者の意見	
		3-2	食用ゴマの種子中の異なる色の種子の混合比 (●%から●%)			
		3-3	選択された食用ゴマの原種種子の量 (● kg / 年)			
		3-4	食用ゴマの種子を生産する農家の数 (● 農家)			
		3-5	食用ゴマの種子生産に使われた農地の総面積 (● ha)			
			追加指標の設定、指標修正の必要性はあるか？	● PDM のレビュー	● 文献調査 ● 関係者の意見	
	成果4：ゴマ関係者のマーケティング能力が改善される。	4-1	ゴマの国際的な市場動向を理解するための仕組みを構築する	● ゴマセクター関係者の交流機会の回数 ● ゴマ情報の発信回数 ● セミナー、研修の実施回数 ● プロジェクト進捗報告書	● インタビュー結果 ● 文献調査 ● 関係者の意見	
		4-2	品質管理のために実施された研修の回数 (●回)			
		4-3	ゴマの職業間組織の強化に関する指標が検討されている			
		4-4	ゴマ関連情報の発信回数 (●回)			
			追加指標の設定、指標修正の必要性はあるか？	● PDM のレビュー	● 文献調査 ● 関係者の意見	
	投入の実施状況	日本側投入（専門家派遣、機材供与、カウンターパート研修、予算）は計画どおり実施されているか？	1)	専門家派遣 ・長期専門家、短期専門家	● 専門家リスト	● 専門家リスト
			2)	研修 ・研修員受け入れ	● 本邦研修参加者リスト	● 本邦研修参加者リスト
			3)	資機材供与	● 供与資機材リスト	● 供与資機材リスト
4)			現地活動費	● 在外事業強化費	● 在外事業強化費	
ブルキナファソ側投入（人員、建物・施設、予算）は計画どおり実施されているか？		1)	カウンターパートの人材配置	● カウンターパートリスト	● カウンターパートリスト	
		2)	施設・土地手配	● ブルキナファソ側投入リスト	● ブルキナファソ側投入リスト	
		3)	ローカルコスト カウンターパートの活動にかかわる諸費用（旅費、交通費、日当等）	● ブルキナファソ側投入リスト	● ブルキナファソ側投入リスト	

2. 実施プロセスの検証

調査項目	調査の視点 / 調査事項	指標・評価項目	必要な情報	情報源	
					小項目
実施プロセス	活動計画の進捗状況	成果1の活動	1-1：搾油用ゴマの品種特性を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 各活動が計画どおりに実施されているか。 ● 各活動の実施における課題、及び阻害・貢献要因。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
			1-2：搾油用ゴマの各種収量改善試験を実施する。(播種時期、施肥等)		
			1-3：搾油用ゴマの適切な生産技術の普及研修とモニタリングを実施する。		
			1-4：一般農家における搾油用ゴマ生産拡大と生計向上を可能とする組織・営農のあり方を検討し、提案する。(契約栽培、組織強化等)		
			1-5：生産者の組織活動及び運営体制強化のための研修を行う。(組織マネジメント、資金アクセス等)		
	成果2の活動	2-1：候補品種の特性を調査する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 各活動が計画どおりに実施されているか。 ● 各活動の実施における課題、及び阻害・貢献要因。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント 	
		2-2：食用ゴマとしての適性及び栽培適性を確認し、普及品種を選定する。			
		2-3：食用ゴマの栽培試験を行い、栽培技術を確立する。			
		2-4：食用ゴマの新品種国家品種登録を行う。			
	成果3の活動	3-1：適切な原種生産のための研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 各活動が計画どおりに実施されているか。 ● 各活動の実施における課題、及び阻害・貢献要因。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント 	
		3-2：種子生産農家へ普及指導を行う講師に対し、指導能力を強化するための研修を実施する。			
		3-3：種子生産農家に対し、優良種子生産能力を強化するための研修を実施する。			
		3-4：プロジェクトで対象とする種子の生産・配布体制を構築する。(モニタリング、指導等)			
	成果4の活動	4-1：国際市場におけるマーケティング能力を強化する。(市場ニーズ調査、国際見本市参加促進、作況予測手法の検討等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各活動が計画どおりに実施されているか。 ● 各活動の実施における課題、及び阻害・貢献要因。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント 	
		4-2：市場ニーズに基づく品質管理に関する研修を実施する。(夾雑物処理、農薬使用管理、検査体制の強化等)			
		4-3：ゴマ関連団体の組織を強化するとともにゴマ分野全体のクラスターを強化する。			
4-4：生産・流通・市場情報の共有を促進する。					

調査項目		調査の視点 / 調査事項	指標・評価項目	必要な情報	情報源
小項目					
技術移転の方法・内容		技術移転の方法	技術移転がカウンターパートに対して的確に行われたかどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ● カウンターパートの能力強化の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント ● 研修報告書
活動の変更		変更もしくは、追加、削除された活動の有無	変更もしくは、追加、削除された活動はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画から変更された活動の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
ステークホルダーの関係		プロジェクトチーム内、プロジェクトチームと他のステークホルダーとの関係	<p>定期会議、運営調整委員会が開催され、課題解決のために機能しているか。</p> <p>日本人専門家とカウンターパート間で相互コミュニケーションは十分に行われているか。</p> <p>指揮命令系統や役割分担ができる体制が構築されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● JCC、定期会議等の開催状況 ● コミュニケーションの手段、頻度 ● プロジェクト実施体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● JCC 議事録 ● 専門家、関係者コメント
オーナーシップ		カウンターパートのオーナーシップの有無	ブルキナファソ関係者、カウンターパートはプロジェクト活動に十分参加しているか。先方予算は計画どおり確保、支出されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● カウンターパートのプロジェクト活動の理解と、活動への参加度合い 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブルキナファソ側ローカルコスト
モニタリング・評価		モニタリング・評価の結果及びプロジェクトの達成状況	モニタリング・評価・フィードバックの実施体制は構築されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトのモニタリング体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
他ドナーとの関係		他ドナーとの協力関係、支援内容の重複	他ドナーとの協力、連携の事例はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 他ドナーとの連携の有無 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門家、関係者コメント
阻害、貢献要因		活動進捗、成果達成、目標達成に阻害、貢献する要因の有無	人事異動等がプロジェクトの実施プロセスに影響を与えたか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 人事異動の際の引継ぎ体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント

3. 評価 5 項目

調査項目		調査の視点 / 調査事項	指標・評価項目	必要な情報	情報源
小項目					
妥当性	1. 国家政策に見る優先課題	ブルキナファソの開発政策、戦略との整合性	ブルキナファソ政策との整合性	<ul style="list-style-type: none"> ● ブルキナファソの農業・村落開発関連の政策、戦略、開発計画 	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続的開発及び成長の加速化戦略文書 (SCADD) ● 農村開発セクター国家プログラム (PNSR) ● その他の政策文書

調査項目	調査の視点 / 調査事項		指標・評価項目	必要な情報	情報源
	小項目				
			その他の政策との整合性	<ul style="list-style-type: none"> ● その開発戦略との整合性 	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象地域の開発戦略 ● 専門家、関係者コメント
2. 必要性	受益者のニーズとの整合性	カウンターパートのニーズ 受益者のニーズ		<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト対象地域関係者のコメント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門家、関係者コメント
3. 計画の妥当性	計画設定の妥当性	計画の設定は適切か		<ul style="list-style-type: none"> ● 各成果、プロジェクト目標、上位目標の因果関係 	<ul style="list-style-type: none"> ● PDM、PO ● 専門家、関係者コメント
	妥当性に欠いた要因	妥当性に欠いた要因はあるか		<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの計画に起因する課題 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門家、関係者コメント
4. プロジェクトアプローチの適切性	普及アプローチの妥当性	技術普及のアプローチの選択は適切か		<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 中間報告書 ● 中間レビュー報告書 ● 専門家、関係者コメント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 中間報告書 ● 中間レビュー報告書 ● 専門家、関係者コメント
	カウンターパート選定の妥当性	カウンターパートの人数、選定方法は適切か カウンターパートに十分な能力が備わっているか			
	受益者の選定の妥当性	対象地域の選定、受益者の選定方法は適切か			
	日本の技術の優位性	日本の技術の優位性を活かした事例			
5. 日本政府援助方針との整合	日本のODAにおける優先課題との整合性	わが国の政策・計画との整合性 対ブルキナファソ 国別援助方針		<ul style="list-style-type: none"> ● 国別開発協力方針 ● JICA 支援方針 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国別開発協力方針 ● JICA 支援方針
有効性	1. プロジェクト目標の達成見込み	プロジェクト目標達成の状況	プロジェクト目標達成の状況・可能性	<ul style="list-style-type: none"> ● 「1. プロジェクトの達成状況」を参照 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 中間報告書 ● 中間レビュー報告書 ● 専門家のコメント ● ブルキナファソ政策文書
			プロジェクト目標達成にかかわる促進、阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト目標達成に貢献、阻害する要因の有無 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
2. 成果とプロ目標の間の因果関係	各成果の達成度及びプロジェクト目標達成への寄与	各成果の達成度及びプロジェクト目標達成への寄与	各成果の確認項目に基づいた達成度及びプロジェクト目標達成への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト目標の達成と各成果の因果関係 ● 各成果の達成状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
		プロジェクト目標達成に影響する外部の状況	外部条件は満たされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部条件の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
			その他、プロジェクト目標達成に影響する外部条件の有無	<ul style="list-style-type: none"> ● その他の外部条件の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント

	調査項目	調査の視点 / 調査事項	指標・評価項目	必要な情報	情報源
	小項目				
効率性	1. 投入の進捗	投入進捗の状況	日本側：専門家派遣、機材供与、本邦研修、ローカルコスト	●「投入の実施状況」の検証	● プロジェクトの投入に関連する各種リスト ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者のコメント
			ブルキナファソ側：カウンターパート人員の配置、プロジェクト運営経費		
	投入の適切性	専門家の分野の適切性、研修受講生の満足度 日本、ブルキナファソ側の投入の時期、品質及び量の満足度			
	2. 成果の達成状況	成果1から成果3の達成状況	指標に見る成果達成の状況	●「成果の達成状況」を参照	● 事業進捗報告書 ● 中間報告書 ● 中間レビュー報告書 ● 専門家、関係者のコメント
	3. 投入、活動及び成果の間の因果関係	成果達成のための投入の妥当性	人員等のプロジェクト・リソース投入における過不足の有無 ブルキナファソ側活動費の支出状況	● 投入（人員、資金、機材等）の活用状況 ● 関連する成果の産出状況	● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
			成果達成の外部状況の影響	成果達成のためのその他の外部条件は満たされているか。	● 外部条件の確認
4. 類似プロジェクトとの連携	JICAの類似プロジェクト及び他ドナーのプロジェクトとの連携・相乗効果	他のJICAプロジェクトとの連携・相乗効果	● 他のJICAプロジェクトとの連携の有無	● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント	
		他ドナーのプロジェクトとの連携・相乗効果	● 他ドナーのプロジェクトの連携の有無	● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント	
インパクト	1. 上位目標達成の見込み	上位目標達成の見込み	プロジェクト目標の達成状況に基づく上位目標達成の見込み	●「上位目標の達成状況」を参照	● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
		上位目標に向けた外部条件	外部条件は満たされているか。	● 外部条件の確認	● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
		上位目標の阻害要因	上位目標達成を促進・阻害する要因	● 上位目標達成に貢献、阻害する要因の有無	● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
	2. 因果関係	上位目標とプロジェクト目標の因果関係	上位目標とプロジェクト目標が乖離していないか。プロジェクト目標の達成が、上位目標の達成に寄与するか。	● 上位目標とプロジェクト目標の因果関係	● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
	3. 正のインパクト	プロジェクトによる正のインパクト	プロジェクトに起因する正のインパクトの有無	● プロジェクトが計画していなかったインパクトの有無	● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
			プロジェクトに起因する負のインパクト	プロジェクトに起因する負のインパクトの有無	● 負のインパクトへの対策の有無 ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント

	調査項目	調査の視点 / 調査事項	指標・評価項目	必要な情報	情報源
	小項目				
持続性	1. 政策面	政策支援が協力終了後も継続される可能性	関連政策の継続可能性は高いか。	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの成果を継続的に活用するための、関連政策の継続可能性 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
	2. 組織面	カウンターパート機関の活動実施体制	プロジェクト終了後に事業の成果の活用を継続するための体制	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの成果を継続的に活用するための、ブルキナファソ側の組織体制 ● プロジェクトへのオーナーシップ意識 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
	3. 財政面	活動の継続に必要な財源確保の可能性	プロジェクト終了後の必要予算確保の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修の実施、モニタリング・フォローアップ、研究活動のための予算の配賦状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント
	4. 技術面	活動の継続に必要なカウンターパートの能力開発の状況	カウンターパートへの技術移転の状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術移転の進捗状況 ● カウンターパートの能力開発状況 ● 機材の維持、管理、運営状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業進捗報告書 ● 専門家、関係者コメント

7-1 日本人専門家

No	専門家名	担当業務	派遣期間		日数
			から	まで	
1	月井 芳文	総括／農業・農村開発アドバイザー	2014年10月1日	2015年6月30日	273
2	菊田 雅義	コミュニティ開発／業務調整	2015年10月9日	2017年4月5日	545
3	土方 野分	営農／栽培	2015年6月7日	2017年4月30日	694
4	中垣 長睦	総括／ゴマフィリエール形成支援	2016年2月23日	2016年3月16日	23
			2016年6月21日	2016年8月5日	46
			2016年9月2日	2016年10月21日	50
			2016年11月9日	2016年12月23日	45
5	大谷 華子	副総括／流通	2017年3月22日	2017年4月21日	31
			2016年2月23日	2016年4月8日	46
			2016年5月22日	2016年7月1日	41
			2016年10月15日	2016年12月5日	52
6	中條 淳	普及1（FFS/FBS実施・運営）	2017年2月27日	2017年4月26日	59
			2016年3月5日	2016年4月12日	39
			2016年8月21日	2016年10月10日	51
7	小林 裕三	普及2（農民組織化）	2017年2月27日	2017年4月26日	59
			2016年2月23日	2016年3月20日	27
			2016年4月17日	2016年5月16日	30
			2016年7月16日	2016年8月14日	30
8	松田 健志	普及3（視聴覚教材／業務調整）	2017年4月15日	2017年4月30日	16
			2016年2月23日	2016年3月22日	29
			2016年5月17日	2016年7月19日	64
			2016年10月15日	2016年11月11日	28
9	南谷 貴史	収穫後処理	2016年11月28日	2016年12月25日	28
			2016年11月30日	2016年12月13日	14
			2017年4月2日	2017年4月30日	29
10	桑原 雅彦	農薬管理	2016年2月23日	2016年3月3日	10
			2016年8月21日	2016年9月9日	20
11	芹澤 紀青	通訳	2016年2月28日	2016年3月8日	10

7-2 調達資機材

購入日	機材内容		数量	単価		合計		保管場所
	物品	商品名・番号		通貨		通貨		
2014年12月5日	事務机	FG900	5	FCFA	148,680	FCFA	743,400	プロジェクト事務所 (DGPER)
2014年12月5日	金庫	4FCOFESD101	1	FCFA	202,500	FCFA	202,500	プロジェクト事務所 (DGPER)
2014年12月10日	車両	TOYOTA Prado	1	FCFA	28,546,750	FCFA	28,546,750	プロジェクト事務所 (DGPER)
2014年12月12日	キャビネット	200 x 100 x 35cm	2	FCFA	83,827	FCFA	167,654	プロジェクト事務所 (DGPER)
2015年1月7日	複合機 (白黒)	Canon iR2525	1	FCFA	2,950,000	FCFA	2,950,000	プロジェクト事務所 (HB)
2015年1月15日	車両	TOYOTA Hilux	1	FCFA	15,830,000	FCFA	15,830,000	作業場 (Ouaga2000)
2015年1月16日	ラップトップ	DELL HS3737	1	FCFA	678,500	FCFA	678,500	作業場 (Ouaga2000)
2015年2月27日	プロジェクター	EPSON EB-S18	2	FCFA	407,100	FCFA	814,200	プロジェクト事務所 (DGPER)
2015年3月2日	カラープリンター	HP Laserjet Pro 400 M451dn	1	FCFA	383,500	FCFA	383,500	作業場 (Ouaga2000)
2015年3月10日	冷蔵庫	SHARP SJ20	1	FCFA	265,500	FCFA	265,500	プロジェクト事務所 (DGPER)
2015年3月12日	灌漑ポンプ	KDP40	1	FCFA	220,000	FCFA	220,000	プロジェクトサイト (Badala)
2015年3月16日	デジタルカメラ	Fujifilm Finepix S4800	1	FCFA	277,300	FCFA	277,300	作業場 (Ouaga2000)
2015年3月18日	デジタルビデオ	SONY HDR CX 240E	1	FCFA	324,500	FCFA	324,500	プロジェクト事務所 (DGPER)
2015年3月18日	ラップトップ	HP ENVY 15	1	FCFA	542,800	FCFA	542,800	作業場 (Ouaga2000)
2015年3月19日	扇風機	DTE-60 2CV	2	FCFA	980,000	FCFA	1,960,000	プロジェクトサイト (CPR & Makognadougou)
2015年3月19日	裁断機	HACHE PAILLE + MOTEUR S195	2	FCFA	2,250,000	FCFA	4,500,000	プロジェクトサイト (CPR & Makognadougou)
2015年3月30日	ハンドトラクター	DF-15KL	2	FCFA	3,825,000	FCFA	7,650,000	プロジェクトサイト (CPR & Makognadougou)
2015年6月25日	ラップトップ	TOSHIBA SATELLITE L50-B-11G	1	FCFA	460,200	FCFA	460,200	作業場 (Ouaga2000)
2015年7月7日	GPS	GARMIN MAP64S	1	FCFA	354,000	FCFA	354,000	作業場 (Ouaga2000)
2016年2月4日	小型ハンドトラクター	Panch-X F402J	5	FCFA	562,986	FCFA	2,814,930	プロジェクトサイト及び INERA (Gampela, Farako-Ba, Niangoloko, CPR & 作業場)
2016年3月7日	GPS	GARMIN MAP64S	2	FCFA	318,600	FCFA	637,200	作業場 (Ouaga2000)
2016年3月11日	灌漑ポンプ	KAMA100 RT40-4DP	1	FCFA	400,000	FCFA	400,000	プロジェクトサイト (Badala)
2016年3月15日	冷蔵庫	BOREAL7	2	FCFA	405,000	FCFA	810,000	INERA Kamboinsine
2016年3月16日	バイク	YAMAHA125G	2	FCFA	1,416,000	FCFA	2,832,000	HB 州および BM 州農業局

2016年3月25日	ノートパソコン	TOSHIBA L50-B 26L	1	FCFA	442,500	FCFA	442,500	プロジェクト事務所 (DGPER)
2016年5月24日	ノートパソコン	TOSHIBA L50-B 26L	1	FCFA	501,500	FCFA	501,500	プロジェクト事務所 (DGPER)
2016年6月20日	ノートパソコン	HP PROBOOK 450 G3	3	FCFA	454,300	FCFA	1,362,900	2 プロジェクト事務所 (DGPER), 1 プロジェクト事務所 (HB)
2016年7月21日	ノートパソコン	HP Pavilion 15	2	FCFA	260,000	FCFA	520,000	作業場 (Ouaga2000)
2016年9月5日	カラーコピー機	CANON IRADV C3320i	1	FCFA	2,300,000	FCFA	2,300,000	プロジェクト事務所 (DGPER)
2016年9月6日	pH/ EC/ TDS/ °Cテスター	HI 991300N	2	JPY	83,500	JPY	167,000	作業場 (Ouaga2000)
2016年9月6日	GPS	GARMIN OREGON 600	3	JPY	53,000	JPY	159,000	プロジェクト事務所 (DGPER)
2016年9月6日	赤外線水分計	FD-720	1	JPY	270,000	JPY	270,000	プロジェクト事務所 (DGPER)
2016年9月6日	穀類水分計	PM-650	1	JPY	160,000	JPY	160,000	プロジェクト事務所 (DGPER)
2016年10月11日	ハンドトラクター	DF-15 KL	2	FCFA	4,237,676	FCFA	8,475,352	プロジェクトサイト (Badala & Makognadougou)
2017年3月10日	灌漑ポンプ	KAMA d100	2	FCFA	417,500	FCFA	835,000	作業場 (Ouaga2000)
2017年3月13日	冷蔵庫	Borel 215L	1	FCFA	260,000	FCFA	260,000	作業場 (Ouaga2000)
2017年3月13日	冷凍庫	Borel 580L	2	FCFA	470,000	FCFA	940,000	作業場 (Ouaga2000)

7-3 本邦・第三国研修

(1) 本邦研修

No	C/P 氏名		担当分野	研修名	研修期間	
					開始	終了
1	Dr.	LOMPO François	農業大臣	日本ゴマフィリエール及びマーケティング	2015/2/27	2015/3/13
2	Mr.	KABORE Adama	評価 / DGESS	日本ゴマフィリエール及びマーケティング	2015/2/27	2015/3/13
3	Mr.	POUYA W.Thierry	ゴマフィリエール担当者 / DGPER/DPEFA	日本ゴマフィリエール及びマーケティング	2015/2/27	2015/3/13
4	Mr.	TRAORE Mourice	総局長 / DGPV	ゴマ栽培および研究	2015/7/23	2015/8/6
5	Mr.	OULE Jean Marcel	州農業局長 / DRAAH-HB	ゴマ栽培および研究	2015/7/23	2015/8/6
6	Mr.	SAWADOGO Oumarou	州農業局長 / DRAAH-BM	ゴマ栽培および研究	2015/7/23	2015/8/6
7	Dr.	MININGOU Amos	研究官 / INERA	ゴマ栽培および研究	2015/7/23	2015/8/6
8	Dr.	ZAGRE Bertin	研究官 / INERA	ゴマ栽培および研究	2015/7/23	2015/8/6
9	Dr.	OUEDRAOGO MANEGUEDO Robert	次官 / MAAH	本邦研修 (流通)	2016/6/12	2016/6/18
10	Dr.	OUEDRAOGO Abdelaziz	総局長 / DGPER	本邦研修 (流通)	2016/6/12	2016/6/18
11	Mr.	DIAWARA Ali	課長 / DPEFA / DGPER	本邦研修 (流通)	2016/6/12	2016/6/18
12	Mr.	VELEDGA Cyprien	副次官 / ANACES-B	本邦研修 (流通)	2016/6/12	2016/6/18
13	Mr.	POUYA W.Thierry	ゴマフィリエール担当者 / DGPER/DPEFA	Knowledge Co-Creation Program (Young Leaders) for African Countries (French) /Agri-Business/Agri-Eco-Tourism Course	2016/6/16	2016/7/2
14	Mr.	YIGO G. Ludovic Prosper Arsène	モニタリング室職員 / DGPER/CSAC/ プロジェクトのモニタリング・評価担当	Knowledge Co-Creation Program (Young Leaders) for African Countries (French) /Agri-Business/Agri-Eco-Tourism Course	2016/6/16	2016/7/2
15	Mr.	ZOUNGRANA Urbain	農村での農業のモニタリングの担当 / DPVC / DGPV	本邦研修 (栽培)	2016/9/11	2016/9/21
16	Mrs.	OUEDRAOGO Ouindingoud Juliette	基準と計測の促進課の課長 / DGPER	本邦研修 (栽培)	2016/9/11	2016/9/21
17	Mr.	SANOU Kointani	ゴマフィリエール促進を助言する課の課長 / 農村経済振興州局 / DRAAH-BM	本邦研修 (栽培)	2016/9/11	2016/9/21
18	Mr.	COULIBALY Saïfoulaye	食料保障と農業の情報システム課の課長 / セクター別の統計調査の州局 / DRAAH-BM	本邦研修 (栽培)	2016/9/11	2016/9/21
19	Mr.	MALO Théophile	農業フィリエールの経済振興担当職員、農村経済促進振興州局 / DRAAH-HB	本邦研修 (栽培)	2016/9/11	2016/9/21
20	Mr.	RAMDE Souleymane	農業普及を助言する課の担当、開発と農業生産の州局 / DRAAH-HB	本邦研修 (栽培)	2016/9/11	2016/9/21

(2) 第三国研修、W/S およびセミナー

No	C/P 氏名		担当分野	研修名	研修期間	
					開始	終了
1	Mr.	ZOUNGRANA Urbain	農村での農業のモニタリングの担当 / DPVC / DGPV	FFS (ルワンダ)	2016/8/15	2016/8/21
2	Mr.	SANOOU Kointani	ゴマフィリエール促進を助言する課の課長 / 農村経済振興州局 / DRAAH-BM	FFS (ルワンダ)	2016/8/15	2016/8/21
3	Mr.	MALO Théophile	農業フィリエールの経済振興担当職員、農村経済促進振興州局 / DRAAH-HB	FFS (ルワンダ)	2016/8/15	2016/8/21

7-4 カウンターパート (C/P) リスト

C/P 氏名		役職 / 組織	担当分野	在職期間	
				開始	終了
Dr.	OUEDRAOGO Denis	総局長 / DGPER	ナショナル・コーディネーター / プロジェクト・ダイレクター	2015/12/28	
Dr.	OUEDRAOGO Abdelaziz	総局長 / DGPER	ナショナル・コーディネーター / プロジェクト・ダイレクター		現在まで
Mr.	DIAWARA Ali Badara	局長 / DGPER/DPEFA	C/P 側 JICA ゴマプロジェクトリーダー	2015/12/28	
Mrs.	ZANGRE Valérie	局長 / DGPER/DPEFA	C/P 側 JICA ゴマプロジェクトリーダー		現在まで
Mr.	POUYA W. Thierry	農学エンジニア / ゴマフィリエール担当 / DGPER/DPEFA	組織 / 研修分野 C/P	2015/12/28	現在まで
Mr.	TINGRI Issaka	経済プランナー、調査・分析アドバイザー / DGPER/DDMPA	市場 / コマーシャライゼーション / マーケティング分野 C/P	2015/12/28	現在まで
Ms.	MOUKIAN/OUEDRAOGO O. Juliette	振興・規格・計量室室長 / DGPER/DTAN	収穫後処理分野 C/P	2015/12/28	現在まで
Mr.	ZOUNGRANA Urbain	上級農業技術者 / DGPV/DVRD	ゴマ生産 / 栽培技術分野 C/P	2015/12/28	現在まで
Mrs.	BANISSI/NANEMA Claudine	植防エンジニア / DGPV/DPVC	品質管理分野 C/P	2015/12/28	現在まで
Mr.	OUEDRAOGO Oumar	生産室室長 / INERA	原種分野 C/P	2015/12/28	現在まで
Mr.	BIHOUN Jean	農業普及企画エンジニア / DGPV/DVRD	改良種子分野 C/P	2015/12/28	現在まで
Mr.	MALO Théophile	農業エンジニア / DRAAH/HB	地方農業局プロジェクト C/P	2015/12/28	現在まで
Mr.	SANOU Kointani	上級農業技術者、農業フィリエール振興支援セクション長 (SAPFA) / DRAAH/BM	地方農業局プロジェクト C/P	2015/12/28	現在まで
Mr.	YIGO G. Ludovic Prosper Arsène	農村開発エンジニア / DGPER / フォローアップ・評価室 / 内部コントロール	プロジェクトフォローアップ・評価担当	2015/12/28	現在まで
Mr.	TAPSOBA Jean Fidèle	総務・経理室室長 / DGPER/SAF	C/P 予算運営執行担当	2015/12/28	
Mr.	OUATTARA Lassina	総務・経理室室長 / DGPER/SAF	C/P 予算運営執行担当		現在まで
Mrs.	BAMA/NIKIEMA Alizèta	秘書 / DGPER/DPEFA	プロジェクト秘書	2015/12/28	現在まで
Mr.	ADESHOLA Ebenser	運転手 / DGPER	プロジェクト運転手	2015/12/28	現在まで
Mr.	ABOUGA W. D. R. Arnaud	連絡係 / DGPER	連絡係	2015/12/28	現在まで

JICA 開催研修 (本邦および第三国) 参加経験

7-5 ブルキナファソ側供与（土地、建物、事務所及び機材）

No.	物品	場所	内容
JFY2014			
	試験圃場	CPR Kodougou (BM 州)	灌漑施設および給水ポンプ
	プロジェクト事務所 (DGADI)	DGADI	執務室 1 部屋、電気
JFY2015			
	試験圃場	CPR Kodougou (BM 州)	灌漑施設および給水ポンプ
	試験圃場	INERA Gampela	灌漑施設および給水ポンプ
JFY2016			
	試験圃場	CPR Kodougou (BM 州)	灌漑施設および給水ポンプ
	試験圃場	INERA Gampela	灌漑施設および給水ポンプ
	試験圃場	INERA Farako-Ba	
	試験圃場	INERA Niangoloko	
	プロジェクト事務所 (BM 州)	DRAAH-BM	執務室 2 部屋、電気
	プロジェクト事務所 (HB 州)	DRAAH-HB	執務室 1 部屋、電気
	プロジェクト事務所 (DGPER)	DGPER	執務室 1 部屋、電気
JFY2017			

8 PDM 改定案

Title: The Project for Reinforcement of Sesame Production
 Target area: Ouagadougou, Boucle du Mouhoun region and Hauts-Bassins region
 Project Duration: 5 years from October 2014 to September 2019

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
Improve the sesame productivity in target area	<ul style="list-style-type: none"> - Average yield produced by farmers in target area increase more than 20% 	<ul style="list-style-type: none"> - National Statistics 	The target regions are not exposed to security problem.
Project Purpose			
Improve the productivity and income of target sesame farmers	<ul style="list-style-type: none"> - More than 70% of target farmers increases the income by sesame production - Average Yield per hectare produced by target farmers increase more than 20% 	<ul style="list-style-type: none"> - Farmer survey (Final) - Farmer survey (Baseline and Final) 	<ul style="list-style-type: none"> - The price of sesame international market does not mark a significant downtrend. - Production is not affected by a very poor harvest due to weather, etc
Output			
1. Develop and disseminate appropriate technology and knowledge	<ul style="list-style-type: none"> - Modules and materials for training (on FFS/FBS, Capacity building of farmer's group) to core farmers are formulated - More than 180 core farmers participated in trainings - More than 90% of farmers participated in FFS/FBS adopt more than one technical component. 	<ul style="list-style-type: none"> - Project Report - Project Report - Farmer survey (Final) etc. 	Human resources responsible for the technical transmission, as participants in training and others, continue to be involved in the project.
2. Select new varieties of sesame	<ul style="list-style-type: none"> - More than one new variety is selected for seed registration - Technical guidance for varieties selection and foundation and breeders seed production are formulated. 	<ul style="list-style-type: none"> - Project Report - Project Report 	
3. Increase the number of certified seed producing farmers and certified seed production.	<ul style="list-style-type: none"> - Modules and materials for training (on seed production) to core farmers are formulated - More than 180 core farmers participated in trainings. - At least one seed producing farmer is registered in more than half of target group. - More than XX ha area of certified seed production per year on average by target seed producers is declared 	<ul style="list-style-type: none"> - Project Report - Project Report - Project Report - Project Report 	
4. Reinforce the marketing capacity of stakeholders in the sesame sector.	<ul style="list-style-type: none"> - Training materials on sesame quality control are formulated. - More than XX training/ session/ workshop to stakeholders in sesame sector on the quality control is conducted. - More than one of the ANACES-B member has direct contract with Japanese importer. 	<ul style="list-style-type: none"> - Project Report - Project Report - Project Report 	

Activities	Inputs	Important Assumption
<p>(0) Implement a base line survey (household economies of farmers, situation and problems of production and value chain, etc.).</p> <p>1-1 Verify the character of varieties of sesame seed;</p> <p>1-2 Make various tests to improve the yield of sesame seed (seeding time, fertilization, etc.);</p> <p>1-3 Organize and monitor training to disseminate the appropriate technique of production of sesame seed ;</p> <p>1-4 Study and propose how to manage organizations and improve farm management for increasing productivity of sesame seed and improving income generation of ordinary farmers (contract farming, strengthening of organizations, etc.);</p> <p>2-1 Study the character of selected varieties of sesame;</p> <p>2-2 Verify the suitability as sesame seed and the aptitude for cultivating, and identify the variety for extension;</p> <p>2-3 Implement cultivation tests for sesame seed in order to establish the cultivating techniques;</p> <p>2-4 Prepare for official registration of new varieties of sesame seed;</p> <p>3-1 Strengthen capacity of researchers and technicians for the proper production of foundation seed;</p> <p>3-2 Strengthen capacity of trainers in charge of technical supervision to seed production farmers;</p> <p>3-3 Organize training for strengthening capacity of seed production farmers to produce improved seeds;</p> <p>3-4 Monitor the production and marketing of certified seed produced by core farmers</p>	<p>« Burkinabe side »</p> <ul style="list-style-type: none"> - Counterpart personnel - Project office and necessary equipment - Procedure for dispatch experts, procedure for tax exemption, and so on. - Counterpart budget 	
<p>4-1 Strengthen marketing capacity for international markets (needs survey of the market, promotion of participation in international trade fairs, review of methods for production estimate, etc.);</p> <p>4-2 Organize training for quality control based on market needs (impurity processing, management of pesticide utilization, strengthening of control system, traceability, etc.);</p> <p>4-3 Promote the information sharing on the production, distribution and markets</p>	<p>« Japanese side »</p> <p>Experts :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Expert « Chief Advisor » - Expert « Cultivation techniques » - Expert « Farm management / Organization » - Expert «Quality control / Post-harvest » - Expert « Market / Commercialization » - Expert « Coordinator / Training » <ul style="list-style-type: none"> - Training course - Machinery and equipment 	<p>Precondition</p>

※Target farmer means both Core farmers and Ordinary farmers in target area

9. 面談議事録

ブルキナファソ国 ゴマ生産支援プロジェクト中間レビュー

面談議事録

日時 6月5日 10:20～11:20

場所：DGPER

面談相手：Mr. NIKIEMA Seni (Acting director DGPER/DPEFA)

【DGPER / DPEFA の関与】

- ・局長が産休のため、1カ月前から局長代理として就任したため、これまでプロジェクトには直接関与していないが、JCCにはこれまでに2度、オブザーバーとして参加している。
- ・DGPER/DPEFAは、ブルキナファソ側の責任機関であり、特にマーケティング、流通の部分で活動に参加している。FFS/FBS研修や種子生産の研修にも一部参加しているが、種子研究については、INERAの担当である。

【活動の進捗、成果の達成】

- ・プロジェクトの進捗はおおむね良好であると認識しているが、2つのレベルで課題がある。1つは、このプロジェクトに限ったことではないが、財政面の課題。予算が不足しており、十分に活動に参加できていない。2つ目は、予算執行の手続きに関する、日ブ双方で、共通理解ができていないことである。活動を実施するにあたり、予算が必要なものは日本側にリクエストを出さなければならない。このプロセスが円滑に進まず、十分に活動ができないことが多い。
- ・INERA、DGPER、JICAで契約を結んでいるが、その中で予算負担に関する明確な記載がない。
- ・プロジェクトのコミュニケーションについて、個人的には日本人専門家と良好な関係を築いている。活動に関する報告は、JCCで情報共有をしている。
- ・プロジェクトのこれまでの達成状況について、ゴマ生産農家の収量や収入の向上は、これから成果が出ると思う。種子生産、品種の選定についても順調に活動が行われているという報告である。

【PDM改訂、Validation Meeting】

- ・ベースライン調査の結果については、結果を国家レベルで正式に承認する必要がある。もともとは5月30日に実施予定であったが、予算の問題で実施ができなくなった。
- ・調査結果の承認までがベースライン調査であるため、当然それにかかわる費用の負担は、日本側であるべきである。ブルキナファソ側の負担事項ではない。
- ・PDMの指標の設定の重要性も理解しているが、ベースライン調査結果が国家レベルで承認されなければ、検討を進めることはできない。

【持続性について】

- ・プロジェクト終了後のDGPERの役割であるが、プロジェクトの成果が良好であれば、引き継いでいくことが可能。また、DGPERのカウンターパートの任命も、活動に対応しているものであり、全く新しい技術の移転、システムの導入ではないため、結果次第では拡大していくことも可能だと考える。

【技術移転先について】

- ・プロジェクトの支援を、ゴマの流通業者にも広げることが必要。今のところプロジェクトの支援はゴマ生産を対象にしたものがほとんどであり、マーケティングや輸出を対象にしたものが少ない。
- ・APEXをプロジェクトに巻き込むことについては、DGPERの職員で対応可能な部分なので、必要はない。もし必要であれば、DGPER職員がAPEXにコンタクトを取り、プロジェクトを進めていくことができる。

【プロジェクトの後半】

- ・プロジェクトの後半では、各アクターの能力強化が重要である。本邦研修を通じた、カウンターパートの能力向上が、プロジェクトの持続性の向上にもつながる。

【その他】

- ・予算情報については、プロジェクトのフォーカルポイントの、POUYA 氏に確認のこと。2016 年は 17 万 FCFA の予算に対して、14 万 FCFA の支出だったと記憶している。
- ・日本側には予算の柔軟性を持ってほしい。また、活動ごとの予算の算出が必要である。

日時 6 月 5 日 11:30 ~ 11:50

場所：DGPER

面談相手：Mr. POUYA W.Thierry（農学エンジニア / ゴマフィリエール担当 DGPER/DPEFA）

先方評価団員：他の予定ですぐに移動しなければならないとのことで、評価の目的、手法の説明、DGPER 予算情報の共有依頼、質問票の受領のみ。

日時 6 月 5 日 13:00 ~ 14:00

場所：DGPER

面談相手：大谷華子専門家（副総括 / 流通）

【PDM 改訂】

- ・PDM の指標について、ベースラインの数字が政府の統計データと異なっていることから、数値目標の設定が受け入れられなかった。例えば、収量について、ベースラインではだいたい 250kg/ha だが、政府の統計では約 500kg/ha。Validation Meeting の予定が、現時点で白紙なので、PDM の改訂のめども立っていない。
- ・収量などの数値設定が問題になり、その他の指標の設定に関する議論は行われていない。

【技術移転先】

- ・研修の計画は DGPER に渡しているが、実際に実行部隊としてプロジェクトに関わっているのは、州農業局。州レベルでは、先方の動きも良く、プロジェクト活動の内容の理解もある。予算の面では課題があるものの、技術移転先としては、州の農業局が適切。
- ・輸出に関する部分で APEX との連携は既に始まっている。GIZ は APEX をカウンターパートとしている。また、GIZ は州局と直接契約を結んで活動をしている。
- ・現在、商業省は制度づくりに熱心に取り組んでおり、ゴマの仕様書を作っている。仕様書においては、ゴマの輸出業者を登録制にする計画で、これにより、インド系の輸出業者を排除できる見込み。プロジェクトは商業省に情報の提供を行っている。

【活動の実施】

- ・総局長となかなか会うことができず、アポイントメントを取り付けることも困難。
- ・先方予算については、前年の 12 月に JCC で承認されなければ施行されない。2016 年度はプロジェクトチームと JICA の契約のタイミングにより、12 月に予算承認ができなかった。2017 年に関しては問題ないが、2018 年に同様の問題は起こりうる。
- ・本邦研修参加者が、帰国後に辞職してしまうケースがあった。引継ぎも行われないうえに、本邦研修の成果が失われてしまうこともあった。
- ・生産から輸出までが一つのカウンターパートというところに難しさがある。

【普及の仕組みについて】

- ・中核農家による普及の成果については、種子生産によるインセンティブもあるが、中核農家は地域のリーダーであり、指導する立場にあることから、彼らのリーダーシップにより普及は進むと考えられる。
- ・研修のモニタリングを行う ZAT/UAT については、モニタリングのための予算が来ておらず活動ができない状態である。

【他ドナーとの連携】

- ・他ドナーとの連携に関しては、GIZ 研修教材の活用や、GIZ のプラットフォームに参加している。
- ・過去のゴマセクター支援によって育成された人材は、研修の講師として参加。

日時 6 月 5 日 16:30 ~ 17:30

場所：DGPV

面談相手：Mr. BIHOUN Jean（農業普及企画エンジニア / DGPV/DVRD）

Ms. BANISSI/NANEMA Claudine（植防エンジニア / DGPV/DPVC）

【プロジェクトへの関与】

- ・DGPV において、他の種子の品質管理、農薬管理、たい肥に関する活動を担当。

【活動の進捗、成果の達成】

- ・プロジェクト活動に関して、DGPER はマーケティングを重視して、生産性については軽視しているように思う。ブルキナファソの種子生産は認証登録が必要で、だれでも種子を生産できるわけではない。しかしながら DGPER は、独自のアセスメントに基づいて、種子生産をしようとしている。
- ・DGPER、DGPV とのコミュニケーションは特にならない。JCC が協議の機会となっている。日本人専門家も同様で、JCC が情報共有の機会。（BIHOUN 氏はこれまで 3 回、JCC に参加した。）
- ・プロジェクトの進捗は良好で、目標達成に向けて順調に進んでいると考える。こうした情報は JCC で共有されている。
- ・プロジェクト開始当初は、日本側のプロジェクトの進め方（予算執行等）への理解が難しかったが、現在は JCC の情報共有を通じて、改善されている。

【持続性】

- ・プロジェクト終了後についても、DGPV は既に技術の普及戦略、研修、教材を持っているので、自らの目的として、活動を継続していくことができる。その上での課題は予算である。DGPV は、これまでどおりに実施していくことが可能であるが、国際的な支援を期待している。
- ・ただし、現在プロジェクトが実施している活動をそのまま引継いで実施することは困難。他の関連機関とのコーディネーションも難しい。

【連携体制】

- ・ブルキナファソ側機関の連携については、DGPV と INERA、DGPER と輸出業者の連携はできているが、それ以外の連携はできていない。
- ・プロジェクトの後半に向けては、情報共有の仕組みを確立してほしい。今のところ、情報共有の機会 JCC のみである。JCC がなければ、プロジェクトのことは忘れられてしまう。

【プロジェクト後半】

- ・農民の能力強化に加えて、政府関係者の能力強化にも注力してほしい。INERA、DGPV に日本の技術に触れる機会を作してほしい。

- ・これまでのところ、日本に研修に行った人が、帰国後に技術の共有をしておらず、幅広い効果が生まれていないことは、改善すべき課題だと考える。

日時 6月6日 8:00～9:00

場所：DGPER

面談相手：中條淳専門家（普及1 / FFS/FBS 実施・運営）

【活動の進捗】

- ・これまでのところ、研修についてはPOに沿って、計画どおりに実施されている。
- ・先方の予算がなく、人が動かないことは課題として挙げられる。研修の計画・立案は日本側で行い、ブルキナファソ側はそれを評価する立場となっている。リクエストベースで相手側は動いてくれる。地方はそれで問題ないが、中央はカウンターパートが専任ではないこともあり、相手が忙しいことが多い。

【研修の実施、モニタリング、普及】

- ・研修のモニタリングについては、今季からモニタリング専門家を派遣し、ZAT/UATを巻き込みながら、実施する仕組みを作る予定。
- ・中核農家から一般農家への普及に関しては、まだ成果が出ていない。2016年に実施した研修の成果は2017年以降に出てくる見込みなので、現時点では目に見える成果はないが、仕組みは機能している。一般農家は、2016年の研修を受けて、それをすぐに取り入れるのではなく、その成果を確認してから、それを使うかどうかを判断するものである。
- ・中核農家が種子の生産をし、それを販売することをインセンティブとする仕組みは、地域によって状況も異なるため、その仕組みを取り入れるかどうかは農家次第。企業と契約をして、販売する方が、メリットが大きい場合もある。
- ・例えば、認証種子の生産においては、年に数回程度、インスペクターによる視察を受ける必要があるが、その際にお金を支払わなければならない。遠隔地においては、インスペクターに来てもらうための交通費などを負担する必要がある、企業との提携の方が金銭的なメリットが大きい場合もある。
- ・プロジェクトの普及の仕組みにおいては、もともと地域の指導的な役割を果たす中核農家を選定し、ボランティアベースで普及をしてもらっている。各研修の参加割合も比較的高く、モチベーションも十分にある。
- ・普及研修のモニタリングについては、中核農家が一般農家に技術を伝えているかどうかをモニタリングしている。モニタリングにはフォローアップは含まれていない。対象となる一般農家の数が多く、地理的にも離れた場所にあるため、予算面を考慮しても、フォローアップまでは不可能。
- ・モニタリングの結果は、次回以降の研修計画に反映される。
- ・種子生産の実践研修は、もともと計画されていなかったが、必要性を考慮して追加された活動。
- ・PDMに記載の「食用」「搾油用」に分けた活動は行っていない。
- ・先方の統計データは、データの測定方法も不明で、各県支部でデータが異なる。（例えば、ある県のデータで、全ての地域の収量が同じ。信頼性がない。）

【本邦研修】

- ・本邦研修については、帰国後のワークショップを開催する費用がないため、経験の共有がなされていない。

【その他】

- ・現場レベルでの他ドナーとの連携は、対象地域が異なるため、特にない。
- ・本プロジェクトの技術に関しては、既にブルキナファソにあるものをアップデートしたもので、マニュアルなども既に確立したものである。
- ・普及に関しては、主な技術移転先は州農業局である。DGPER は管理部門を担当しているのみ。

日時 6月6日 10:20～11:50

場所：DGPER

面談相手：Mr. OUATTARA Lassina（総務・経理室室長 / DGPER/SAF）

Mr. TINGRI Issaka（経済プランナー、調査・分析アドバイザー / DGPER/DDMPA）

Ms. MOUKIAN/OUEDRAOGO O. Juliette（振興・規格・計量室室長 / DGPER/DTAN）

Mr. YIGO G. Ludovic Prosper Arsène（農村開発エンジニア）

【プロジェクトへの関与】

- ・それぞれのプロジェクト活動への参加は、ミーティングや JCC への参加が中心である。
- ・活動への直接的な参加は、予算の問題で限られている。Ms. MOUKIAN は全く活動に参加していない。DGPER のバジェットラインにプロジェクトの活動を入れなければ、参加することはできない。
- ・それぞれの担当分野で、ゴマ生産の能力向上の重要性は高く認識されている。

【活動の進捗、成果の達成】

- ・活動の進捗状況については、報告書を読む限りでは 90% 程度の達成率なのではないか（Mr. YIGO）。
- ・モニタリングに参加したことがあるが、播種の方法が通常と違う農家があった。また、収穫後の処理をルールに従って実施していない農家もいた。（Mr. YIGO）

【本邦研修】

- ・Mr. YIGO と Ms. MOUKIAN は、それぞれ課題別研修、栽培の本邦研修に参加した。
- ・Mr. YIGO は本邦研修帰国後に、ワークショップを開催し、日本のマーケティングに関する知見を参加者と共有した。また、個人的には、本邦研修の参加により、視野が広がり成長したと考えている。
- ・Ms. MOUKIAN は部署内で試験のシェアを行ったが、予算がないため、ワークショップなどの開催はしていない。

【持続性】

- ・ゴマ生産はプロジェクトが開始する前から、重要な作物として認識されており、さまざまな活動が行われてきた。プロジェクトについては、ゴマ生産に関する部門ごと、カウンターパートが選ばれており、プロジェクト終了後にも、対応する部署が成果を引き継いでいける。プロジェクトの活動に関しては、今後ナショナルプログラムに取り入れることができれば、継続的に実施されるのではないかと。（Mr. TINGRI）
- ・DGPER 内部には普及の専門家がおり、プロジェクトで提供されている技術も決して新しいものではない。INERA には研究設備が整っており、ゴマの品質基準の検査が実施可能である。資金だけが問題である。（Mr. YIGO）

【活動実施の課題】

- ・JICA は予算の執行に関して柔軟になるべき。活動に必要な予算を（DGPER に）提供すれば、今後の活動もより円滑に実施することが可能。（Ms. MOUKIAN）

- ・ 今後はプロジェクトのモニタリング評価のガイドライン（プロジェクトの成果を測るためのガイドライン）を作成すべき。以前、それを作成するためのワークショップを開きたかったが、予算不足により実施できなかった経緯がある。（Mr. YIGO）
- ・ プロジェクトの各コンポーネントのシナジー効果が不足している。情報共有が十分になされていないため、関連するカウンターパートの部署で、持っている情報に差がある。報告書が届いていないため、質問票への回答が困難であった。（Ms. MOUKIAN）
- ・ 予算不足は国家レベルの問題であって、DGPER 内部で解決できることではない。JICA は予算について柔軟性をもって、活動予算の配賦を行ってほしい。（Mr. OUATTARA）
- ・ 農民に対して、収穫後処理の技術を伝えることが重要なので、今後この部分の活動を強化してほしい。また、ゴマを生産する別の州にも支援を拡大してほしい。（Ms. MOUKIAN）

【PDM 改訂、Validation Meeting について】

- ・ ベースライン調査は JICA によって実施されたが、双方参加の下で実施すべきであった。ベースライン調査の TOR 作成、コンサルタントの選定までは関与したが、それ以降は結果の報告を受けただけである。（Mr. YIGO）
- ・ 指標の設定のための PDM の改訂については、ベースライン調査結果の承認が先決。
- ・ 総務・経理室室長 Mr. OUATTARA に DGPER の予算、プロジェクト予算に関する情報を依頼。6/9 以降に回答予定。

日時 6 月 6 日 16:20 ~ 17:20

場所：Koudougou

面談相手：Mr. OUEDRAOGO Oumar（生産室室長 / INERA）

Mr. MININGOU Amos（研究員 / INERA）

【プロジェクトへの関与】

- ・ Mr. OUEDRAOGO は JCC メンバーとして、Mr. MININGOU は活動の実施者として、それぞれ別の役割でプロジェクトに関わっている。
- ・ Mr. OUEDRAOGO は JCC のメンバーとして、JCC に出席しているが、プロジェクトの報告においては、実際に研究に参加した INERA の名前が出てこないことが不満。
- ・ INERA の専門家は各自の研究に予算の配賦がある。

【活動の進捗、成果の達成】

- ・ プロジェクトの実施において、各アクターの間での正しい共通理解を醸成することが重要。
- ・ モニタリング評価のためのガイドラインを作成する必要がある。
- ・ 品種のナショナルカタログの登録について、およそ 50 品種が研究されており、少なくとも 2 種が 2018 年までに登録完了される予定。

【持続性】

- ・ INERA としてプロジェクトへの予算の配賦はないが、プロジェクトの目標は INERA にとっても重要なので、自力で予算を獲得して継続実施をしていかなければならない。
- ・ INERA においても、資金面の課題は大きく、今後も資金の支援は必要である。

【活動実施の課題】

- ・ 種子の品種選定においては、学生が関与しているが、プロポーザルで資金を獲得し、自力で実施した。
- ・ 新しいゴマ種子の品種に関しては、ニーズがあれば需要が生じ、資金獲得の機会も出てくる。INERA では、PPP（Public Private Partnership）で、ゴマを生産し販売を行いたい。

- ・ゴマ種子の生産資金を事前に農家に支払い、生産をしてもらう仕組みも重要である。

【投入】

- ・プロジェクトが提供した冷蔵庫、農業機材等に感謝している。適切に活用されている。
- ・本邦研修は、輸出に関する情報交換が中心であった。

日時 6月6日 16:20～17:20

場所：DGPV

面談相手：Mr. ZOUNGRANA Urbain（上級農業技術者 / DGPV/DVRD）

【プロジェクトへの関与】

- ・Mr. ZOUNGRANA氏は、研修の計画・立案、教材作成、講師選定、実施、モニタリングの各プロセスに参加している。ただし、対象農家選定には関与していない。

【活動の進捗、成果の達成】

- ・プロジェクトの活動は1年目に比べると、2年目は円滑に進行しているように思う。
- ・プロジェクトの研修は、対象農家のニーズを適切に満たしてはいるものの、マーケティング、有機たい肥の準備、会計管理などについては、十分にカバーできていない。
- ・研修後のモニタリングは実施されたが、フォローアップはできていない。ZAT/UATが実施する計画であったが、認識の違いから、彼らが活動するための予算が確保できていなかった。
- ・プロジェクトは、プロジェクト予算と国家予算を分けずに支出できる仕組みがあるとよい。同じ目的で活動をしているものの、政府側の予算不足で、カウンターパートの参加が限られてしまう。
- ・ZAT/UATのモニタリング・フォローアップに関しても、ガソリン代だけでも提供できれば、状況は改善される。

【連携体制】

- ・DGPVとINERAの連携があまりない。また、DGPERとのコミュニケーションは種子生産農家に修了書を発行するときのみである。
- ・日本人専門家とのコミュニケーションについては、全く問題がなく、随時連絡を取っている。

【持続性】

- ・プロジェクトの提供する技術、普及のアプローチは、過去に別のNGOが実施しており、全く新しいものではないため、その点の持続性については問題ない。
- ・予算については、確実なことを言える立場にないが、不足しているのは間違いない。
- ・プロジェクトの目的と、DGPVの目的は合致していることから、プロジェクト終了後も同様の活動を継続していくことは可能である。プロジェクトの成果をさらにスケールアップしていくこともできるが、やはり予算が課題。ただし、州での活動は、州農業局の方針と合致していれば、継続されるものである。
- ・活動の作業手順を記した、プロジェクトのManual of procedureを作成する必要がある。
- ・プロジェクトは情報共有の仕組みを改善していく必要がある。
- ・能力強化の対象を農民のみならず、関連するアクターに拡大するべきである。特に政府関係者の能力強化、本邦研修は、彼らのオーナーシップの向上にもつながると考える。

日時 6月7日 13:30～14:00, 14:55～16:20

場所：DRAAH HB

面談相手：MALO Théophile（農業エンジニア / DRAAH/HB）

【プロジェクトへの関与】

- ・フォーカルポイントとして、州の活動の調整、データ、情報の収集を実施。

【活動の進捗】

- ・昨年の研修に参加した中核農家のうち、5月1日締め切りの種子生産農家の登録用紙を提出した農家は0件。理由は不明であり、確認をしなければならない。
- ・種子生産農家の登録の資格は種子生産研修を受けてから3年間であるため、今年登録しなかった農家は、翌年に登録が可能。
- ・FFSの実施記録はあるが、モニタリングについては問題がある。ZATの活動予算が限られていることから、十分な活動はできていない。

【活動実施上の課題】

- ・栽培技術、種子生産の研修を通じて、ゴマ生産に関する農家の意欲は高まっている。
- ・HB州では、ゴマの買い取り業者を対象としたセミナーが一回開催された以外、マーケティングにかかわる研修はほとんど行われていない。ゴマのマーケティングの能力向上はBMで取り組みが始まっているが、HBでも欠かせない。
- ・(本年は認証種子の生産が既にできないが) ゴマの種子生産については、各グループで2名のゴマ生産農家は多すぎる。グループ内で2名が種子を生産した場合、供給過多になり値段も安くなる。
- ・認証種子のメリットを理解してもらう必要がある。認証種子であれば、量は少ないが政府が高値で購入するし、企業に売ることにも可能。ゴマ種子のマーケットについても、農民を教育する必要がある。また、農民のみならず、買い取り業者も含むあらゆるレベルで認証種子が必要であるという認識を持ってもらわなければならない。(POUYA氏コメント)
- ・買い取り業者の保管方法が不適切で、種子の損失を招くことがあるため、買い取り業者への指導や、農薬管理の研修の必要性もある。
- ・ZATに対するトレーニングを実施する必要がある。
- ・フォーカルポイントに日当を支払うべき。

【本邦研修】

- ・本邦研修、およびルワンダでの第三国研修に参加した。
- ・日本では、生産から収穫後処理までのゴマの栽培に関する日本の優良事例を学んだ。帰国後にワークショップやプレゼンなどはしていないが、研修講師をサポートする際に、経験をシェアした。
- ・ルワンダでは農民学校の運営について学んだ。この研修で得た知見は、現場での活動に役立っている。

【持続性】

- ・プロジェクト終了後に、同様の活動を州局が継続的に実施していける可能性は低い。専門的な部分においては、専門家のサポートが必要であり、普及員が活動するための予算の確保も困難。

日時 6月8日 9:00～10:30

場所：Houet 県 Binkadi

面談相手：Mr. NAON Yacouba（中核農家／ Houet 県 Binkadi）

Mr. BANA O Bédémé（中核農家／ Houet 県 Binkadi）

一般農家（男性 19 名、女性 5 名）

【地域の生産物】

- ・地域の主な生産物は、ソルガム、メイズ、綿花、ゴマ、コメ、ナッツ、マメである。この内、ゴマの優先度は第4位。（1. ソルガム、2. メイズ、3. 綿花、4. ゴマ。）女性グループは大きな土地を必要としない、ナッツやマメを主に生産している。
- ・ゴマは重要な収入源として毎年生産面積は増加の傾向にある。ただし、生産性は増えていない。
- ・生産したゴマは、村にホールセラーが来た時に、値段次第で販売するため、マーケットに行くことはない。昨年は 400～650FCFA / 箱、一昨年は 500～800FCFA / 箱であった。
- ・普及員は種まきの時期、施肥の時期、収穫の時期に来る。その他に、必要に応じてコンタクトを取り、来てもらうこともある。

【研修で学んだこと】

- ・FFS においては、種まきの時期を 7月15～30日にするべきということ学んだ。そのため、別の作物の播種の計画を調整し、この時期に種をまくようにする。（中核農家）
- ・その他にも、畝の作り方、たい肥の利用による品質の違いを理解した。（一般農家）
- ・研修で配布されたマニュアルは、いつでも参照できるように保管している。ただし、もっといろいろなことをカバーしたマニュアルが欲しい。
- ・研修では農薬に関するテーマがなかった。トレーニングで学んだことを実践に移す際には、投資も必要である。どの農薬を使うかをよく考えて買わなければならない。
- ・生産者手帳やファシリテーターノートは教えられたとおりに使っている。

【FFS/FBS】

- ・中核農家による FFS/FBS は初めての経験なので、参加者を集めるのが難しかった。（中核農家）
- ・中核農家による FFS/FBS は、経験したことのない取り組みなので、結果が分ってから参加した。参加農家に良い結果が出るようなら、今後参加したい。（FFS/FBS に不参加の農民）
- ・FFS/FBS で学んだことについて、さらに知りたいこと、疑問点などがあった場合には、一般農家は中核農家に、中核農家は ZAT に連絡を取り、教を乞う。

【種子生産について】

- ・種は農業局のエージェントから購入している。ローカル種子は 600FCFA、エージェントから購入する認証種子は 2,500FCFA だが、質の良い種を使った方が有利であることを理解している。また、村に農業局の倉庫があるため、種の入手は容易。
- ・村内で中核農家は 2 名で、その 2 名が種子生産をすると、村内ですべて販売することは困難。ゴマ種子の相場は、村内で 400FCFA、ボボデュラツツで 550FCFA だが、どうやって村の外に売るか知らない。
- ・中核農家は昔から種子生産を行っていたが、今年はコメの種子生産登録を行った。ゴマの種子を生産するためには、検査官に来てもらう必要があり、お金がかかる。また、そのお金を回収できるのは 8 カ月後になる上、虫害などですべを失うリスクもある。また、昨年生産した種子がまだ 2 箱ほど残っているため、今年はゴマの種子生産登録は行わなかった。
- ・綿花は販売の相場が決まっているので安心して生産できるが、ゴマは毎年価格の変動があるため、ギャンブルのようなもの。

(※補足：綿花は国内でも需要があり流通の仕組みが出来上がっているが、ゴマは輸出が多いため、国際的な価格の変動に影響を受ける。)

日時 6月8日 14:15～15:15

場所：DRAAH HB

面談相手：Ms. ZAMTAKO/HIEN A. Noellie [FFS 研修講師（農業部門）]

Mr. SAWADOGO Souleymane（種子生産研修講師）

Ms. TRAORE Memouna（種子検査官）

【研修参加者の意欲・態度】

- ・研修参加者の意欲は高く、毎回すべてのグループが参加した。頻繁に質問も挙げられ、研修の態度にも問題はない。ただし、フランス語を話せない参加者もいたので、その点で理解度が十分でない参加者もいた。

【研修の実施】

- ・研修においては、特に教材は使っておらず、実践的な指導を行った。コンピュータで資料を見せることはあったが、配付は行っていない。
- ・研修のコンテンツは、事前に農業局の Mr. MALO 氏（プロジェクトのフォーカルポイント）とすり合わせを行って、決定した。
- ・研修の時間が限られており、全ての内容をカバーするために、簡単な説明にとどめた項目もある。

【今年の研修について】

- ・3名とも今年の研修講師を務める予定。種子生産の理論研修はすでに実施済み。
- ・今年から農業管理を研修の内容に加えた。
- ・FFS/FBS を通じた普及体制については、仕組み自体は良いものだと思う。ただし、普及員によるモニタリング・フォローアップをしていかなければならない。

【ZAT の意見】

- ・Mr. SAWADOGO は、Houet 県農業局の所属。8 地域、約 1,000 名の農家のサポートを担当している。担当地域のうち、最も近い場所が 20km 最も遠い場所が 45km ほど離れており、週 7 日中 5 日はフィールドに出て、農民への指導を行っている。
- ・HB 州では、Houet 県 13 名、Tuy 県 7 名、Kenedougou 県 13 名の ZAT がいる。
- ・移動の手段はバイクであるが、このバイクは個人所有のもの。通常の活動でもあまり予算がない。
- ・担当地域に別の用件で訪問した際に、FFS/FBS のフォローアップはできないか？という質問に対して、他の地域に行く道中で立ち寄って、ごく簡単なフォローアップは可能である。とのこと。

【研修講師の経験】

- ・3名とも、他ドナーのプロジェクトに参加した経験があるが、ゴマ関連のプロジェクトへは参加したことはない。

【今後の改善点】

- ・FFS/FBS、種子生産の研修の後、マーケティングに関する能力強化を行う必要がある。また、3 層の保管袋を使った種子の保管方法も重要である。前年に生産した種子を適切に保管する方法を指導するべき。

【その他】

- ・ Ms.TRAORE（種子生産検査官）は、HB 州 3 県の種子生産検査を担当。農民から州農業局に提出された種子生産登録申請書は、彼女が取りまとめ中央政府に提出する。最新の登録リストを共有依頼済み。

日時 6 月 8 日 15:20 ～ 16:40

場所：DRAAH HB

面談相手：Mr. RAMDE Souleymane（FFS/FBS 研修講師）

Ms. DA/SANKARA Martine（FFS/FBS 研修講師）

【研修参加者の意欲・態度】

- ・ 研修参加者は学ぶ意欲が強く、教えたことを積極的に受け入れる姿勢が見られた。研修の実施中にはたくさんの質問が出され、良い研修だったと思う。

【研修の実施】

- ・ 研修の準備においては、日本人専門家、関係者と詳細な議論をして決めている。研修に用いる教材についても、話し合いの下で決めている。
- ・ 研修で指導するときを使う、3 層保管袋などは自分で購入して、活用した。

【研修の課題】

- ・ フランス語が分からない参加者は、フランス語の分かる参加者とペアを組ませるよう工夫をしながら、指導を行った。
- ・ フランス語を理解しない中核農家が、指導された内容を記憶しなければならないため、数日後に忘れてしまうということもありうる。
- ・ 各グループ 2 名を対象とすることで、知識の損失を防ぐようにしている。
- ・ 農民は ZAT を信頼しているため、研修の内容を ZAT が保証すれば、受け入れられやすい。

【プロジェクトの普及体制】

- ・ 中核農家が一般農家を指導する仕組みは新しいもので、中核農家のオーナーシップが重要。また、モニタリグを継続的に行っていくことも必要となる。
- ・ 中核農家の能力にも差があることから、その点において全ての地域で均一の成果を出すことは難しい。すべての中核農家が、指導が得意というわけではない。
- ・ Mr. RAMDE は、これまでに 2 カ所のフォローアップしかできていない。
- ・ モニタリング・フォローアップの必要性については、しばしば議題に挙がっている。研修後のフォローアップはプロジェクトの普及体制の鍵となるが、時間も予算も限られており、実施が困難。

【今年の研修について】

- ・ 昨年の経験を活かし、今年はイラストを多用した教材を準備した。
- ・ 中核農家の選定においては、フランス語能力を十分に確認した。

【研修講師の経験】

- ・ 2 名ともに、他ドナーによる農業関連のプロジェクトに参加経験がある。特に、Ms.DA は、GIZ/PDA にも関わった経験があり、その経験を本プロジェクトにおいても役立てている。

【今後の改善点】

- ・ 州農業局との MOU を締結するべきである。
- ・ JCC への参加機会がないため、プロジェクト関連の情報の入手が難しい。

- ・講師の謝金に不満がある。これは、モチベーションにも関わるので改善してほしい。教材の準備にもお金がかかるし、6:00～18:00まで仕事をしている。
- ・モニタリング・フォローアップの体制を整えるべき。
- ・ZATの関与を促し、モチベーションを高める工夫が必要。

【本邦研修】

- ・(Mr. RAMDE) 10日間の研修に参加し、多くのことを学んだ。帰国後には、報告書を作成し、州局長への報告を行った。特にワークショップなどはしていない。研修で学んだことは、日常の業務に役立てている。
- ・研修中に、一緒に研修に参加した DGPV、DGPER、DRAAH との議論を頻繁に行った。

日時 6月12日 10:30～11:45

場所：ワガドゥグ市内専門家作業場

面談相手：土方野分専門家（営農／栽培）

【プロジェクト事務所について】

- ・DGPER内の事務所が手狭で、作業スペースの確保が難しくなってきたことから、2017年4月より別途作業場を準備した。

【活動の進捗】

- ・INERAとの共同は順調に進捗。INERA職員のモチベーション、オーナーシップは高い。
- ・研究のパートと普及のパートに時間的なギャップがある。研究活動を通じて明らかになったことを、普及研修の内容に反映させるための十分な時間がない。今年の研修教材には、一部研究の成果（播種時期、施肥など）が反映されている。
- ・INERAは全体としてオーナーシップは高いものの、動きは遅い。
- ・INERAはモチベーションも高く、やるべきことを認識しているので、理想を掲げた活動をしたがるが、その計画を裏付ける、人的、物的、資金的な裏づけがない。

【活動計画と現状のギャップ】

- ・本プロジェクトは過去に ABE イニシアティブが出た際に、限られた時間で計画を策定した。最初の段階で十分な手続きに従った計画策定が行われなかったのかもしれない。

【実施体制】

- ・INERAとのプロトコルが締結されたが、JCCのメンバーに任命されたのはアドミニ系職員(Dr. OUEDRAOGO)で、現場で一緒に活動をしている研究者(Dr. MININGOU)ではなかった。このことが原因で、JCCにおける情報共有の部分で課題が残る。
- ・プロジェクトが開始してから、長期直営専門家の月井芳文専門家が離任した。このことにより、プロジェクトのもともとの設計と、現在の活動の方針に若干の違いが生じてきている。

【土方専門家の活動】

- ・土方専門家の任期は、2018年6月まで。
- ・任期満了までに「最低一品種の品種登録の準備」をしたい。INERA研究者にそのノウハウが残るように、メソッドがINERAに残ることが、活動終了時の到達点。
- ・具体的には、CNSへの手続きはINERAが実施することを想定しているため、INERAが必要なデータを整理できるところまで、技術移転を行う。

【品種登録について】

- ・品種登録のシステム自体は、頻繁に変わる。今年また仕組みが決定された模様。申請に必要なデータは、年に二回実施されるCNSの定例会で議論され、品種登録が行われる。ただし、

定例会では別の議題も議論されるため、品種登録の検討までいかないこともあり、その場合には次回の定例会に回される。

- ・申請に必要なデータは、DHS テスト、VAT テストの2年分のデータと、栽培に関する技術仕様書。
- ・国家品種カタログは2019年に更新予定。このカタログには、次回より「食用」「搾油用」といった、品種の主な用途についても明記される予定。
- ・現在の有望な品種は、「KDG3」「GMP3」「MKD 2」（搾油用）、「Leo2」（食用）である。一年目のデータは整理してあり、今年のデータは整理・分析中。
- ・「食用」「搾油用」を分けた活動としては、試験を分けて行っていること。食味試験を行っていること。
- ・「S42」は、実は油分が少ないことが分かった。

【INERA について】

- ・INERA 研究者で、プロジェクトに関与しているのは6名の研究者。一人ひとり観察方法の違いがあるなど、スタンダードが統一されていないため、国際スタンダードを導入し指導。
- ・INERA には経常予算がなく、各研究者が研究予算を外部から獲得する仕組み。そのため、持続性の確保は難しい。ただし、マニュアルなど、技術的に残るものは今後も活用される見込み。
- ・原種生産はINERAの予算で実施していることから、この部分へのインプットも行っている。

【プロジェクトの実施体制】

- ・プロジェクトチーム内での活動のインテグレーションの議論をしている。プロジェクトのパッケージの中で、各成果を統合させることは重要であると考える。
- ・プロジェクトの構造として、日本のゴマ産業も受益者の一部。ゴマフィリエールの強化を通じて、経済的なつながりを残すことが理想。中長期的なビジョンとして、INERAの研究を通じて、日本が買いたいと思えるようなゴマを作っていけることが望ましい。行政に知見が残らないのであれば、経済に残していくという視点が必要なのではないか。
- ・例えば、成果4の指標についても、たとえ規模は小さくとも「日本とブルキナファソでビジネスとしてつながった事例」というものがあっても良いのではないかと。

日時 6月13日 14:00～15:30

場所：DRAAH BM

面談相手：Mr. SANOU Kointani（BM州フォーカルポイント）

【プロジェクト活動の進捗・課題】

- ・フォーカルポイントとして、日本側と、現場カウンターパートの活動の調整を担当。
- ・調整の対象は日本人専門家、ブルキナファソ側は、講師、中核農家、DGPER フォーカルポイント。
- ・日本人専門家の活動に、ブルキナファソ側が参加できないこともあり、その部分の調整が困難なことがある。
- ・情報の共有については、州農業局長を通すべき。局長を通して、プロジェクトの活動を実施することが望ましい。
- ・FFS/FBSの実施においては、農民への参加を促す工夫が必要。例えば、研修後の食事提供などのサポートを実施するなど。FFS/FBSによる技術普及アプローチは決して新しいものではない。

【持続性】

- ・ゴマ生産者のトレーニングは、別のパートナーとの共同で実施してきた経験がある。農業省としても、ゴマを重要な作物として位置づけていることから、ゴマ農家への支援は行っている。ゴマの新しい品種を根付かせるための能力を、DRAAHは有している。FFS/FBSのアプローチは資金的な課題がなければ、継続させていくことが可能。
- ・研修成果の継続については、普及員（ZAT/UAT）によるモニタリングをプロジェクト活動に取り込むのが良いのではないか。
- ・地域におけるゴマの優先度は高く、農民たちは増産に向けて学ぶ意欲が高い。

【その他】

- ・ゴマの作付面積については、生産者や組合によって異なる。面積を広げるためには、種子、たい肥、農薬などの投入が必要になる。そのためには、組織的な取り組みが必要になってくる。
- ・ワガドゥグで行われたゴマ関係のセミナーでは、本プロジェクトの中核農家が、組合から選ばれなかったことに対する質問が出た。ただし、本プロジェクトの農民選定は明確なクライテリアに従って実施されている。技術サポートの必要性から、組合を通さずに選定した。
- ・(参考) 組合は国レベル、州レベルで存在している。DRAAHのつながりはない。農民は希望すれば加入することができる。

日時 6月13日 14:15～15:15

場所：DRAAH BM

面談相手：Mr. SAWADOGO Oumarou（BM 州局長）

Mr. KONE Bakassa（Mouhoun 県局長）

【コメント】

- ・ゴマ生産支援プロジェクトは、BM州にとって重要なプロジェクト。ゴマの品質を向上させて、国際市場の中で競争力を付けていきたい。
- ・プロジェクトの中間地点ということで、これまでの活動を活かし、次のステップに進んでほしい。

【ゴマセクターの重要性】

- ・ゴマは、生産農家にとって、収入面、栄養面、フードセキュリティーの面で重要な作物。ゴマセクター自体が成長しておりヘクタール当たりの収量が上がれば、生産するメリットも大きくなる。
- ・ゴマフィリエールの整備も進んでおり、ゴマの作付面積も増えている。それにより、農民の収入面でのインパクトも大きくなっている。
- ・地域にとってのゴマの優先度は、①換金作物（ゴマ、綿花、ナッツ、ダイズ）、②穀物（ソルガム、ミレット、コメ）と分けて考える必要がある。①換金作物の中では、ゴマは綿花に次いで、第2位の重要度である。
- ・ゴマの用途は、主に輸出用（用途を分けない販売用）であるが、セレモニーの際にゴマを食すこともある。また、ゴマのビスケット（ゴマを砂糖で固めたお菓子）を作って、販売することもある。そのため、プロジェクトによる食用ゴマの品種改良にも期待をしている。

【ゴマ生産の課題】

- ・ゴマの生産には手間がかからないメリットがある。一方で、種子の入手、品種の改良、収量向上に向けた技術開発に改善の余地がある。具体的には、播種時期、害病虫害の予防、収穫後の保管の改善が必要。

- ・生産後のマーケティングが弱い。値段が安定しないことが課題であるため、フィリエールがうまく機能するようになれば、ゴマの生産量は向上される見込み。
- ・去年はゴマの販売価格が下がったことから、生産量も下降した。

【UAT/ZAT について】

- ・普及員の活動は、他のパートナーとの連携で実施している部分もある。
- ・UAT/ZAT を対象とした能力強化研修も必要である。とくに、ZAT の能力強化の要望に合わせた、ボトムダウンの研修が必要である。
- ・BM 州の 6 つの県で、合計 47 名の ZAT、160 名以上の UAT が活動をしている。
- ・ZAT/UAT のプロジェクト活動への関与については、メモランダムでコミットメントのスコープを決める必要がある。

【ゴマバリューチェーンについて】

- ・州、県それぞれのレベルで、組合（Union）があるが、各 Union のつながりも弱く、マーケティングの面で改善の余地がある。

日時 6 月 13 日 16:35 ～ 17:30

場所：DRAAH BM

面談相手：Mr. COULIBALY Saïfoulaye（FFS/FBS 研修講師）

【研修の実施】

- ・2016 年には、6 ～ 7 回の FFS/FBS 研修、2017 年には 1 回の FFS/FBS 研修の講師を担当。2017 年は全 7 回の研修を予定している。

【参加者の態度、意欲】

- ・参加者の意欲は高い。去年は、研修準備に十分な時間がなかったが、今年は十分な準備をして研修の実施ができている。別のプロジェクトの研修と比べると、食事や宿泊のサポートがないが、参加者はそのことを理解した上で、研修に参加している。
- ・研修参加者の選定は適切。ただし、フランス語を理解しない参加者もいたことから、理解度については十分ではない部分がある。
- ・今年は、十分にフランス語の読み書き、会話ができる参加者を選定した。
- ・研修実施の課題としては、研修で指導した内容を実践する際に、天候などの条件により学んだことが適切に活かさないケースがある。また、参加者の一部（4 名）は、研修の理解度に問題があり、指導したことを適切に実践できなかった。
- ・去年の経験を活かして、教材にイラストを多用するなどの改善をしている。

【研修講師について】

- ・Mr. COULIBALY は、1989 年から農業研修を担当しており、豊富な経験がある。また、GIZ/PDA においても、研修講師を担当している。
- ・研修の実施における、アシスタントはいない。研修の内容によっては、別の講師と一緒に研修を行うことはある。

【プロジェクトの普及アプローチについて】

- ・プロジェクトのアプローチは適切である。ただし、ZAT/UAT によるフォローアップのサポートをする必要がある。
- ・一度の研修で全ての知識や技術を移転することは難しく、研修を行った後のフォローアップは重要。

日時 6月13日 9:30～10:00

場所：Passakongo

面談相手：Mr. TORO Ynoussa (head of UAT デイドゥグ)

【デイドゥグの UAT について】

- ・デイドゥグ県には4名の UAT がおり、県を4つの地域に分けてそれぞれを担当。
- ・Mr.TORO は、10の村を担当。各地域の訪問頻度は、時期によって異なるが、1日に複数の村を訪問することもある。
- ・UAT の通常業務に併せて、FFS/FBS のフォローアップをすることは問題ない。農民のサポートは彼の本来業務の一環である。
- ・UAT は省から任命されている。活動予算は県農業局により配賦される。また、他のパートナーとの契約による、活動予算もある。
- ・UAT の直属の上司にあたるのは、県の農業局長。県農業局が計画を策定し、UAT が任命される。

【担当地域の優先作物】

- ・担当地域の生産物の優先度は、①ソルガム、②綿花、③メイズ、④ミレット、⑤ゴマである。ゴマは販売のために生産している。

【プロジェクトへの関わり】

- ・FFS/FBS には、オブザーバーとして参加したことがある。

【その他】

- ・Mr. TORO 氏は大学卒業後に2年間の農業研修を受けており、ゴマ栽培技術に関する知見を有している。
- ・研修を通じて、農民の知識は向上しており、継続的な研修が望ましい。またコアファーマーの数も増やすことが望ましい。

日時 6月14日 10:00～11:15

場所：Passakongo

面談相手：Mr. SAMA Herassi (中核農家)、Mr. TIBIRI Ernest (中核農家)、一般農家3名

【ゴマの生産、販売状況】

- ・村のゴマ生産は2015年に下降したが、2016年には増えている。販売価格は、2015年が400～420FCFA/Kg、2016年600～650FCFA/Kg。
- ・販売先は、ホールセラーか中国企業。過去3年間は中国企業に販売している。
- ・中国企業は全てを買い取ってくれる上に、価格も有利。
- ・Passakongo の農家のほとんどがゴマの生産をしている。グループ内では53農家が生産。
- ・種子生産の国家登録は、中核農家2名とも完了。認証種子の生産を行っている。生産した種の販売先は、①グループメンバー、②別のプロジェクト、③政府。
- ・綿花と比較すると、ゴマは手間がかからない、投入が少なくて済む、というメリットがある。
- ・ゴマの作付面積について、中核農家は5ha程度。一般農家は2～3ha程度。農作業については、お互いに助け合いながら行っている。労働者を雇用するのではなく、コミュニティ相互協力により、作業は5～10人程度で行っている。

【研修について】

- ・研修を通じて、播種方法、栽培方法、農薬管理、会計管理の方法を学んだ。
- ・国際マーケットで競争力をつけるために生産性を上げたい。さらなる研修をしてほしい。

【認証種子生産について】

- ・認証種子生産のための種子の入手は INERA からの購入である。近隣の INERA まで種子を買いに行く。

【普及員の役割】

- ・プロジェクトの研修でわからないこと、より深く知りたいことがあった場合には、農民は UAT にコンタクトをとるとのこと。また、栽培技術の普及のみならず、販売経路の紹介や種子の入手といった部分も UAT がサポートしている。(農民は UAT を信頼しているという印象)

